

目次

I	調査の概要	1
II	調査結果	2
1	あなたご自身のことについて	2
	問1 性別	2
	問2 年齢	3
	問3 結婚	4
	問4 世帯構成	5
	問5 職業	6
2	男女平等に関する意識について	7
	問6 各分野における男女平等意識	7
	問7 男女共同参画社会を目指すために重要だと思うこと	16
	問8 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方	18
3	家庭生活・子育てについて	20
	問9 家庭生活での役割分担	20
	問10 男性が女性とともに家庭生活等に積極的に参加するためには	28
4	仕事について	32
	問11-1 職場の男女構成	32
	問11-2 職場の状況	33
	問12 男女がともに働きやすい環境をつくるためには	44
5	配偶者・恋人等からの暴力について	47
	問13 配偶者や恋人等からの暴力	47
	問14 暴力を受けた時の相談先	59
	問15 配偶者や恋人等からの暴力をなくすためには	61
6	社会活動への参加について	64
	問16 社会活動への参加	64
	問17 参加に支障となること	73
7	災害について	75
	問18 避難が必要になった時に心配なこと	75
	問19 性別に配慮して取り組む必要があること	77
8	男女共同参画に関する施策について	79
	問20 男女共同参画に関する事項	79
9	男女共同参画の推進について	93
	問21 男女共同参画推進に取り組みが不十分な分野	93
III	自由意見	96
IV	調査結果のまとめと課題	102
V	アンケート調査票	103

I 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、男女共同参画状況及び市民の考え方や実態を把握し、「亀岡市男女共同参画計画～ゆう・あいステッププラン～」が2020（令和2）年度に最終年度を迎えることから、その成果を検証し、今後の施策の方向付けや課題の把握の基礎資料とします。

2 調査対象

亀岡市在住の満20歳以上の男女1,000人を無作為抽出

3 調査期間

2019（令和元）年10月1日から2019（令和元）年10月24日


4 調査方法

郵送により配付し、郵送及びインターネットによる回収

5 回収状況

配布数	回収数	有効回収数	有効回収率
1,000通	343通	343通	34.3%

6 調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・調査結果を図表にて表示していますが、グラフ以外の表は、最も高い割合のものを  で網かけをしています。（無回答を除く）

II 調査結果

1 あなたご自身のことについて

問1 あなたの性別をお書きください。（ご自身が認識する性別についてお書きください。）

「女性」の割合が56.9%、「男性」の割合が42.3%

○全体では

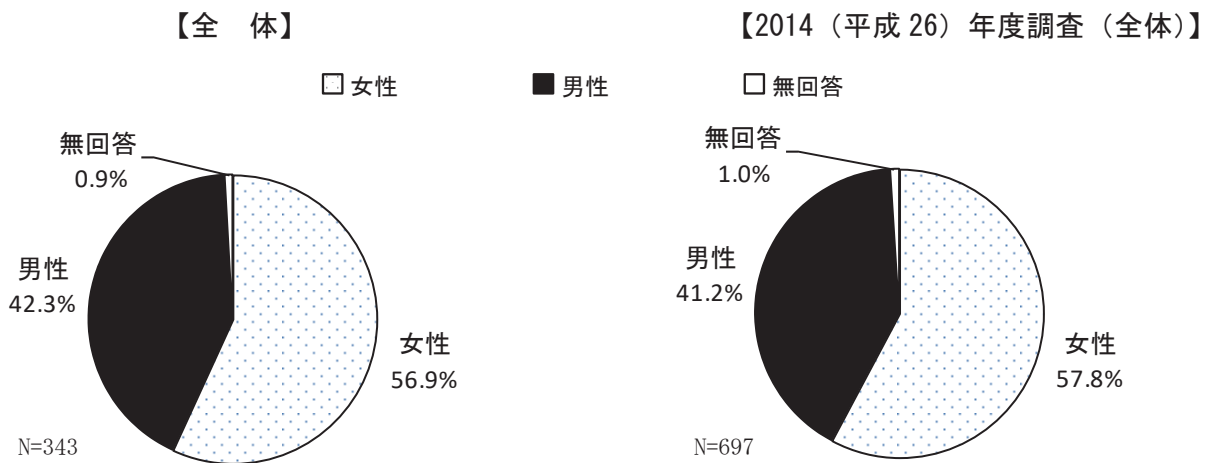
「女性」の割合が56.9%、「男性」の割合が42.3%となっています。

○年齢別では

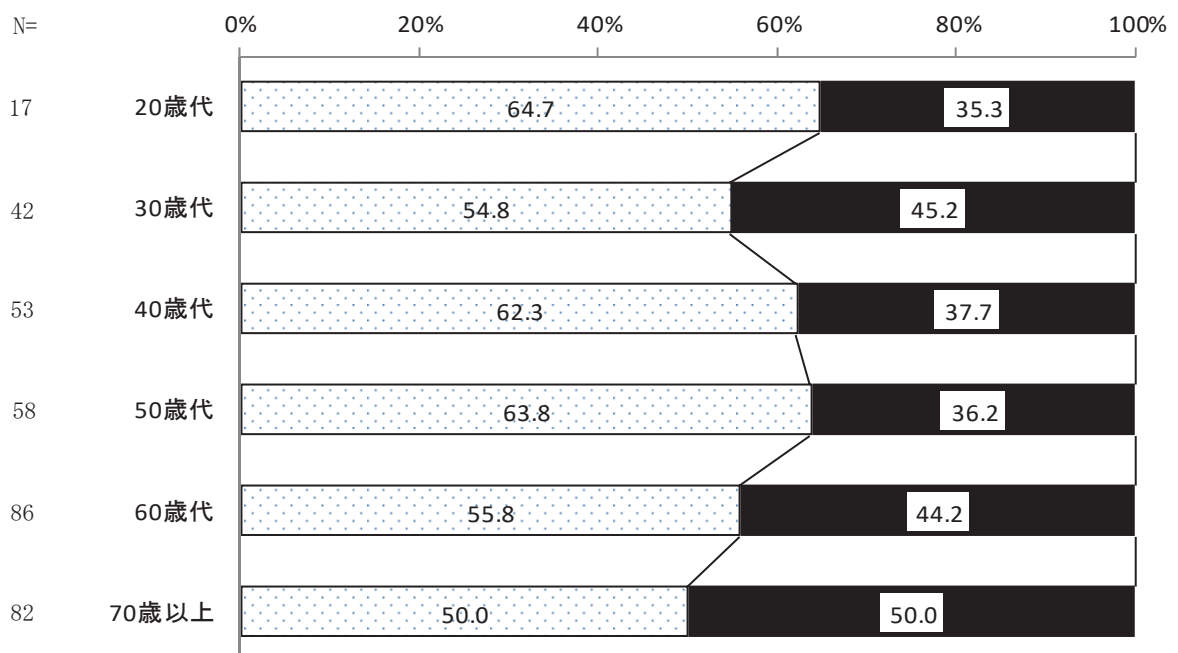
20歳代、40歳代、50歳代で「女性」の割合が高くなっています。

○2014（平成26）年度調査との比較

大きな変化はありません。



【年齢別】



問2 あなたの年齢をお書きください。

49.0%が60歳以上と回答

○全体では

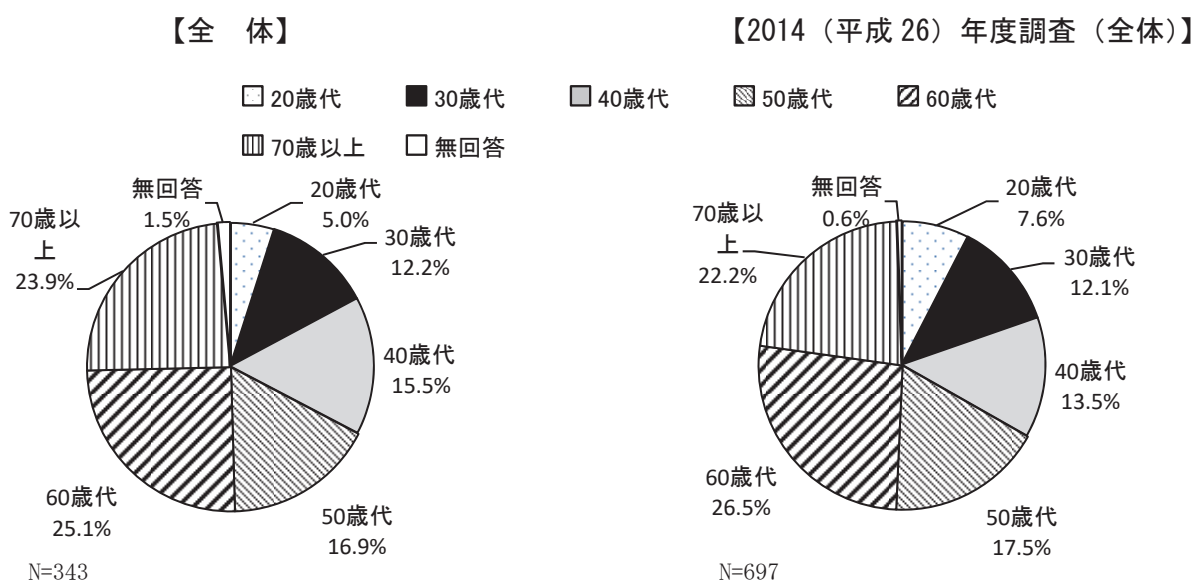
「60歳代」の割合が25.1%と最も高く、次いで「70歳以上」の割合が23.9%、「50歳代」の割合が16.9%となっています。

○性別では

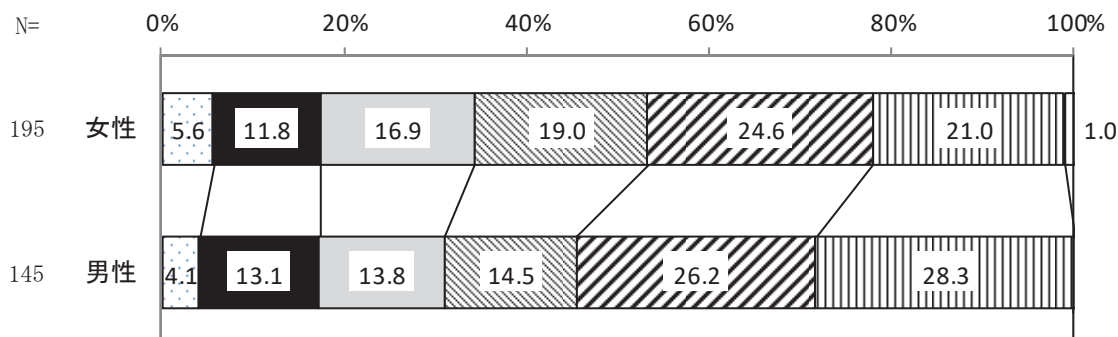
女性に比べ、男性で「70歳以上」の割合が7.3ポイント高くなっています。

○2014（平成26）年度調査との比較

大きな変化はありません。



【性 別】



問3 あなたは結婚されていますか。(1つだけに○印)

77.8%の人が「結婚している」と回答

○全体では

「結婚している（再婚も含む）」の割合が77.8%と最も高く、次いで「結婚していない」の割合が12.8%となっています。

○性別では

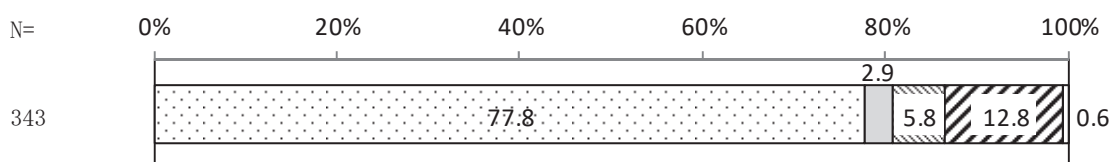
男性に比べ、女性で「死別した」の割合が5.4ポイント高くなっています。

○2014（平成26）年度調査との比較

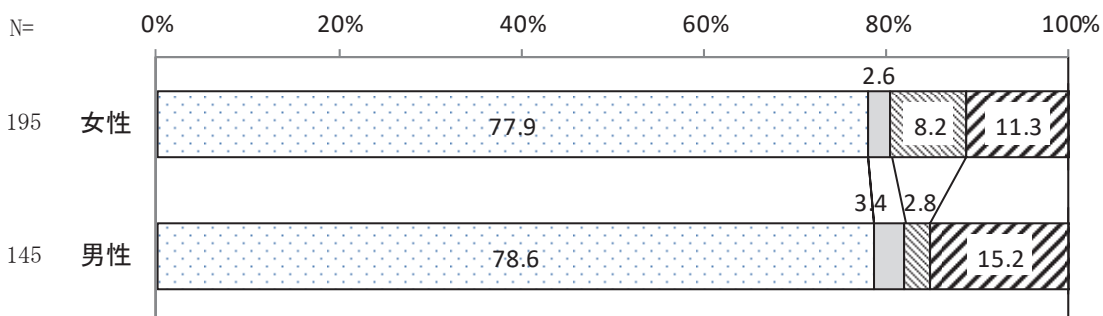
大きな変化はありません。

- 結婚している（再婚も含む）
- 結婚していないがパートナーと暮らしている
- ▨ 離別した
- ▩ 死別した
- ▧ 結婚していない
- 無回答

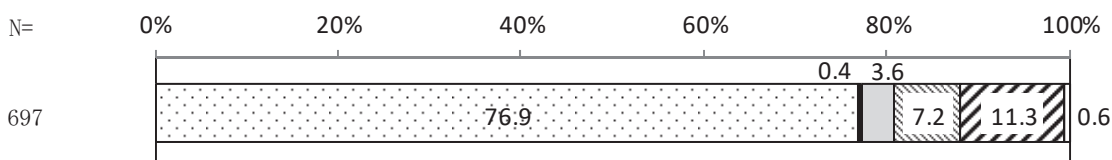
【全 体】



【性 別】



【2014（平成26）年度調査（全体）】



問4 あなたの現在の世帯構成は次のどれにあてはまりますか。(1つだけに○印)

46.6%の人が「2世代世帯(親と子ども)」と回答

○全体では

「2世代世帯(親と子ども)」の割合が46.6%と最も高く、次いで「1世代世帯(夫婦のみ)(事実婚などを含む)」の割合が33.2%、「3世代世帯(親と子どもと孫)」の割合が9.0%となっています。

○性別では

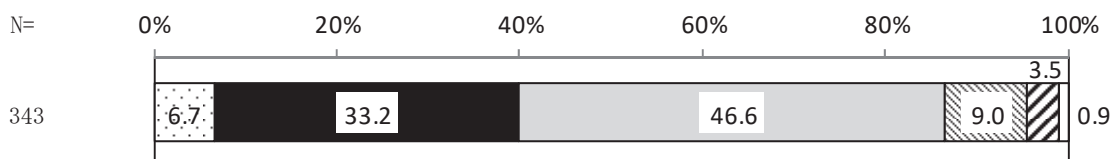
男性に比べ、女性で「2世代世帯(親と子ども)」の割合が8.7ポイント高くなっています。また、女性に比べ、男性で「1世代世帯(夫婦のみ)(事実婚などを含む)」の割合が8.2ポイント高くなっています。

○2014(平成26)年度調査との比較

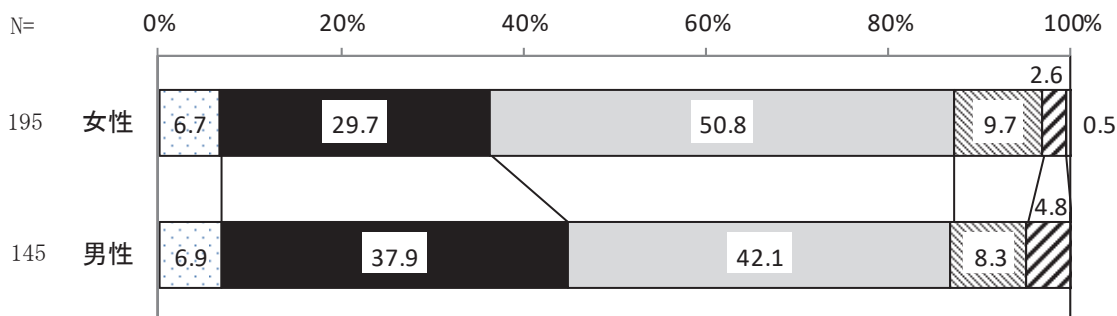
大きな変化はありません。

- 単身世帯(一人住まい)
- 1世代世帯(夫婦のみ)(事実婚などを含む)
- ▨ 2世代世帯(親と子ども)
- ▩ 3世代世帯(親と子どもと孫)
- ▧ その他
- 無回答

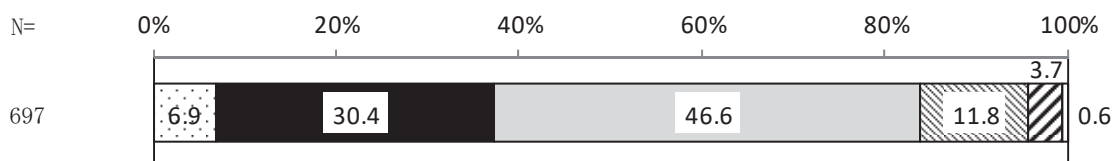
【全体】



【性別】



【2014(平成26)年度調査(全体)】



問5 あなたの職業をお答えください。(1つだけに○印) 2つ以上あてはまる場合は、そのうち主なもの1つに○印をつけてください。

28.3%の人が「正社員・正職員」と回答

○全体では

「正社員・正職員」の割合が28.3%と最も高く、次いで「非正規社員・非正規職員(パート・アルバイト・契約社員、派遣社員など)」の割合が27.4%、「家事専業(主婦、主夫)、家族従事者」の割合が18.1%となっています。

○性別では

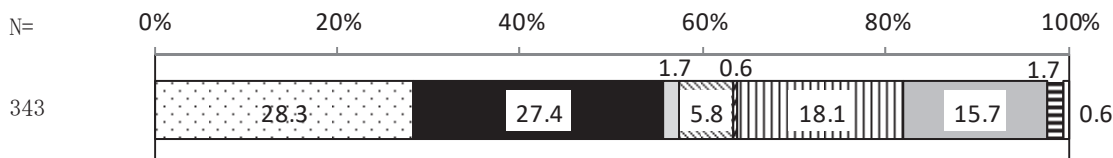
男性に比べ、女性で「非正規社員・非正規職員(パート・アルバイト・契約社員、派遣社員など)」の割合が24.1ポイント、「家事専業(主婦、主夫)、家族従業者」の割合が30.6ポイント高くなっています。また、女性に比べ、男性で「正社員・正職員」の割合が24.9ポイント、「自営業、自由業」の割合が7.7ポイント、「無職」の割合が17.3ポイント高くなっています。

○2014(平成26)年度調査との比較

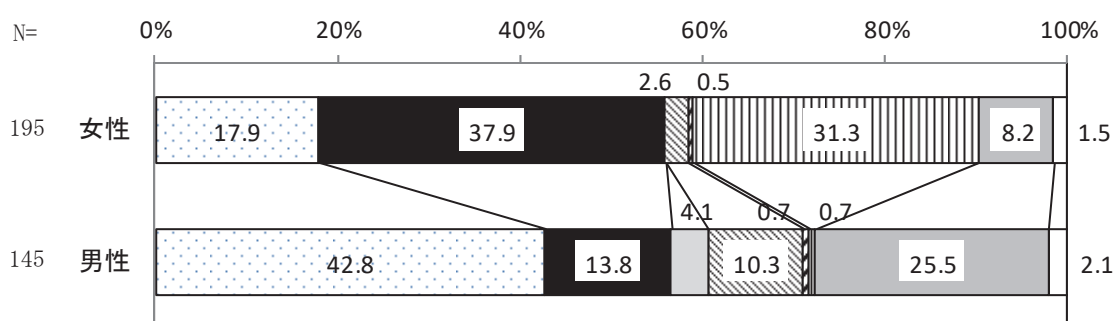
今回調査で「正社員・正職員」の割合が6.5ポイント、「非正規社員・非正規職員(パート・アルバイト・契約社員、派遣社員など)」の割合が7.3ポイント高くなっています。

- 正社員・正職員
- 非正規社員・非正規職員(パート・アルバイト・契約社員、派遣社員など)
- ▨ 役員(法人・団体役員など)
- ▩ 自営業、自由業
- ▧ 学生
- ▦ 家事専業(主婦、主夫)、家族従業者
- ▥ 無職(上記を除く)
- ▤ その他
- 無回答

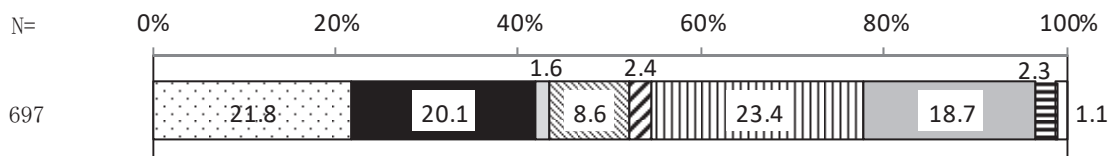
【全 体】



【性 別】



【2014(平成26)年度調査(全体)】



2 男女平等に関する意識について

問6 あなたは、現在、次の分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。(1)～(8)のそれぞれについて、あなたの考えに近いものを選んでください。(それぞれ1つずつに○印)

「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」をあわせた割合を“男性の方が優遇されている”、「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」をあわせた割合を“女性の方が優遇されている”とします。

(1) 家庭生活で

54.2%の人が“男性の方が優遇されている”と回答

○全体では

“男性の方が優遇されている”の割合が54.2%、“女性の方が優遇されている”の割合が7.0%、「平等である」の割合が31.8%となっています。

○性別では

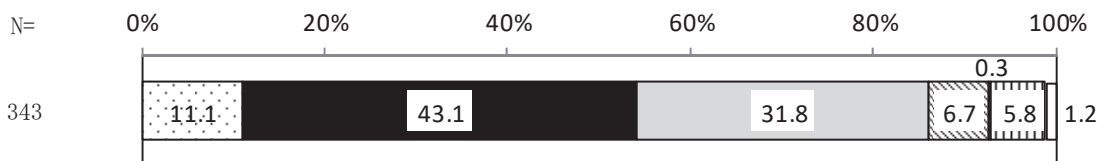
男性に比べ、女性で「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の割合が18.2ポイント高くなっています。また、女性に比べ、男性で「平等である」の割合が22.7ポイント高くなっています。

○2014（平成26）年度調査との比較

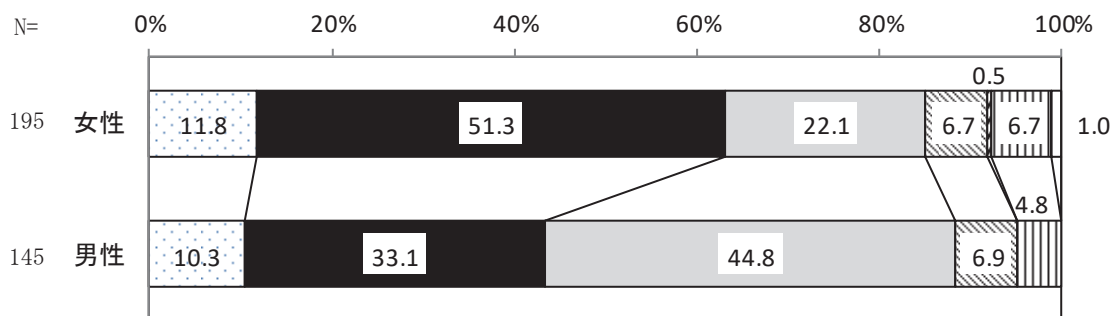
大きな変化はありません。

- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等である
- ▨ どちらかといえば女性の方が優遇されている
- ▨ 女性の方が非常に優遇されている
- ▨ わからない
- 無回答

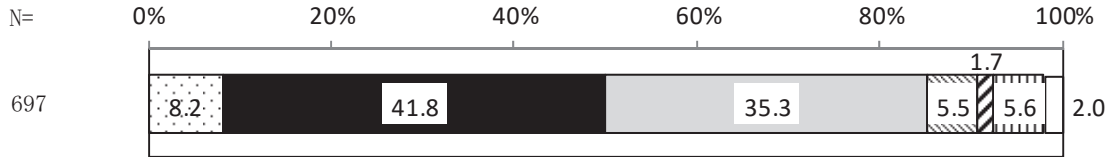
【全 体】



【性 別】



【2014（平成26）年度調査（全体）】



【比較ポイント】

	今回調査	2014（平成26） 年度調査	前回調査との 数値比較
男性の方が優遇されている	54.2%	50.0%	↑
平等である	31.8%	35.3%	↓
女性の方が優遇されている	7.0%	7.2%	↓

コ ラ ム 男女平等に関する意識について（国・亀岡市の比較）

国と比較すると、亀岡市では「（1）家庭生活で」“男性の方が優遇されている”の割合が高くなっています。

一方で、「（2）職場で」“男性の方が優遇されている”の割合が低くなっています。

（1）家庭生活で

単位：%

	男性の方が非常に 優遇されている	どちらかといえば 男性の方が優遇さ れている	平等である	どちらかといえば 女性の方が優遇さ れている	女性の方が非常に 優遇されている	わからない
国	9.3	35.6	45.5	6.5	0.7	2.4
亀岡市	11.1	43.1	31.8	6.7	0.3	5.8

（2）職場で

単位：%

	男性の方が非常に 優遇されている	どちらかといえば 男性の方が優遇さ れている	平等である	どちらかといえば 女性の方が優遇さ れている	女性の方が非常に 優遇されている	わからない
国	13.6	39.8	30.7	4.5	0.5	10.9
亀岡市	8.7	34.1	31.2	5.8	1.7	14.3

資 料：国は、男女共同参画社会に関する世論調査（2019（令和元）年9月）

(2) 職場で

42.8%の人が“男性の方が優遇されている”と回答

○全体では

“男性の方が優遇されている”の割合が42.8%、“女性の方が優遇されている”の割合が7.5%、「平等である」の割合が31.2%となっています。

○性別では

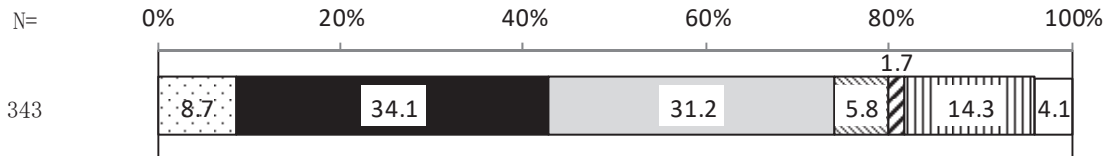
大きな差はありません。

○2014（平成26）年度調査との比較

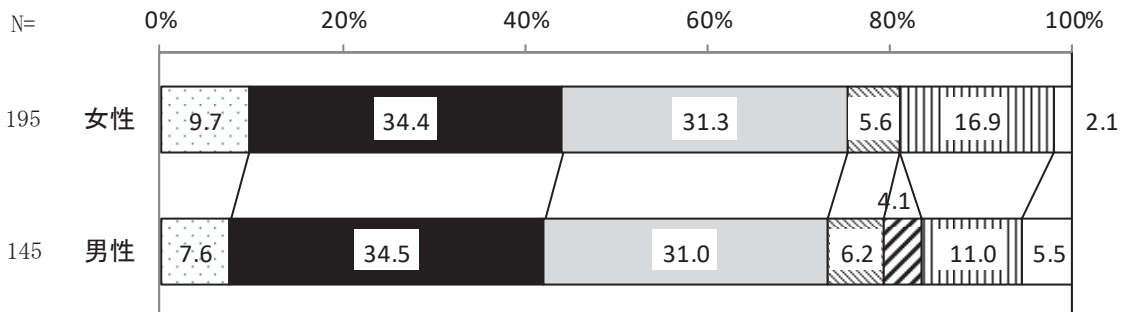
今回調査で「平等である」の割合が6.7ポイント高くなっています。

- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- ▒ 平等である
- ▨ どちらかといえば女性の方が優遇されている
- ▩ 女性の方が非常に優遇されている
- ▧ わからない
- 無回答

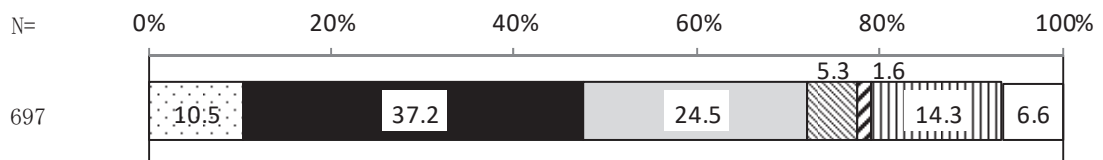
【全 体】



【性 別】



【2014（平成26）年度調査（全体）】



【比較ポイント】

	今回調査	2014（平成26）年度調査	前回調査との数値比較
男性の方が優遇されている	42.8%	47.7%	→
平等である	31.2%	24.5%	→
女性の方が優遇されている	7.5%	6.9%	→

(3) 学校教育の場で

46.9%の人が「平等である」と回答

○全体では

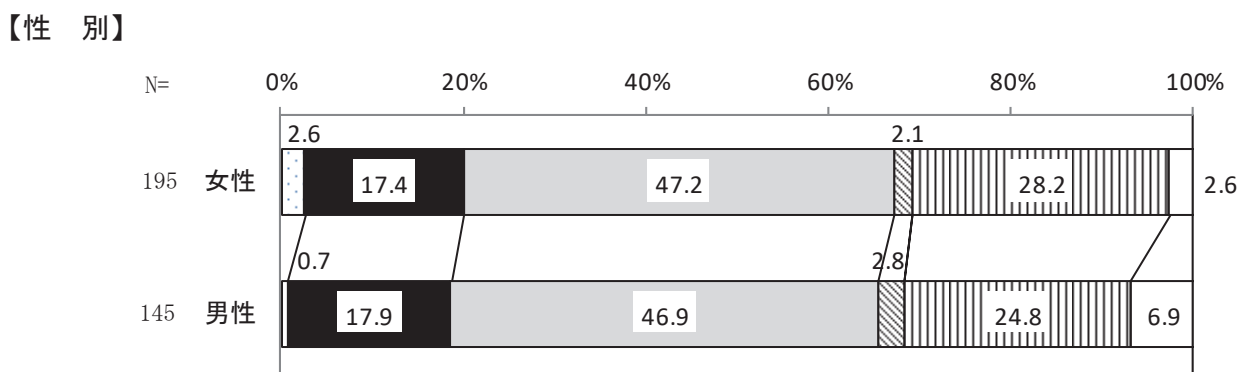
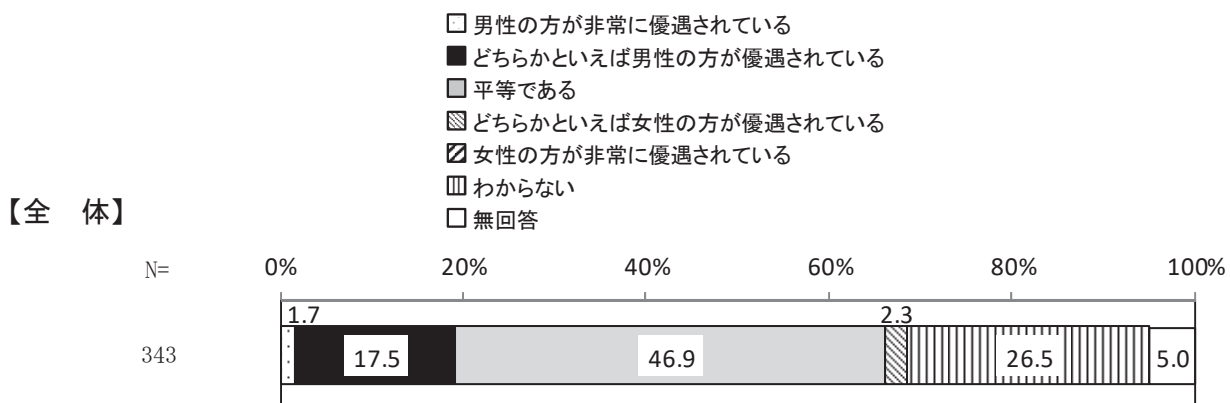
“男性の方が優遇されている”の割合が19.2%、“女性の方が優遇されている”の割合が2.3%、「平等である」の割合が46.9%となっています。

○性別では

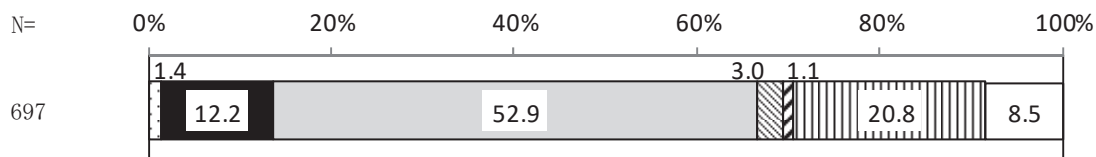
大きな差はありません。

○2014（平成26）年度調査との比較

今回調査で「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の割合が5.3ポイント高くなっています。



【2014（平成26）年度調査（全体）】



【比較ポイント】

	今回調査	2014（平成26）年度調査	前回調査との数値比較
男性の方が優遇されている	19.2%	13.6%	↑
平等である	46.9%	52.9%	↓
女性の方が優遇されている	2.3%	4.1%	↓

(4) 自治会など地域活動の場で※2014(平成26)年度調査では「自治会やNPOなど地域活動の場で」でした。

38.8%の人が“男性の方が優遇されている”と回答

○全体では

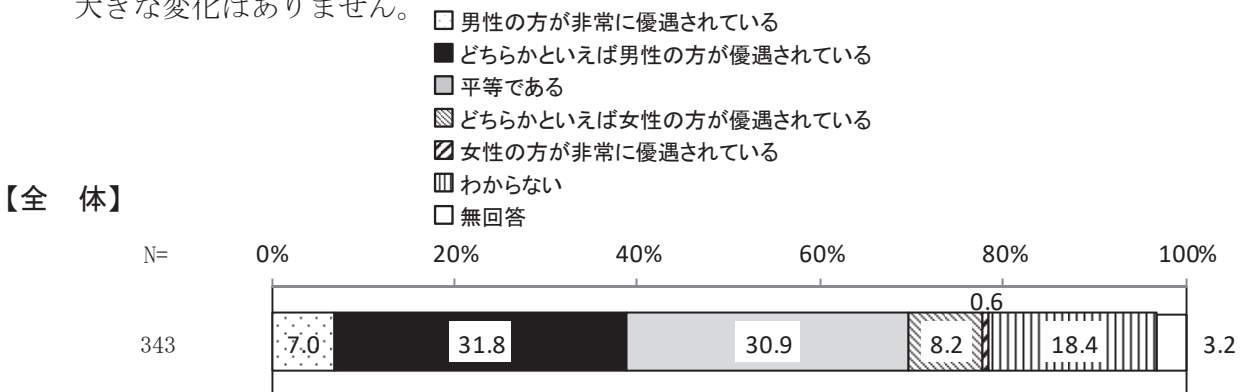
“男性の方が優遇されている”の割合が38.8%、“女性の方が優遇されている”の割合が8.8%、「平等である」の割合が30.9%となっています。

○性別では

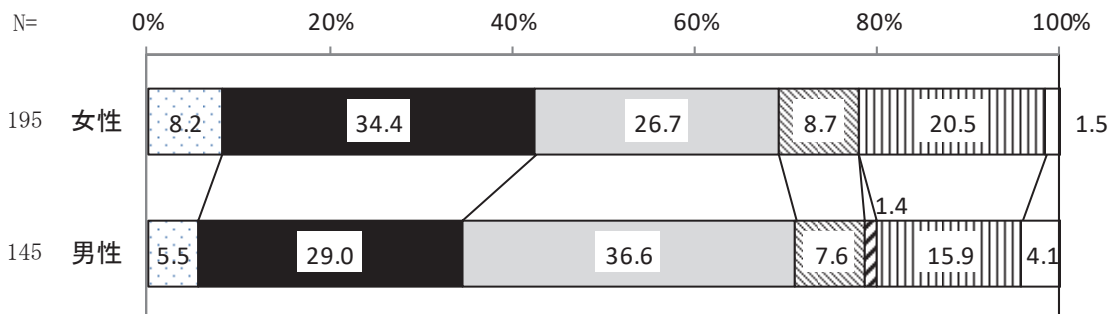
男性に比べ、女性で「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の割合が5.4ポイント高くなっています。また、女性に比べ、男性で「平等である」の割合が9.9ポイント高くなっています。

○2014(平成26)年度調査との比較

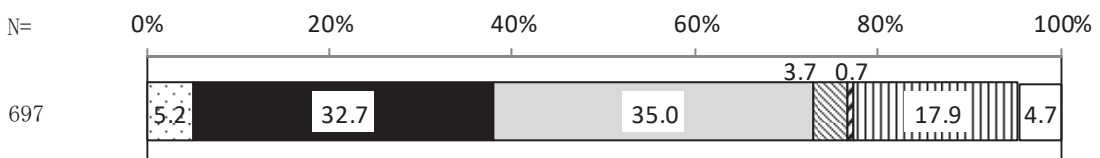
大きな変化はありません。



【性 別】



【2014(平成26)年度調査(全体)】



【比較ポイント】

	今回調査	2014(平成26)年度調査	前回調査との数値比較
男性の方が優遇されている	38.8%	37.9%	↗
平等である	30.9%	35.0%	↘
女性の方が優遇されている	8.8%	4.4%	↗

(5) 政治の場で

73.2%の人が“男性の方が優遇されている”と回答

○全体では

“男性の方が優遇されている”の割合が73.2%、“女性の方が優遇されている”の割合が2.3%、「平等である」の割合が10.2%となっています。

○性別では

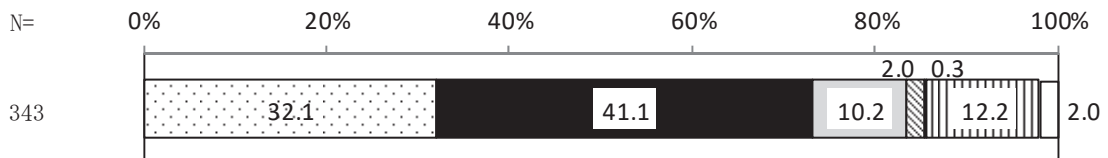
男性に比べ、女性で「男性の方が非常に優遇されている」の割合が11.9ポイント高くなっています。また、女性に比べ、男性で「平等である」の割合が11.5ポイント高くなっています。

○2014（平成26）年度調査との比較

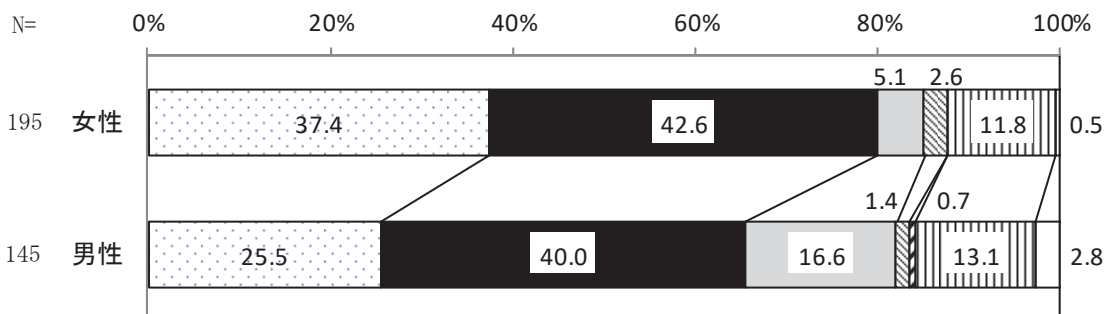
大きな変化はありません。

- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- ▒ 平等である
- ▨ どちらかといえば女性の方が優遇されている
- ▩ 女性の方が非常に優遇されている
- ▧ わからない
- 無回答

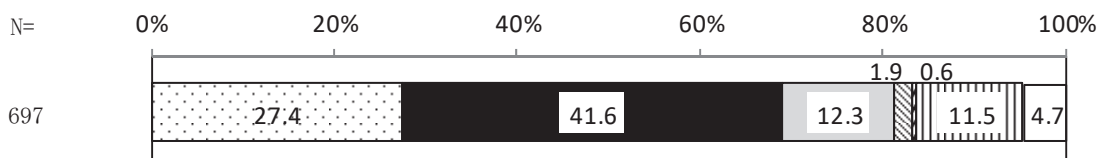
【全 体】



【性 別】



【2014（平成26）年度調査（全体）】



【比較ポイント】

	今回調査	2014（平成26）年度調査	前回調査との数値比較
男性の方が優遇されている	73.2%	69.0%	➔
平等である	10.2%	12.3%	➔
女性の方が優遇されている	2.3%	2.5%	➔

(6) 法律や制度のうえで

49.3%の人が“男性の方が優遇されている”と回答

○全体では

“男性の方が優遇されている”の割合が49.3%、“女性の方が優遇されている”の割合が9.6%、「平等である」の割合が24.5%となっています。

○性別では

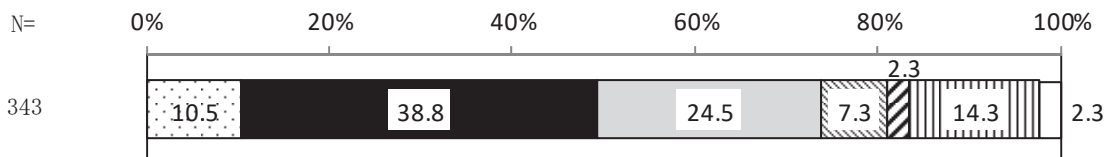
男性に比べ、女性で「男性の方が非常に優遇されている」の割合が8.9ポイント高くなっています。また、女性に比べ、男性で「平等である」の割合が13.9ポイント高くなっています。

○2014（平成26）年度調査との比較

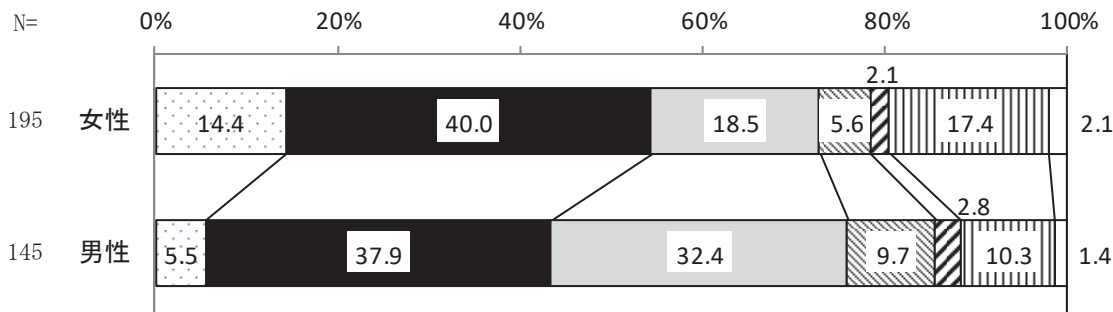
大きな変化はありません。

- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等である
- ▨ どちらかといえば女性の方が優遇されている
- ▩ 女性の方が非常に優遇されている
- ▨ わからない
- 無回答

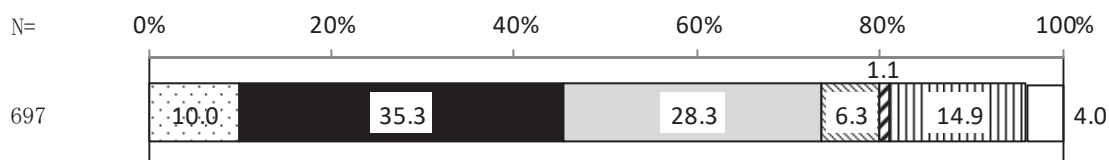
【全 体】



【性 別】



【2014（平成26）年度調査（全体）】



【比較ポイント】

	今回調査	2014（平成26）年度調査	前回調査との数値比較
男性の方が優遇されている	49.3%	45.3%	↑
平等である	24.5%	28.3%	↓
女性の方が優遇されている	9.6%	7.4%	↑

(7) 社会通念・慣習・しきたりなどで

76.3%の人が“男性の方が優遇されている”と回答

○全体では

“男性の方が優遇されている”の割合が76.3%、“女性の方が優遇されている”の割合が2.6%、「平等である」の割合が11.1%となっています。

○性別では

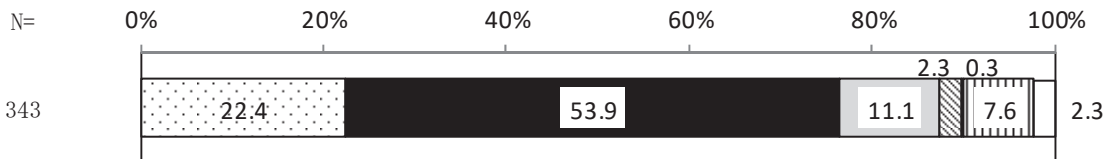
男性に比べ、女性で「男性の方が非常に優遇されている」の割合が11.8ポイント高くなっています。また、女性に比べ、男性で「平等である」の割合が11.0ポイント高くなっています。

○2014（平成26）年度調査との比較

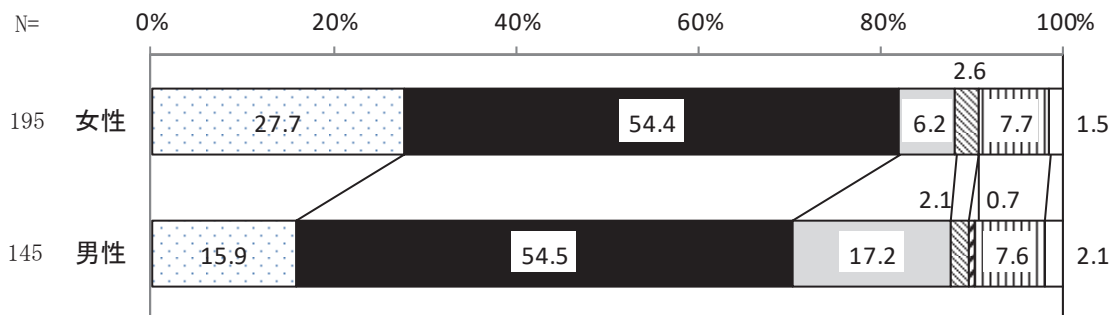
大きな変化はありません。

- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- ▒ 平等である
- ▨ どちらかといえば女性の方が優遇されている
- ▩ 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答

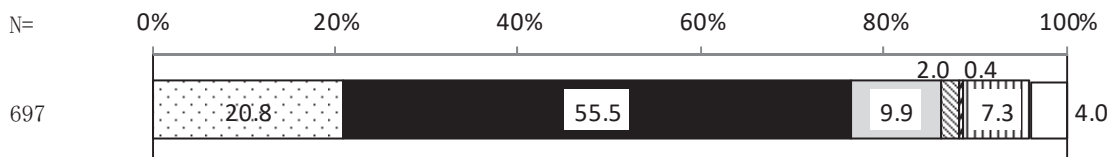
【全 体】



【性 別】



【2014（平成26）年度調査（全体）】



【比較ポイント】

	今回調査	2014（平成26）年度調査	前回調査との数値比較
男性の方が優遇されている	76.3%	76.3%	→
平等である	11.1%	9.9%	↗
女性の方が優遇されている	2.6%	2.4%	↗

(8) 社会全体のなかで（市民活動を含む）※2014(平成26)年度調査では「社会全体のなかで」でした。

57.5%の人が“男性の方が優遇されている”と回答

○全体では

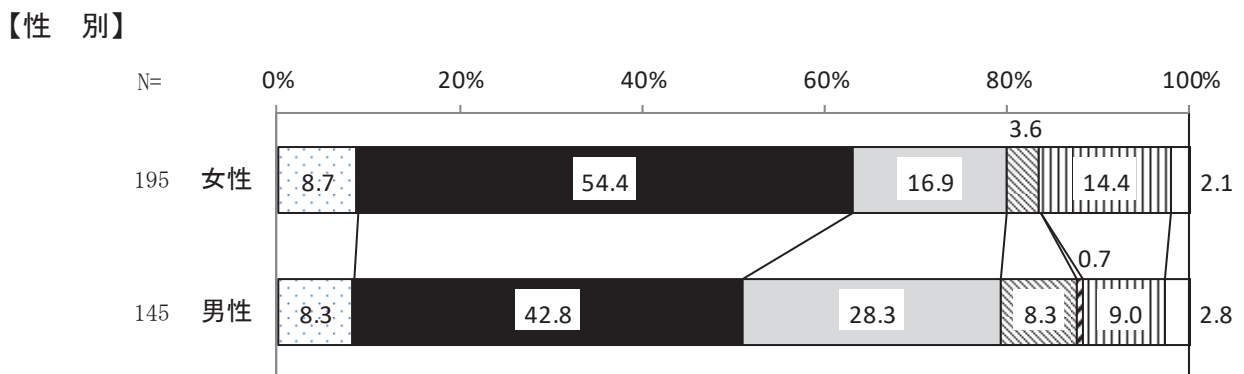
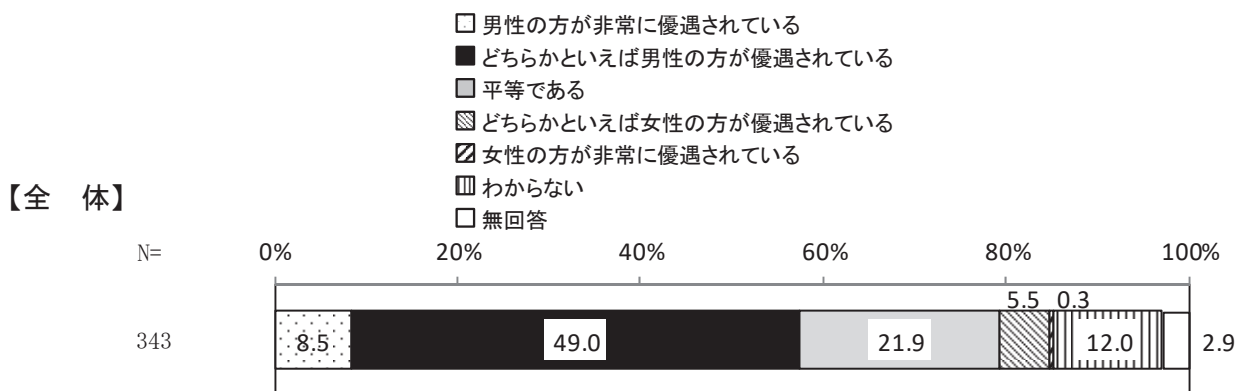
“男性の方が優遇されている”の割合が57.5%、“女性の方が優遇されている”の割合が5.8%、「平等である」の割合が21.9%となっています。

○性別では

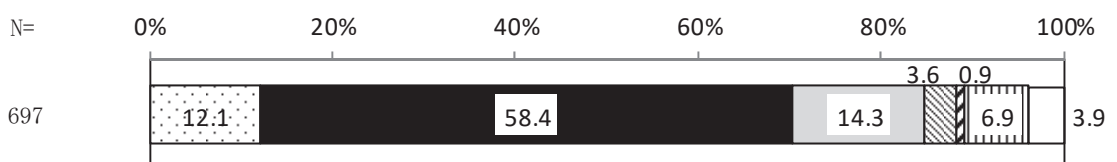
男性に比べ、女性で「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の割合が11.6ポイント高くなっています。また、女性に比べ、男性で「平等である」の割合が11.4ポイント高くなっています。

○2014（平成26）年度調査との比較

今回調査で「平等である」の割合が7.6ポイント高くなっています。



【2014（平成26）年度調査（全体）】



【比較ポイント】

	今回調査	2014（平成26）年度調査	前回調査との数値比較
男性の方が優遇されている	57.5%	70.5%	→
平等である	21.9%	14.3%	→
女性の方が優遇されている	5.8%	4.5%	→

問7 あなたは、男女共同参画社会を目指すためには、どのようなことが重要だと思いますか。あてはまる番号に○印をつけてください。(○印は3つ以内)

47.2%の人が「仕事と家庭生活などの両立支援制度を充実する」と回答

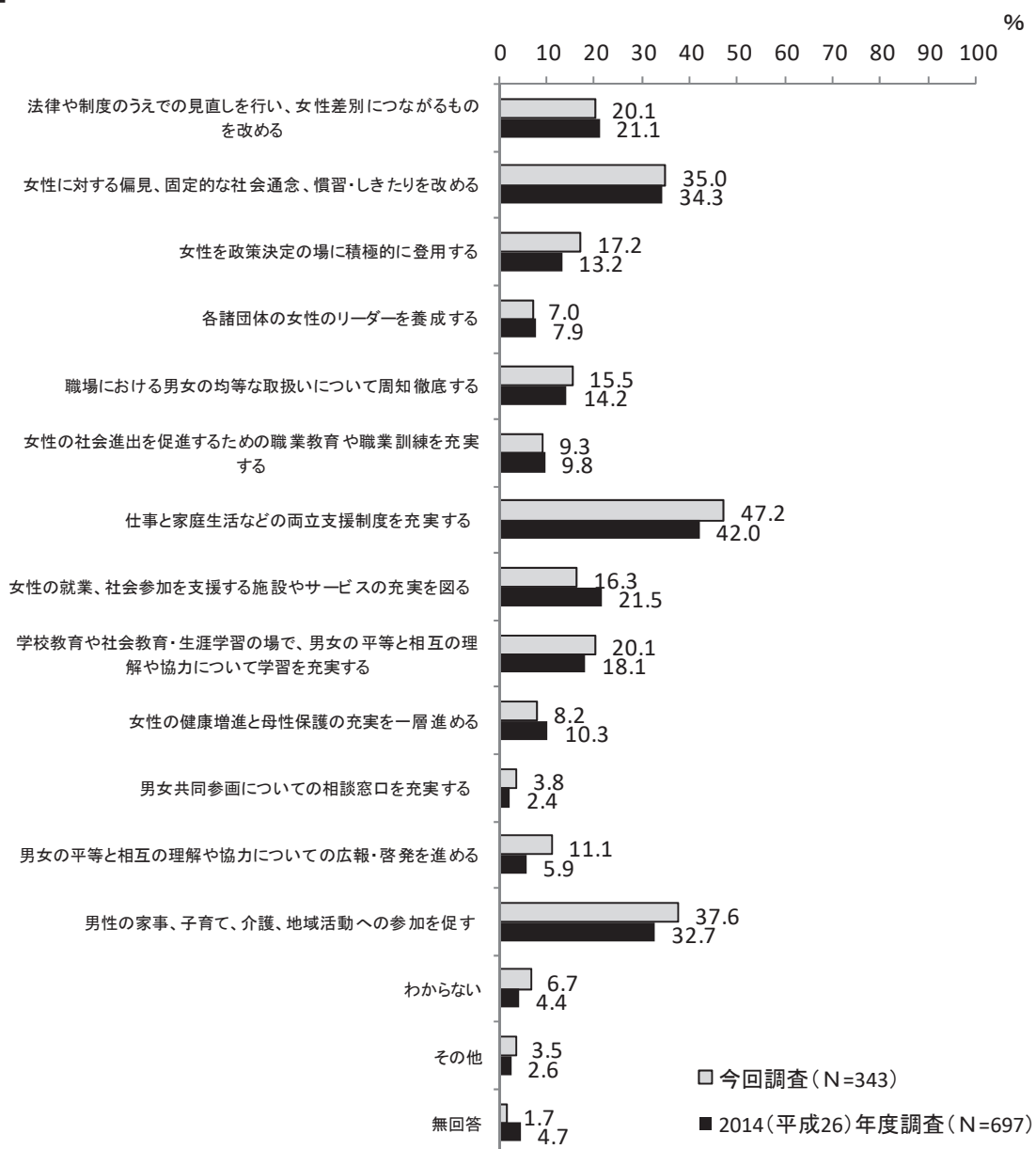
○全体では

「仕事と家庭生活などの両立支援制度を充実する」の割合が47.2%と最も高く、次いで「男性の家事、子育て、介護、地域活動への参加を促す」の割合が37.6%、「女性に対する偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改める」の割合が35.0%となっています。

○2014（平成26）年度調査との比較

今回調査で「仕事と家庭生活などの両立支援制度を充実する」の割合5.2ポイント、「男女の平等と相互の理解や協力についての広報・啓発を進める」の割合が5.2ポイント高くなっています。

【全体】



【性別】

男性に比べ、女性で「仕事と家庭生活などの両立支援制度を充実する」の割合が 15.8 ポイント、「男性の家事、子育て、介護、地域活動への参加を促す」の割合が 25.3 ポイント高くなっています。また女性に比べ、男性で「法律や制度のうえでの見直しを行い、女性差別につながるものを改める」の割合が 10.3 ポイント、「女性を政策決定の場に積極的に登用する」の割合が 8.3 ポイント、「職場における男女の均等な取扱いについて周知徹底する」の割合が 10.1 ポイント、「男女の平等と相互の理解や協力についての広報・啓発を進める」の割合が 11.7%ポイント高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	法律や制度のうえでの見直しを行い、女性差別につながるものを改める	女性に対する偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改める	女性を政策決定の場に積極的に登用する	各諸団体の女性のリーダーを養成する	職場における男女の均等な取扱いについて周知徹底する	女性の社会進出を促進するための職業教育や職業訓練を充実する	仕事と家庭生活などの両立支援制度を充実する	女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図る
女性	195	15.9	35.4	13.8	6.2	11.3	10.3	54.4	18.5
男性	145	26.2	35.2	22.1	8.3	21.4	8.3	38.6	13.8

区分	学校教育や社会教育・生涯学習の場で、男女の平等と相互の理解や協力について学習を充実する	女性の健康増進と母性保護の充実を一層進める	男女共同参画についての相談窓口を充実する	男女の平等と相互の理解や協力についての広報・啓発を進める	男性の家事、子育て、介護、地域活動への参加を促す	わからない	その他	無回答
女性	20.5	10.3	3.6	6.2	48.7	6.2	3.6	1.0
男性	20.0	5.5	4.1	17.9	23.4	6.9	3.4	1.4

問8 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方がありますが、あなたはこの考えに同感しますか。(1つだけに○印)

「同感する(賛成)」と「どちらかといえば賛成」をあわせた割合を“賛成”、「同感しない(反対)」と「どちらかといえば反対」をあわせた割合を“反対”とします。

56.9%の人が“反対”と回答

○全体では

“賛成”の割合が32.1%、“反対”の割合が56.9%となっています。

○性別では

男性に比べ、女性で「どちらかといえば反対」の割合が10.6ポイント高くなっています。また、女性に比べ、男性で「どちらかといえば賛成」の割合が16.7ポイント高くなっています。

○性別年齢別では

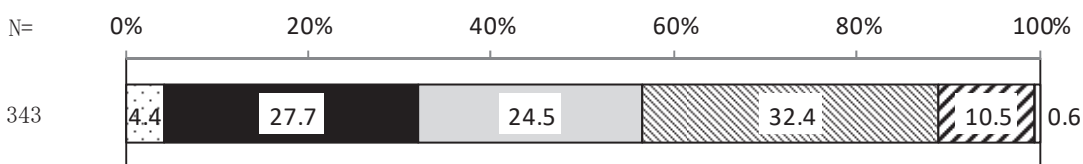
20歳代女性と70歳以上男性を除くすべての性別・年代で、“反対”の割合が高く、特に女性の30歳代、40歳代、60歳代で6割を超えています。また、他に比べ、男性の70歳以上で“賛成”の割合が高く、6割を超えています。

○2014(平成26)年度調査との比較

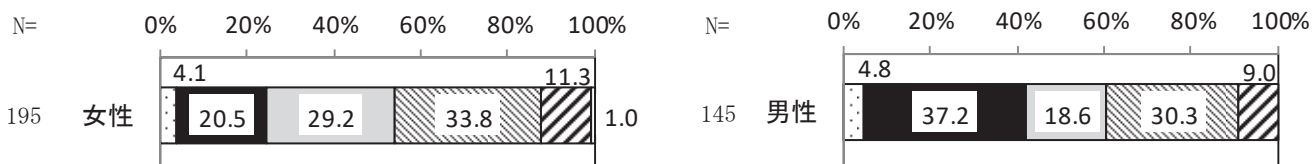
今回調査で「同感しない(反対)」の割合が全体で10.4ポイント、女性で9.2ポイント、男性で11.8ポイント高くなっています。

□ 同感する(賛成) ■ どちらかといえば賛成 ▨ どちらかといえば反対
 ▩ 同感しない(反対) ▤ わからない □ 無回答

【全 体】



【性 別】

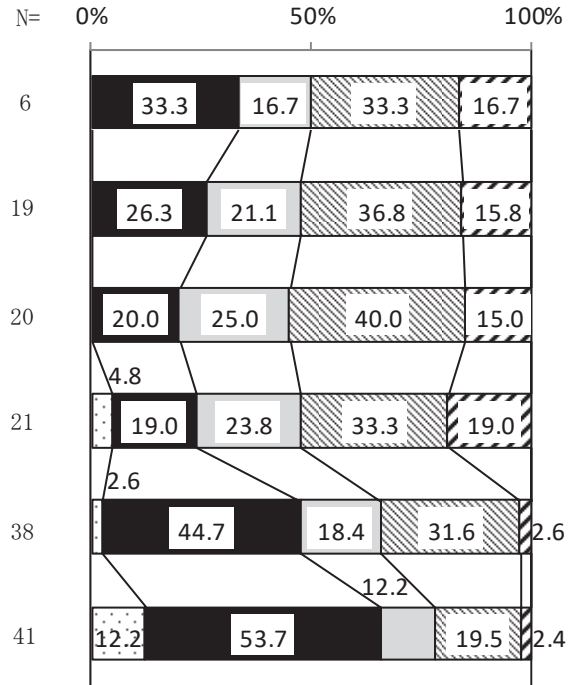
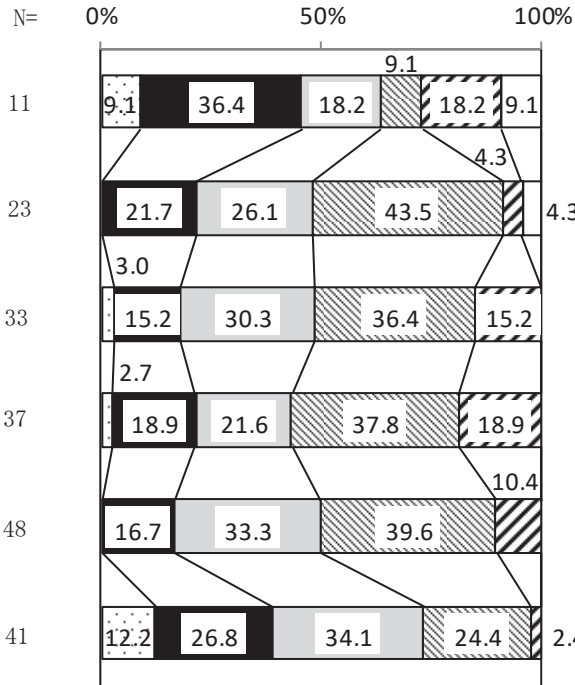


【性別年齢別】

- 同感する(賛成)
- どちらかといえば賛成
- ▒ どちらかといえば反対
- ▨ 同感しない(反対)
- ▩ わからない
- 無回答

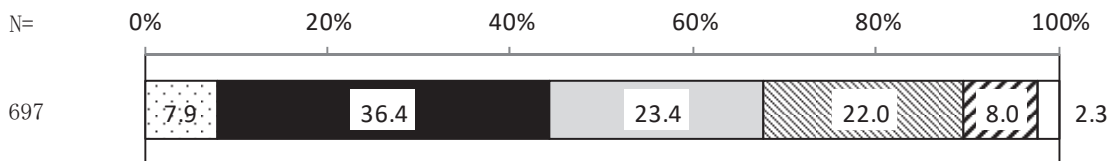
〈女性〉

〈男性〉



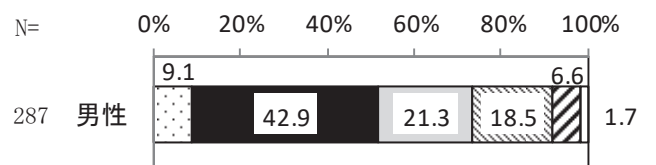
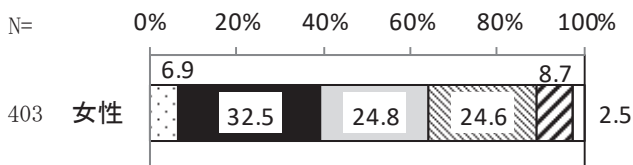
【2014（平成26）年度調査（全体）】

- 同感する(賛成)
- どちらかといえば賛成
- ▒ どちらかといえば反対
- ▨ 同感しない(反対)
- ▩ わからない
- 無回答



【2014（平成26）年度調査（性別）】

- 同感する(賛成)
- どちらかといえば賛成
- ▒ どちらかといえば反対
- ▨ 同感しない(反対)
- ▩ わからない
- 無回答



3 家庭生活・子育てについて

問9 あなたの家庭では、(1)～(8)のそれぞれについて、主に男性、女性のどちらが行っていますか。あてはまる番号に○印をつけてください。(それぞれ1つずつに○印)

(1) 家事（炊事・洗濯・掃除など）

70.3%の人が「主に女性」と回答

○全体では

「主に女性」の割合が70.3%と最も高く、次いで「共同して分担」の割合が22.4%となっています。

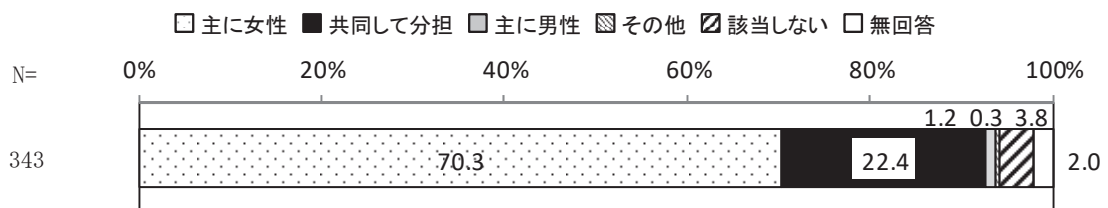
○性別では

男性に比べ、女性で「主に女性」の割合が20.4ポイント高くなっています。また、女性に比べ、男性で「共同して分担」の割合が17.0ポイント高くなっています。

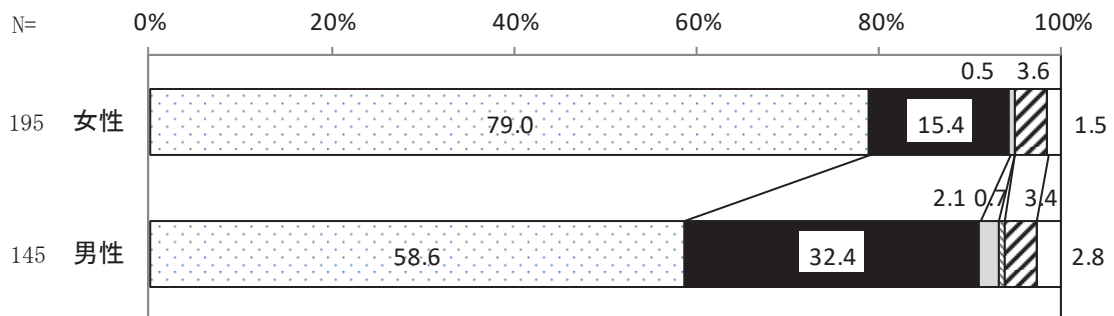
○2014（平成26）年度調査との比較

今回調査で、「共同して分担」の割合が5.8ポイント高くなっています。

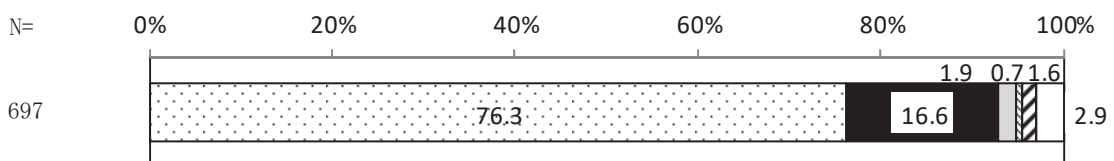
【全 体】



【性 別】



【2014（平成26）年度調査（全体）】



【比較ポイント】

	今回調査	2014（平成26）年度調査	前回調査との数値比較
主に女性	70.3%	76.3%	→
共同して分担	22.4%	16.6%	→
主に男性	1.2%	1.9%	→

(2) 子育て（子どもの世話、しつけ、教育など）

48.7%の人が「主に女性」と回答

○全体では

「主に女性」の割合が48.7%と最も高く、次いで「共同して分担」の割合が29.2%、「該当しない」の割合が18.1%となっています。

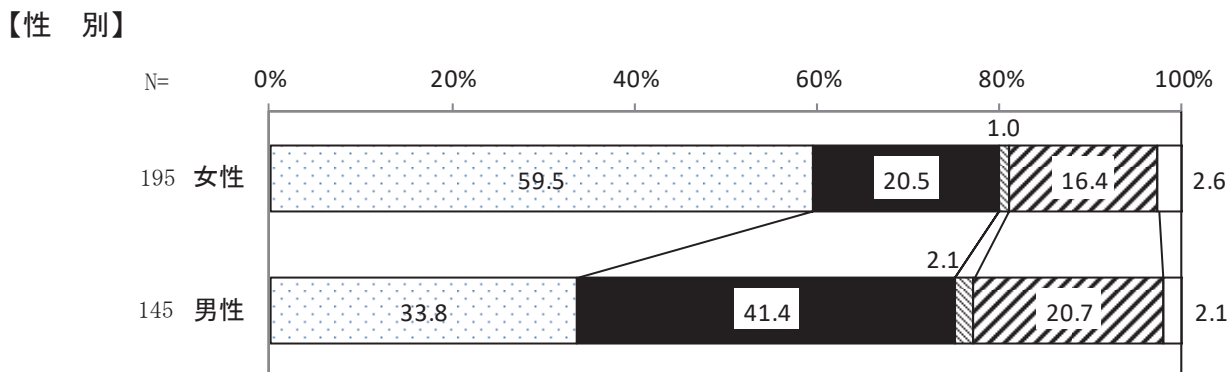
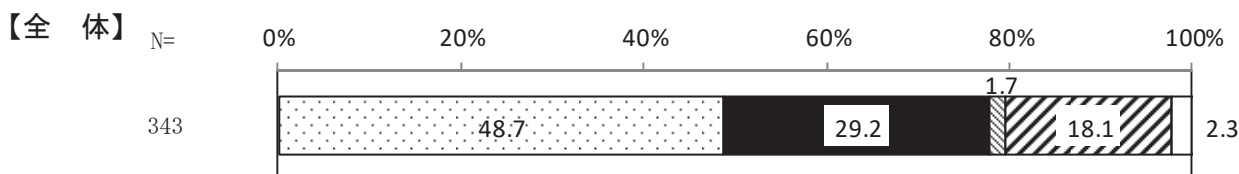
○性別では

男性に比べ、女性で「主に女性」の割合が25.7ポイント高くなっています。また、女性に比べ、男性で「共同して分担」の割合が20.9ポイント高くなっています。

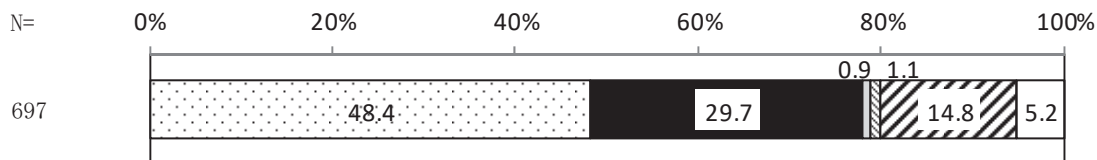
○2014（平成26）年度調査との比較

大きな変化はありません。

□ 主に女性 ■ 共同して分担 ▨ 主に男性 ▩ その他 ▪ 該当しない □ 無回答



【2014（平成26）年度調査（全体）】



【比較ポイント】

	今回調査	2014（平成26）年度調査	前回調査との数値比較
主に女性	48.7%	48.4%	↗
共同して分担	29.2%	29.7%	↘
主に男性	0%	0.9%	↘

(3) 介護（介護が必要な親の世話、病人の介護など）

31.2%の人が「主に女性」と回答

○全体では

「該当しない」の割合が36.4%と最も高くなっています。次いで「主に女性」の割合が31.2%、「共同して分担」の割合が25.1%となっています。

○性別では

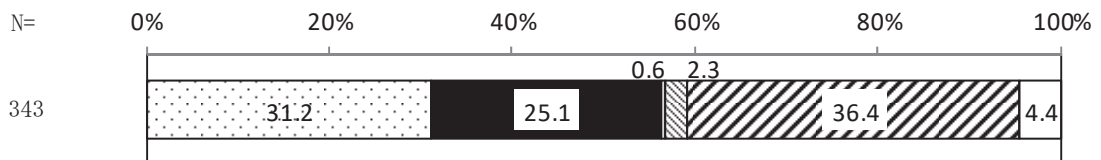
男性に比べ、女性で「主に女性」の割合が15.1ポイント高くなっています。また、女性に比べ、男性で「共同して分担」の割合が12.9ポイント高くなっています。

○2014（平成26）年度調査との比較

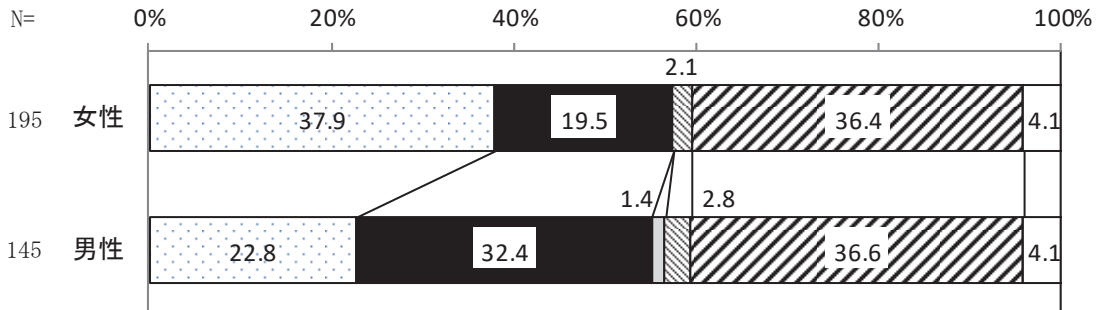
今回調査で、「共同して分担」の割合が5.0ポイント高くなっています。

□主に女性 ■共同して分担 □主に男性 ▨その他 ▩該当しない □無回答

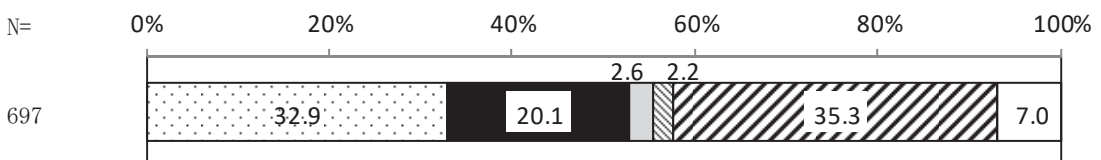
【全 体】



【性 別】



【2014（平成26）年度調査（全体）】



【比較ポイント】

	今回調査	2014（平成26）年度調査	前回調査との数値比較
主に女性	31.2%	32.9%	→
共同して分担	25.1%	20.1%	↑
主に男性	0.6%	2.6%	↓

(4) 地域の行事への参加、自治会活動

39.1%の人が「共同して分担」と回答

○全体では

「共同して分担」の割合が39.1%と最も高く、次いで「主に男性」の割合が30.9%、「主に女性」の割合が20.7%となっています。

○性別では

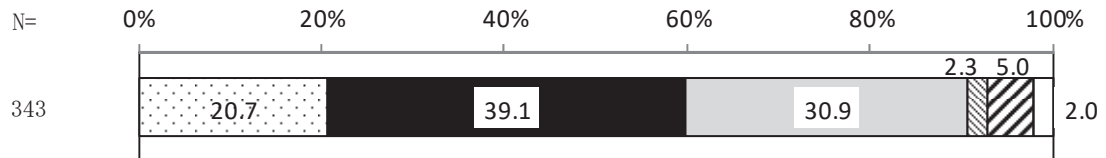
男性に比べ、女性で「主に女性」の割合が18.4ポイント高くなっています。また、女性に比べ、男性で「主に男性」の割合が17.8ポイント高くなっています。

○2014（平成26）年度調査との比較

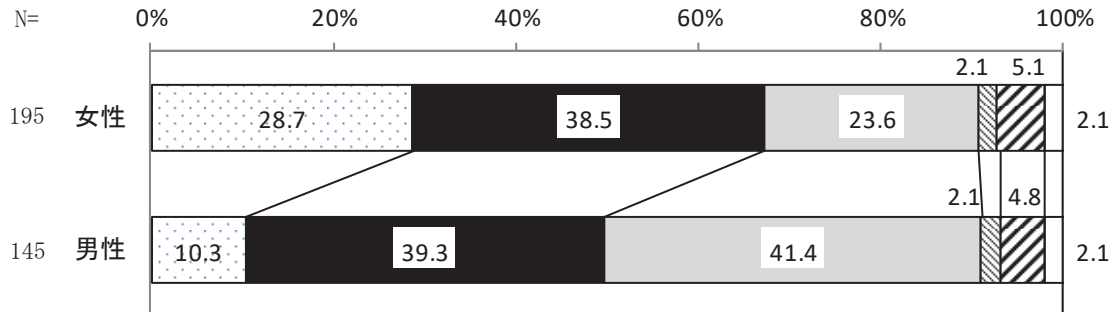
大きな変化はありません。

□主に女性 ■共同して分担 ▨主に男性 ▩その他 ▨該当しない □無回答

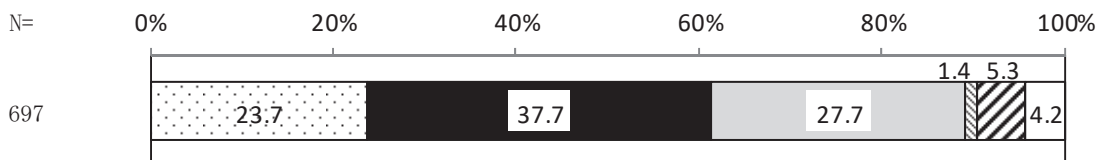
【全 体】



【性 別】



【2014（平成26）年度調査（全体）】



【比較ポイント】

	今回調査	2014（平成26）年度調査	前回調査との数値比較
主に女性	20.7%	23.7%	→
共同して分担	39.1%	37.7%	→
主に男性	30.9%	27.7%	→

(5) P T A 活動

50.4%の人が「主に女性」と回答

○全体では

「主に女性」の割合が 50.4%と最も高く、次いで「該当しない」の割合が 28.0%、「共同して分担」の割合が 12.8%となっています。

○性別では

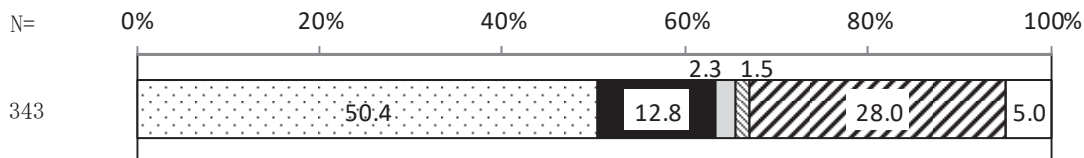
男性に比べ、女性で「主に女性」の割合が 23.9 ポイント高くなっています。また、女性に比べ、男性で「共同して分担」の割合が 8.7 ポイント、「該当しない」の割合が 9.0 ポイント高くなっています。

○2014（平成 26）年度調査との比較

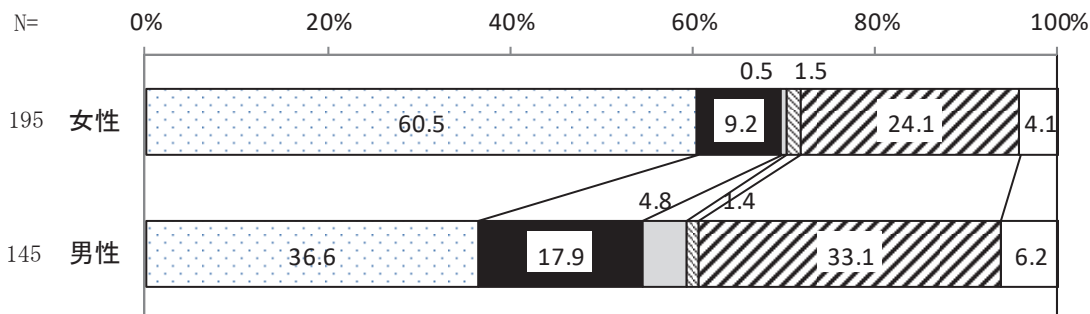
大きな変化はありません。

□ 主に女性 ■ 共同して分担 □ 主に男性 ▨ その他 ▩ 該当しない □ 無回答

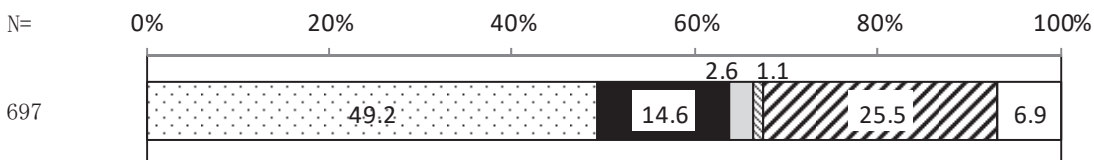
【全 体】



【性 別】



【2014（平成 26）年度調査（全体）】



【比較ポイント】

	今回調査	2014（平成 26）年度調査	前回調査との数値比較
主に女性	50.4%	49.2%	↑
共同して分担	12.8%	14.6%	↓
主に男性	2.3%	2.6%	↓

(6) 生活費（年金を含む）の確保

44.0%の人が「主に男性」と回答

○全体では

「主に男性」の割合が44.0%と最も高く、次いで「共同して分担」の割合が38.8%、「主に女性」の割合が11.1%となっています。

○性別では

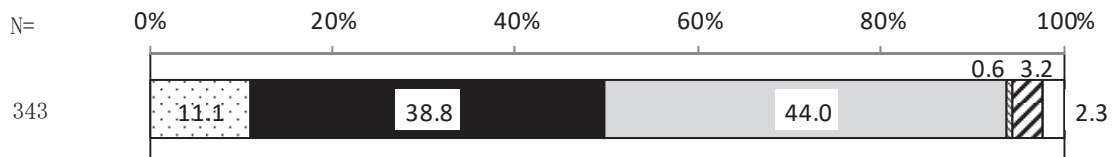
男性に比べ、女性で「主に女性」の割合が5.0ポイント高くなっています。また、女性に比べ、男性で「主に男性」の割合が8.5ポイント高くなっています。

○2014（平成26）年度調査との比較

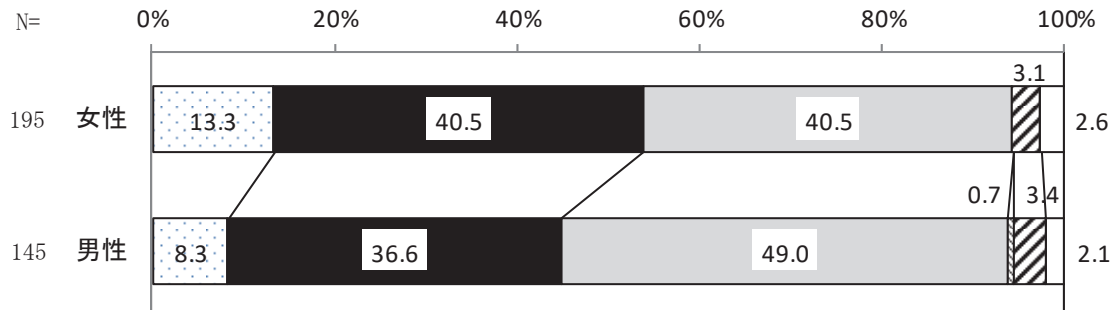
今回調査で、「共同して分担」の割合が10.8ポイント高くなっています。

□主に女性 ■共同して分担 □主に男性 ▨その他 ▩該当しない □無回答

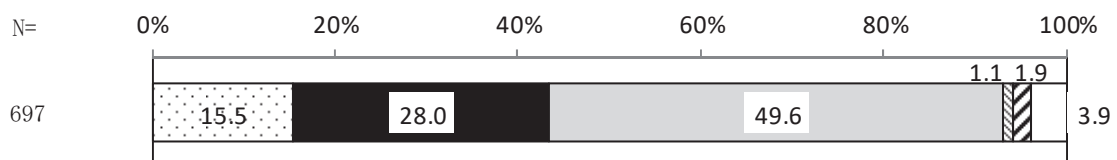
【全 体】



【性 別】



【2014（平成26）年度調査（全体）】



【比較ポイント】

	今回調査	2014（平成26）年度調査	前回調査との数値比較
主に女性	11.1%	15.5%	→
共同して分担	38.8%	28.0%	↑
主に男性	44.0%	49.6%	↓

(7) 会計の管理

59.2%の人が「主に女性」と回答

○全体では

「主に女性」の割合が 59.2%と最も高く、次いで「共同して分担」の割合が 20.4%、「主に男性」の割合が 11.7%となっています。

○性別では

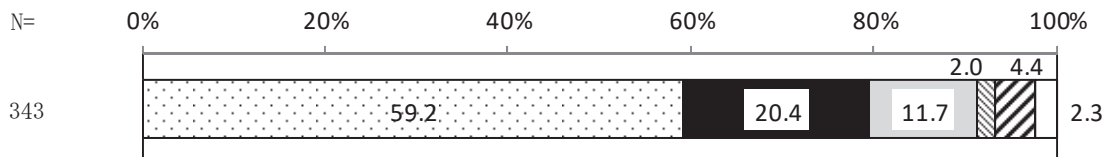
男性に比べ、女性で「共同して分担」の割合が 5.4 ポイント高くなっています。

○2014（平成 26）年度調査との比較

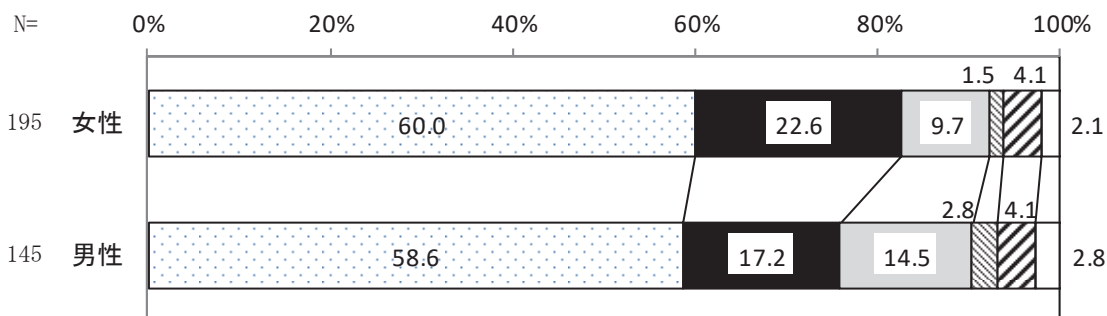
大きな変化はありません。

□主に女性 ■共同して分担 □主に男性 ▨その他 ▩該当しない □無回答

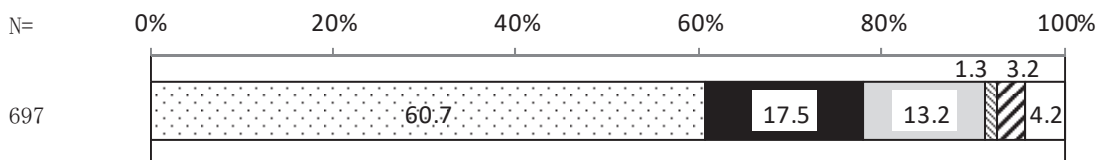
【全 体】



【性 別】



【2014（平成 26）年度調査（全体）】



【比較ポイント】

	今回調査	2014（平成 26）年度調査	前回調査との数値比較
主に女性	59.2%	60.7%	→
共同して分担	20.4%	17.5%	→
主に男性	11.7%	13.2%	→

(8) 高価な商品や土地、家屋の購入決定
44.9%の人が「共同して分担」と回答

○全体では

「共同して分担」の割合が 44.9%と最も高く、次いで「主に男性」の割合が 39.1%となっています。

○性別では

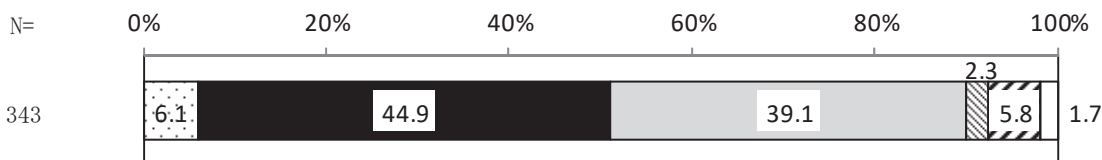
男性に比べ、女性で「主に男性」の割合が 14.1 ポイント高くなっています。また、女性に比べ、男性で「共同して分担」の割合が 14.1 ポイント高くなっています。

○2014（平成 26）年度調査との比較

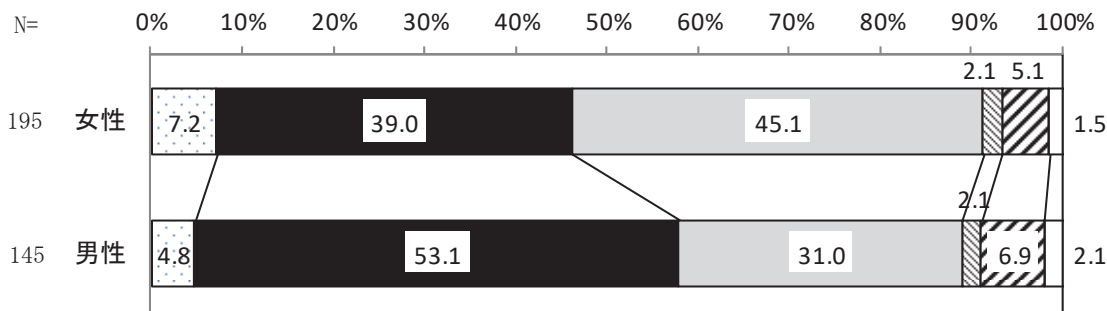
大きな変化はありません。

□ 主に女性 ■ 共同して分担 □ 主に男性 ▨ その他 ▩ 該当しない □ 無回答

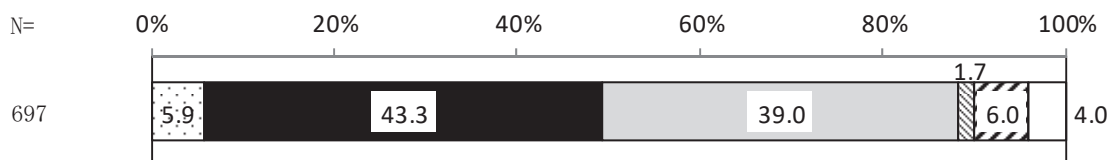
【全 体】



【性 別】



【2014（平成 26）年度調査（全体）】



【比較ポイント】

	今回調査	2014（平成 26）年度調査	前回調査との数値比較
主に女性	6.1%	5.9%	➔
共同して分担	44.9%	43.3%	➔
主に男性	39.1%	39.0%	➔

問10 あなたは、今後、男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動などに積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまる番号に○印をつけてください。(○印は3つ以内)

45.5%の人が「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」と回答

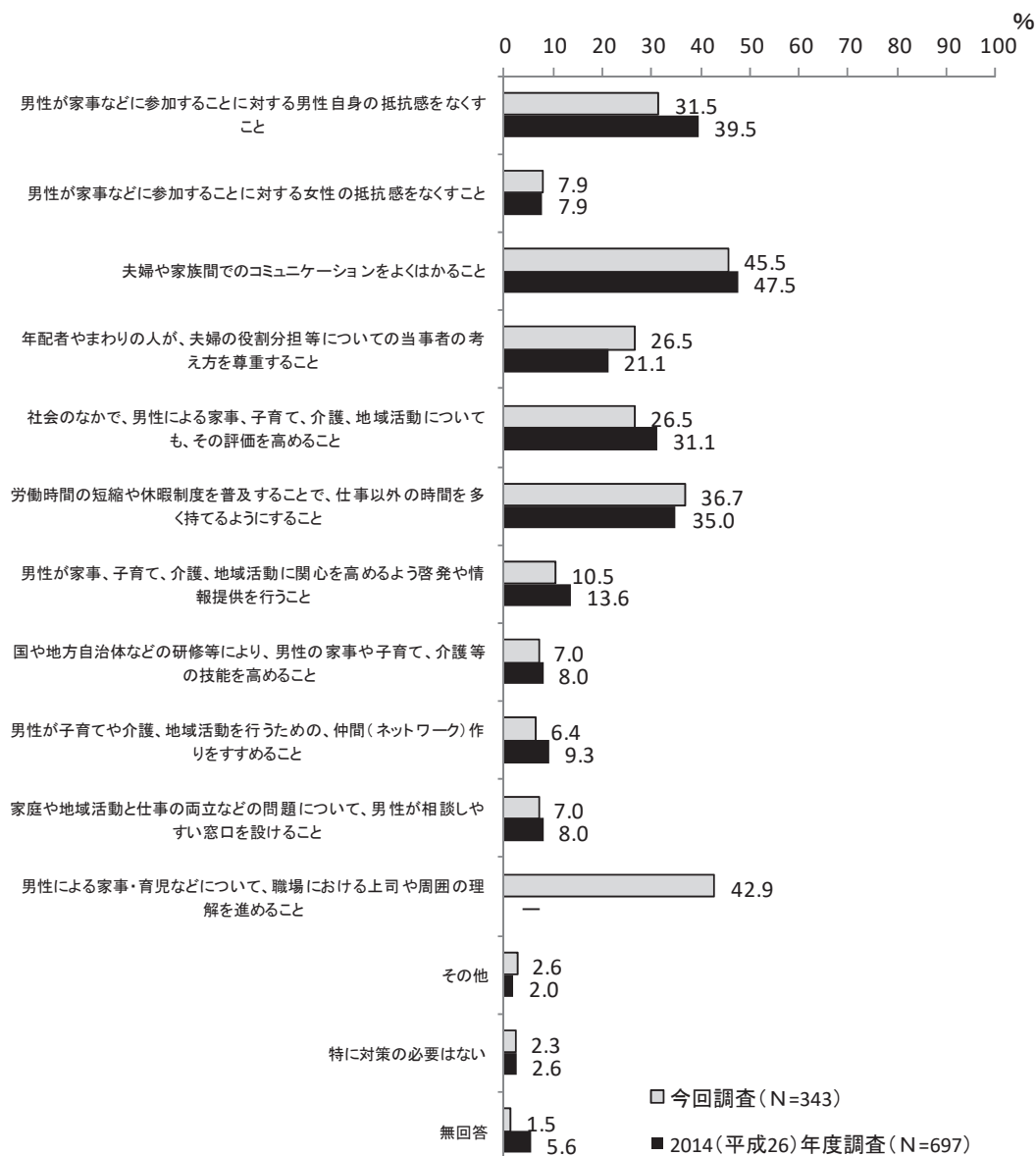
○全体では

「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」の割合が45.5%と最も高く、次いで「男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」の割合が42.9%、「労働時間の短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間を多く持てるようにすること」の割合が36.7%となっています。

○2014（平成26）年度調査との比較

今回調査で「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」の割合が8.0ポイント低くなっています。また、「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること」の割合が5.4ポイント高くなっています。

【全 体】



※「—」は、2014（平成26）年度調査にはなかった選択肢です。

【性別】

男性に比べ、女性で「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」の割合が 9.7 ポイント、「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること」の割合が 8.9 ポイント、「男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めよう啓発や情報提供を行うこと」の割合が 7.1 ポイント、「男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」の割合が 10.0 ポイント高くなっています。また、女性に比べ、男性で「労働時間の短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間を多く持てるようにすること」の割合が 6.3 ポイント、「国や地方自治体などの研修等により、男性の家事や子育て、介護等の技能を高めること」の割合が 5.7 ポイント高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと	男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと	夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること	年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること	社会のなかで、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高めること	労働時間の短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間を多く持てるようにすること	男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行うこと
女性	195	35.9	8.7	43.6	30.3	26.7	34.4	13.3
男性	145	26.2	6.9	48.3	21.4	26.2	40.7	6.2

区分	国や地方自治体などの研修等により、男性の家事や子育て、介護等の技能を高めること	男性が子育てや介護、地域活動を行うための、仲間(ネットワーク)作りをすすめること	家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること	男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること	その他	特に対策の必要はない	無回答
女性	4.6	6.7	6.7	47.2	2.6	1.5	1.0
男性	10.3	5.5	7.6	37.2	2.8	2.8	2.1

コラム

男性が女性とともに家事・子育て等に積極的に参加していくために必要なこと

国では、亀岡市と同じく、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」の割合が 59.1%と最も高く、次いで「男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」の割合が 58.5%となっています。

資料：国は、男女共同参画社会に関する世論調査（2019（令和元）年9月）

【性別年齢別】

男性では年齢が高くなるにつれて「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」の割合が高い傾向にあります。また、女性の30歳代から50歳代、男性の30歳代と50歳代とともに「男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」の割合が高くなっています。また、女性の20歳代、男性の20歳代から40歳代とともに「労働時間の短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間を多く持てるようにすること」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	男性が家事などに参加することに對する男性自身の抵抗感をなくすこと	男性が家事などに参加することに對する女性の抵抗感をなくすこと	夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること	年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること	社会のなかで、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高めること	労働時間の短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間を多く持てるようにすること	男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行うこと
女性 20歳代	11	18.2	—	27.3	27.3	9.1	90.9	—
30歳代	23	21.7	4.3	43.5	34.8	30.4	39.1	13.0
40歳代	33	45.5	3.0	36.4	21.2	27.3	45.5	9.1
50歳代	37	24.3	8.1	43.2	37.8	24.3	27.0	8.1
60歳代	48	47.9	16.7	43.8	25.0	27.1	25.0	14.6
70歳以上	41	39.0	9.8	56.1	34.1	29.3	26.8	22.0
男性 20歳代	6	33.3	33.3	33.3	16.7	33.3	66.7	—
30歳代	19	15.8	5.3	31.6	36.8	15.8	52.6	5.3
40歳代	20	20.0	—	45.0	20.0	30.0	45.0	5.0
50歳代	21	19.0	9.5	33.3	19.0	33.3	33.3	9.5
60歳代	38	31.6	5.3	55.3	13.2	34.2	50.0	7.9
70歳以上	41	31.7	7.3	61.0	24.4	17.1	24.4	4.9

単位：%（つづき）

区分	国や地方自治体などの 研修等により、男性の家 事や子育て、介護等の技 能を高めること	男性が子育てや介護、地 域活動を行うための、仲 間（ネットワーク）作り をすすめること	男性が子育てや介護、地 域活動を行うための、仲 間（ネットワーク）作り をすすめること	男性による家事・育児な どについて、職場におけ る上司や周囲の理解を 進めること	その他	特に対策の必要はない	無回答
女性 20 歳代	9.1	9.1	18.2	54.5	—	—	—
30 歳代	4.3	8.7	8.7	65.2	4.3	—	—
40 歳代	—	3.0	—	48.5	9.1	—	—
50 歳代	5.4	8.1	5.4	45.9	2.7	2.7	2.7
60 歳代	6.3	8.3	6.3	41.7	—	4.2	2.1
70 歳以上	4.9	4.9	9.8	43.9	—	—	—
男性 20 歳代	—	—	16.7	33.3	—	—	—
30 歳代	5.3	10.5	—	52.6	5.3	5.3	—
40 歳代	20.0	—	10.0	40.0	5.0	—	5.0
50 歳代	—	4.8	9.5	52.4	—	4.8	—
60 歳代	15.8	5.3	10.5	28.9	—	—	—
70 歳以上	9.8	7.3	4.9	29.3	4.9	4.9	4.9

4 仕事について

問 11-1 勤めている人（パート・アルバイトなどを含む）におたずねします。あなたの職場の男女構成について、あてはまる番号に○印をつけてください。
（1つだけに○印）

32.1%の人が「女性が多い職場」と回答

○全体では

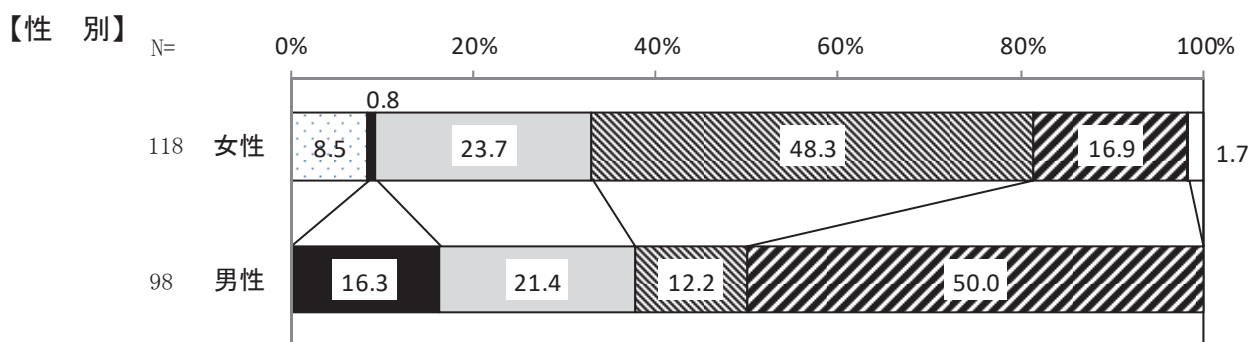
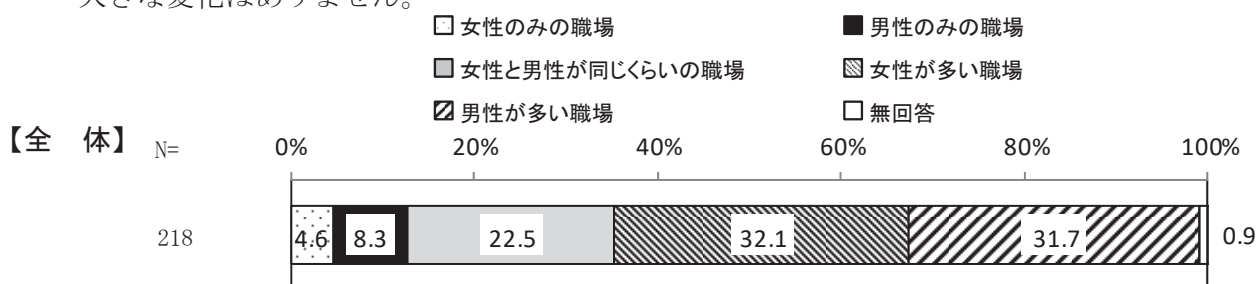
「女性が多い職場」の割合が 32.1%と最も高く、次いで「男性が多い職場」の割合が 31.7%、「女性と男性が同じくらいの職場」の割合が 22.5%となっています。

○性別では

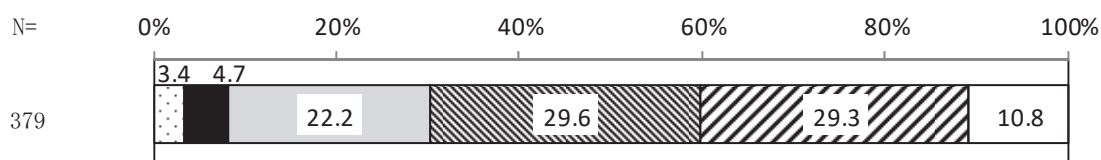
男性に比べ、女性で「女性が多い職場」の割合が 36.1 ポイント高くなっています。また、女性に比べ、男性で「男性のみの職場」の割合が 15.5 ポイント、「男性が多い職場」の割合が 33.1 ポイント高くなっています。

○2014（平成 26）年度調査との比較

大きな変化はありません。



【2014（平成 26）年度調査（全体）】



【比較ポイント】

	今回調査	2014（平成 26）年度調査	前回調査との数値比較
女性のみの職場	4.6%	3.4%	➔
男性のみの職場	8.3%	4.7%	➔

問 11-2 問 11-1 で「女性と男性が同じくらいの職場」、「女性が多い職場」、「男性が多い職場」のいずれかに○印をつけた人におたずねします。（「女性だけの職場」、「男性だけの職場」のどちらかに○印をつけた人は、問 12 に進んでください。）あなたの職場では、次のようなことがありますか。（1）～（11）の項目について、あてはまる番号に○印をつけてください。（○印は1つずつ）

「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」をあわせた割合を“思う”、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」をあわせた割合を“思わない”とします。

（1）採用条件が女性に不利

78.7%の人が“思わない”と回答

○全体では

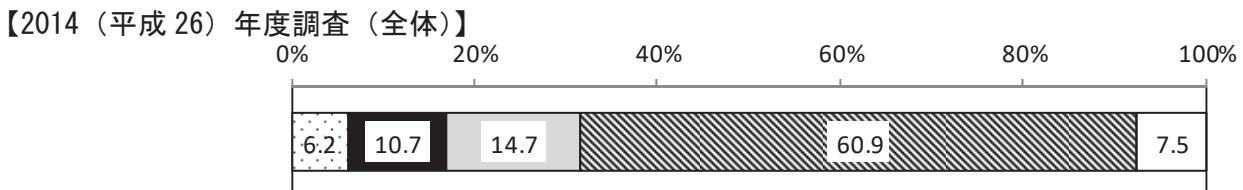
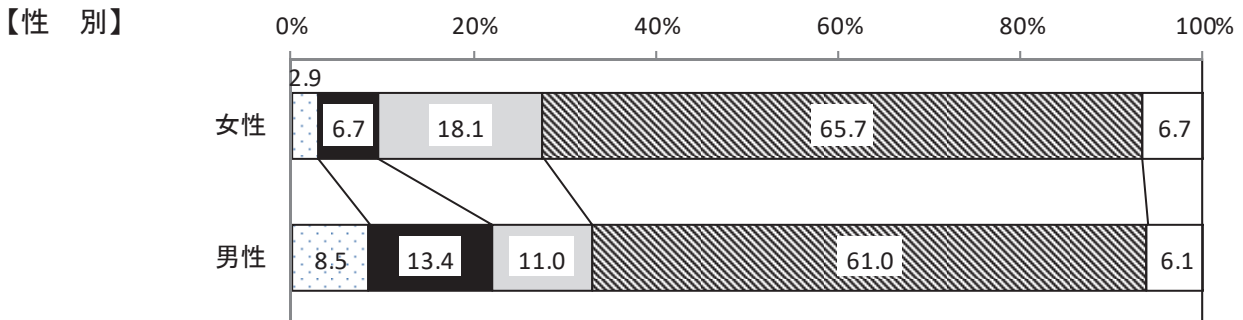
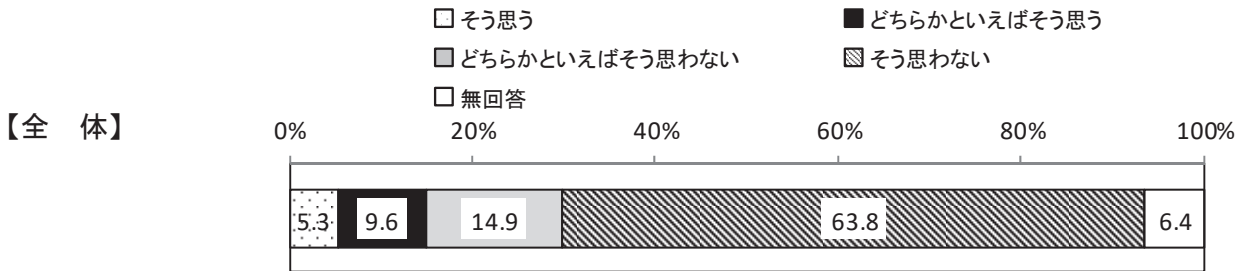
“思う”の割合が14.9%、“思わない”の割合が78.7%となっています。

○性別では

男性に比べ、女性で「どちらかといえばそう思わない」の割合が7.1ポイント高くなっています。また、女性に比べ、男性で「どちらかといえばそう思う」の割合が6.7ポイント高くなっています。

○2014（平成26）年度調査との比較

大きな変化はありません。



【比較ポイント】

	今回調査	2014（平成26）年度調査	前回調査との数値比較
思う	14.9%	16.9%	→
思わない	78.7%	75.6%	↑

(2) 女性は男性より賃金が低い、昇進が遅い

62.8%の人が“思わない”と回答

○全体では

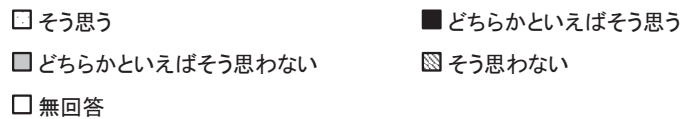
“思う”の割合が31.9%、“思わない”の割合が62.8%となっています。

○性別では

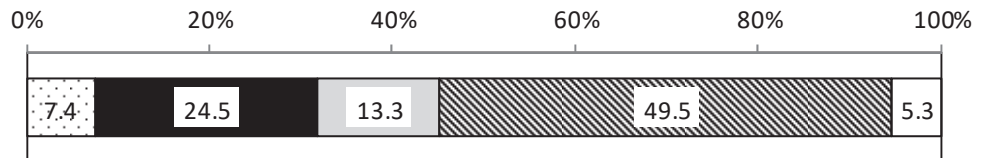
大きな差はありません。

○2014（平成26）年度調査との比較

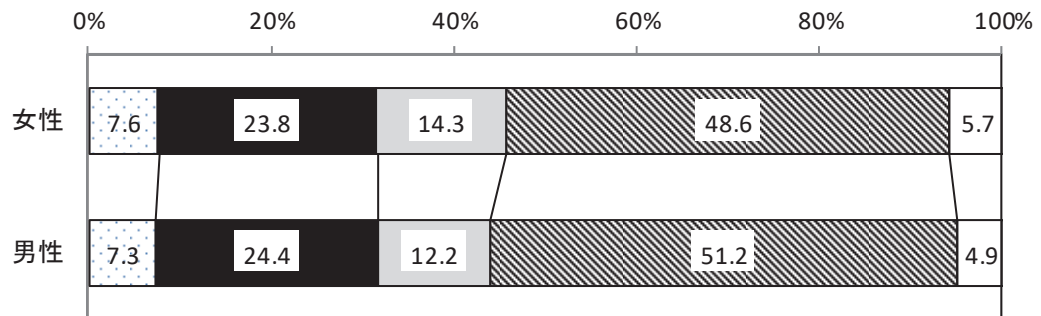
大きな変化はありません。



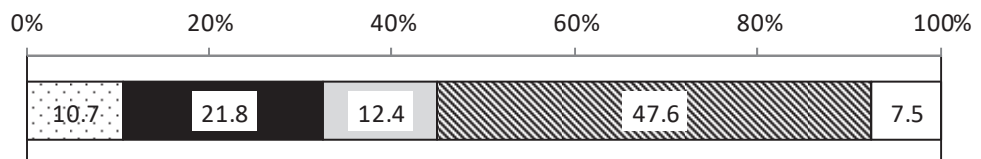
【全 体】



【性 別】



【2014（平成26）年度調査（全体）】



【比較ポイント】

	今回調査	2014（平成26） 年度調査	前回調査との 数値比較
思う	31.9%	32.5%	→
思わない	62.8%	60.0%	→

(3) 能力評価が男女平等ではない
66.5%の人が“思わない”と回答

○全体では

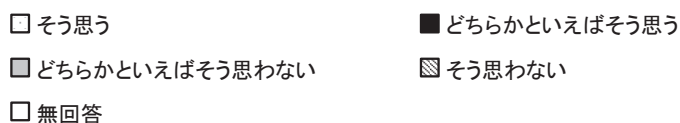
“思う”の割合が28.2%、“思わない”の割合が66.5%となっています。

○性別では

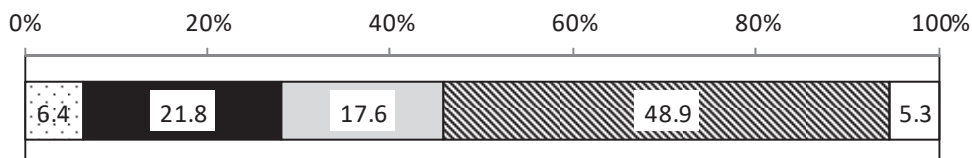
男性に比べ、女性で「どちらかといえばそう思わない」の割合が9.7ポイント、「そう思わない」の割合が5.1ポイント高くなっています。また、女性に比べ、男性で「どちらかといえばそう思う」の割合が11.8ポイント高くなっています。

○2014（平成26）年度調査との比較

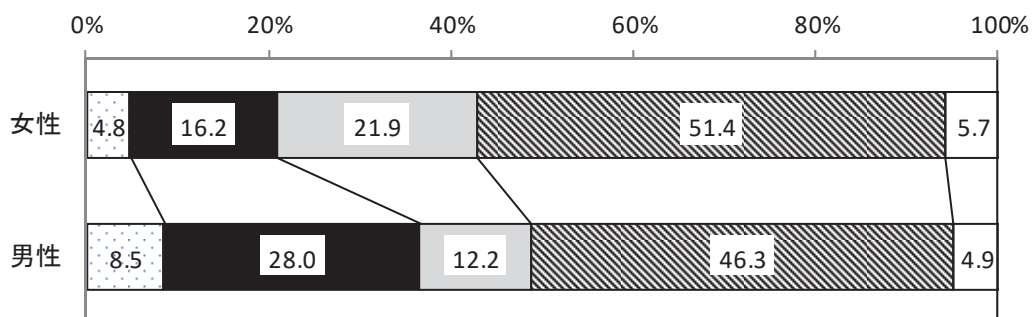
大きな変化はありません。



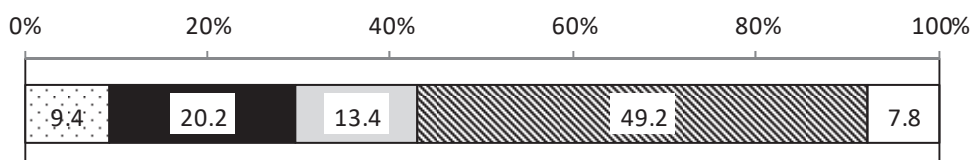
【全 体】



【性 別】



【2014（平成26）年度調査（全体）】



【比較ポイント】

	今回調査	2014（平成26）年度調査	前回調査との数値比較
思う	28.2%	29.6%	→
思わない	66.5%	62.6%	→

(4) 女性は管理職に登用されにくい

56.9%の人が“思わない”と回答

○全体では

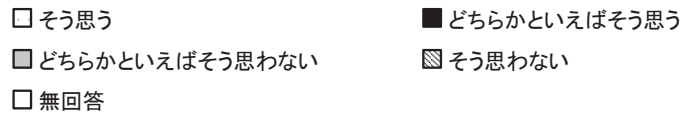
“思う”の割合が37.2%、“思わない”の割合が56.9%となっています。

○性別では

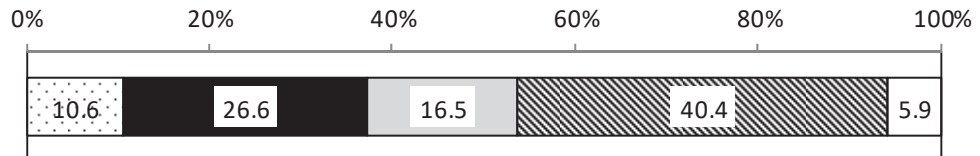
男性に比べ、女性で「どちらかといえばそう思わない」の割合が7.8ポイント高くなっています。また、女性に比べ、男性で「そう思う」の割合が7.0ポイント高くなっています。

○2014（平成26）年度調査との比較

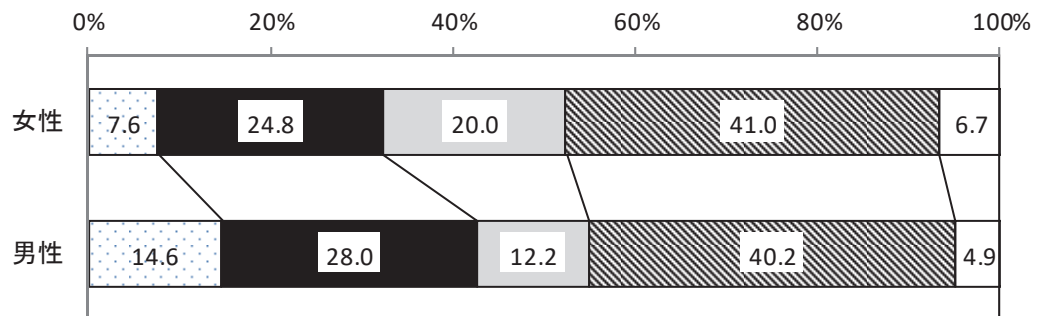
大きな変化はありません。



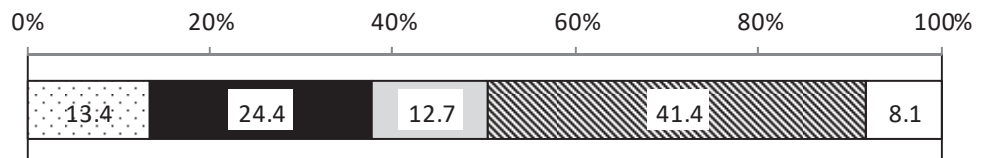
【全 体】



【性 別】



【2014（平成26）年度調査（全体）】



【比較ポイント】

	今回調査	2014（平成26） 年度調査	前回調査との 数値比較
思う	37.2%	37.8%	→
思わない	56.9%	54.1%	→

(5) 配置転換に性別による差がある

61.2%の人が“思わない”と回答

○全体では

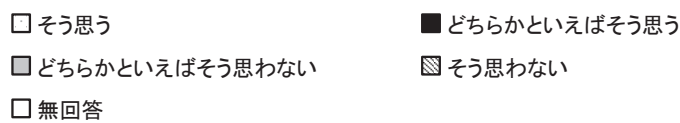
“思う”の割合が32.9%、“思わない”の割合が61.2%となっています。

○性別では

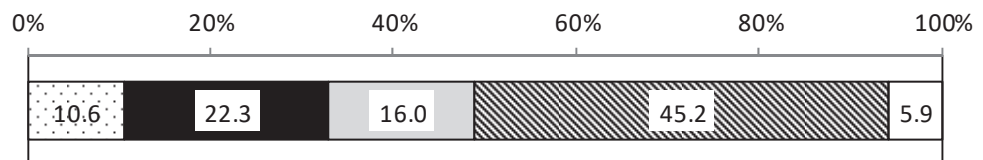
男性に比べ、女性で「どちらかといえばそう思わない」の割合が12.5ポイント、「そう思わない」の割合が9.3ポイント高くなっています。また、女性に比べ、男性で「そう思う」の割合が13.5ポイント、「どちらかといえばそう思う」の割合が9.9ポイント高くなっています。

○2014（平成26）年度調査との比較

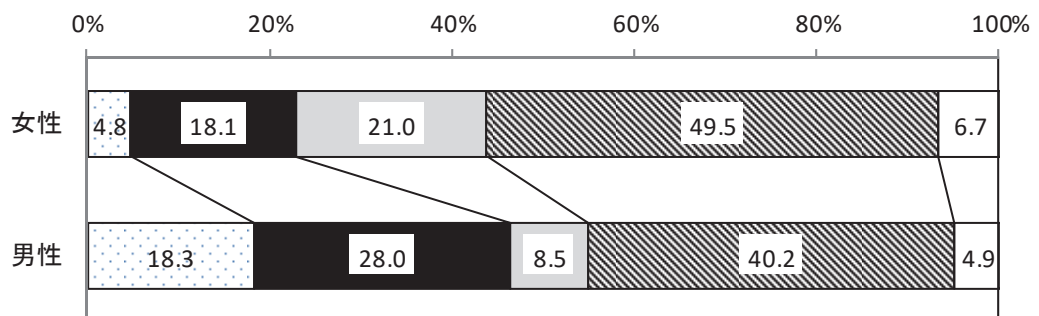
今回調査で「どちらかといえばそう思わない」の割合が5.3ポイント高くなっています。



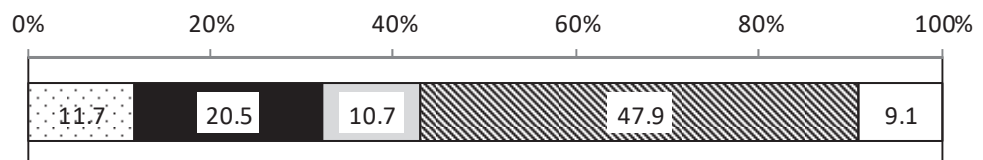
【全 体】



【性 別】



【2014（平成26）年度調査（全体）】



【比較ポイント】

	今回調査	2014（平成26） 年度調査	前回調査との 数値比較
思う	32.9%	32.2%	➔
思わない	61.2%	58.6%	➔

(6) 能力のある女性でも、男性より就きにくい職種がある

50.5%の人が“思わない”と回答

○全体では

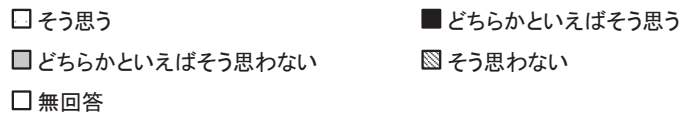
“思う”の割合が43.6%、“思わない”の割合が50.5%となっています。

○性別では

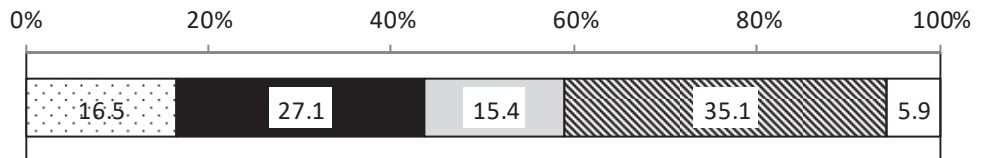
男性に比べ、女性で「どちらかといえばそう思わない」の割合が8.0ポイント高くなっています。また、女性に比べ、男性で「そう思う」の割合が16.1ポイント高くなっています。

○2014（平成26）年度調査との比較

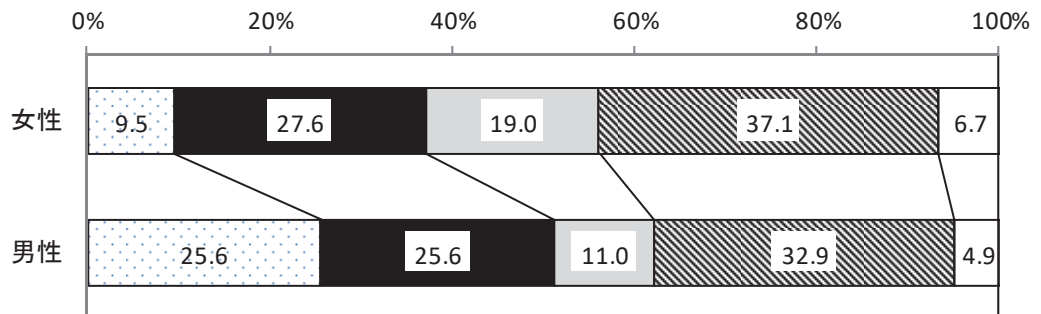
今回調査で「どちらかといえばそう思う」の割合が5.3ポイント高くなっています。



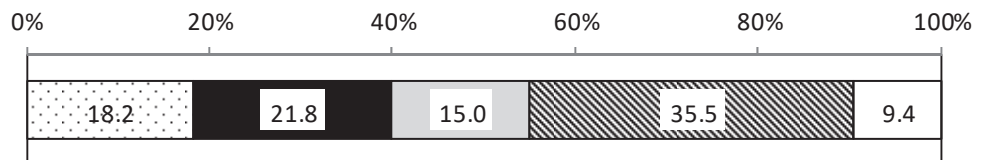
【全 体】



【性 別】



【2014（平成26）年度調査（全体）】



【比較ポイント】

	今回調査	2014（平成26） 年度調査	前回調査との 数値比較
思う	43.6%	40.0%	➔
思わない	50.5%	50.5%	➔

(7) 補助的な仕事や雑用が女性に偏っている

53.7%の人が“思わない”と回答

○全体では

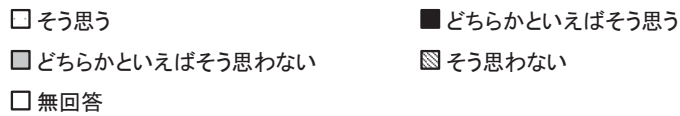
“思う”の割合が40.5%、“思わない”の割合が53.7%となっています。

○性別では

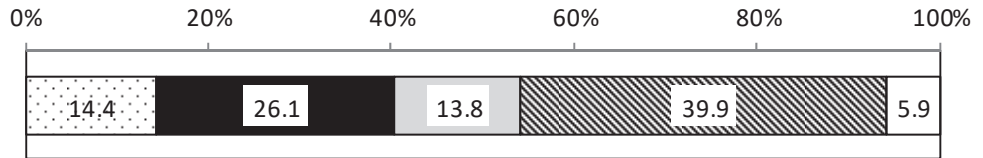
女性に比べ、男性で「どちらかといえばそう思う」の割合が6.4ポイント高くなっています。

○2014（平成26）年度調査との比較

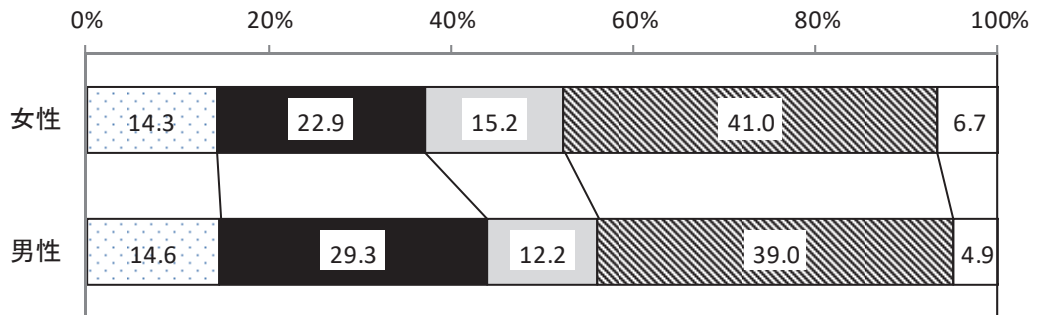
大きな変化はありません。



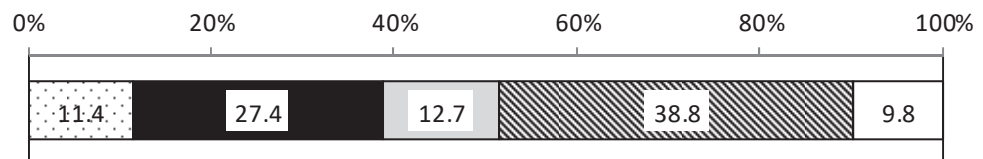
【全 体】



【性 別】



【2014（平成26）年度調査（全体）】



【比較ポイント】

	今回調査	2014（平成26） 年度調査	前回調査との 数値比較
思う	40.5%	38.8%	↗
思わない	53.7%	51.5%	↗

(8) 結婚や出産に際して、女性が働き続けることが難しい

51.6%の人が“思わない”と回答

○全体では

“思う”の割合が42.0%、“思わない”の割合が51.6%となっています。

○性別では

女性に比べ、男性で「そう思う」の割合が10.4ポイント高くなっています。また、男性に比べ、女性で「どちらかといえばそう思わない」の割合が9.2ポイント高くなっています。

○2014（平成26）年度調査との比較

今回調査で「どちらかといえばそう思わない」の割合が6.5ポイント高くなっています。

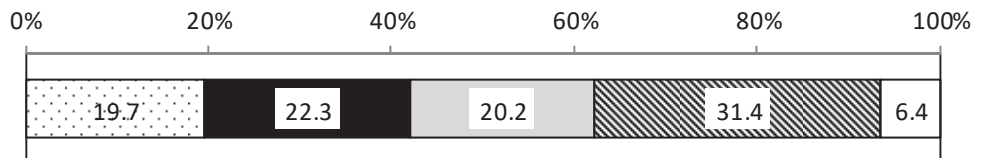
- そう思う

■ どちらかといえばそう思わない

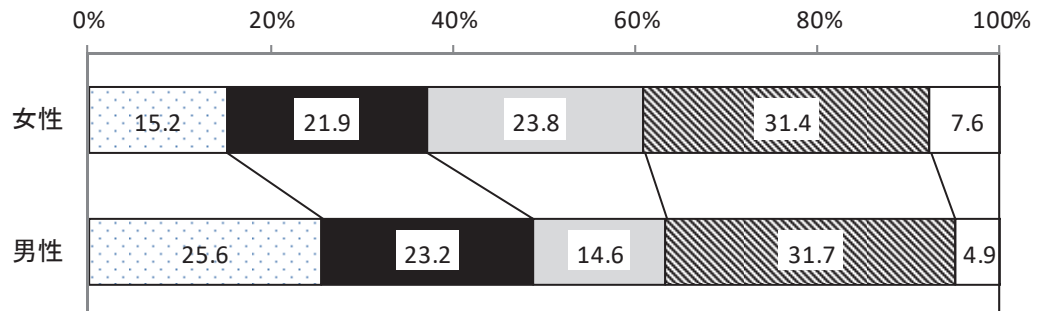
□ 無回答
- どちらかといえばそう思う

▨ そう思わない

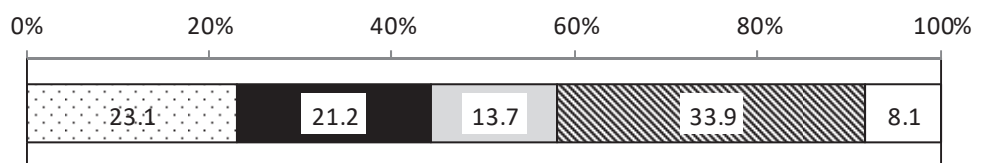
【全 体】



【性 別】



【2014（平成26）年度調査（全体）】



【比較ポイント】

	今回調査	2014（平成26） 年度調査	前回調査との 数値比較
思う	42.0%	44.3%	→
思わない	51.6%	47.6%	→

(9) 男性の方が育児休業や介護休暇がとりにくい

66.5%の人が“思う”と回答

○全体では

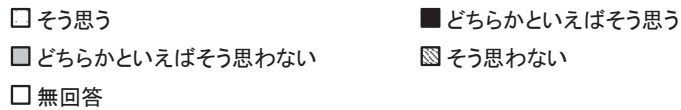
“思う”の割合が66.5%、“思わない”の割合が27.6%となっています。

○性別では

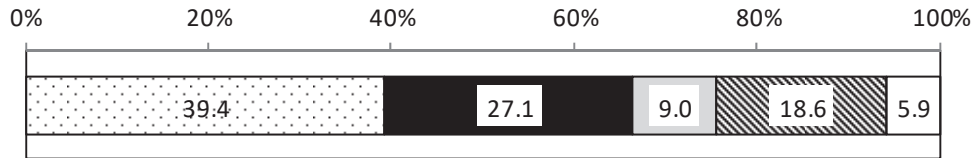
女性に比べ、男性で「そう思う」の割合が9.9ポイント高くなっています。

○2014（平成26）年度調査との比較

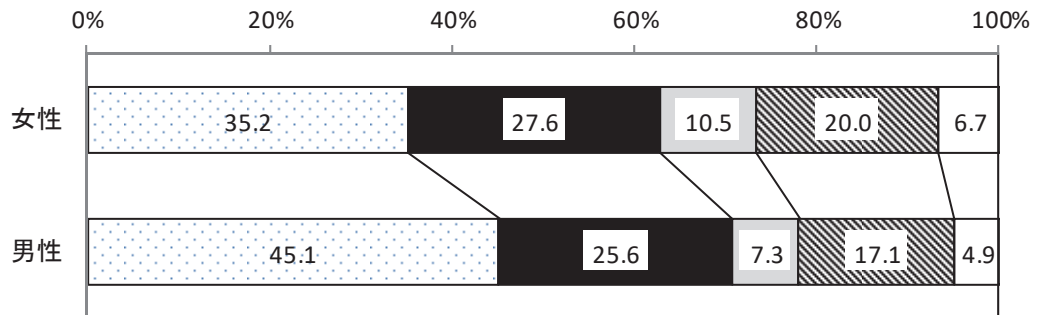
大きな変化はありません。



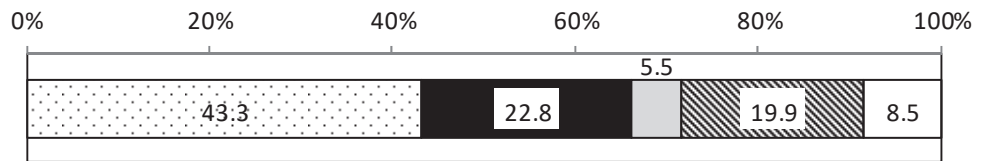
【全 体】



【性 別】



【2014（平成26）年度調査（全体）】



【比較ポイント】

	今回調査	2014（平成26） 年度調査	前回調査との 数値比較
思う	66.5%	66.1%	➔
思わない	27.6%	25.4%	➔

(10) 男性の方が残業が多い

52.1%の人が“思わない”と回答

○全体では

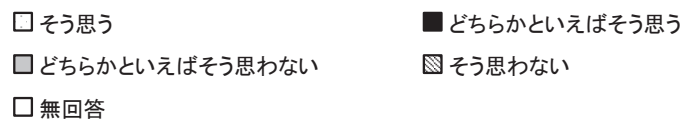
“思う”の割合が42.0%、“思わない”の割合が52.1%となっています。

○性別では

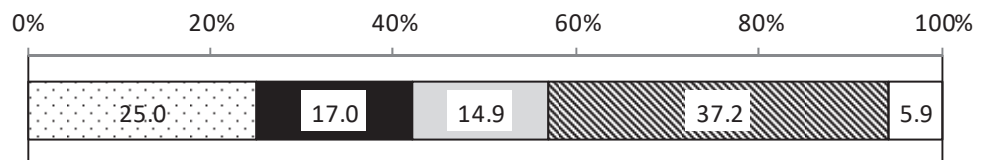
男性に比べ、女性で「どちらかといえばそう思わない」の割合が15.8ポイント、「そう思わない」の割合が8.1ポイント高くなっています。また、女性に比べ、男性で「そう思う」の割合が16.0ポイント、「どちらかといえばそう思う」の割合が9.6ポイント高くなっています。

○2014（平成26）年度調査との比較

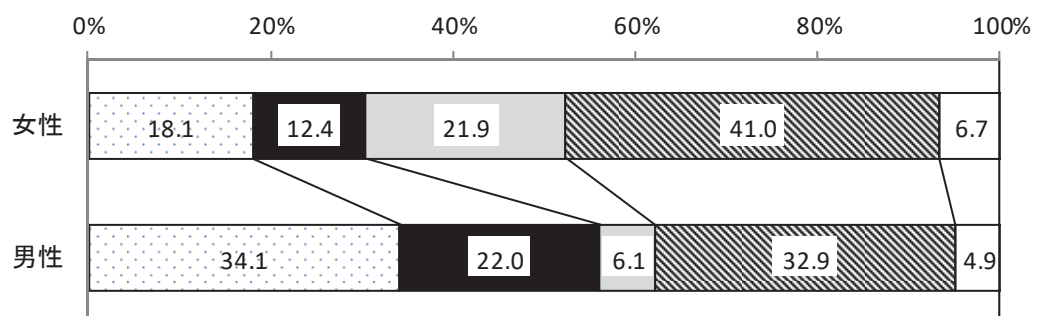
今回調査で「そう思わない」の割合が6.6ポイント高くなっています。



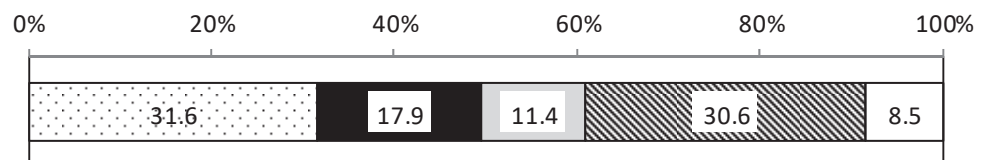
【全 体】



【性 別】



【2014（平成26）年度調査（全体）】



【比較ポイント】

	今回調査	2014（平成26）年度調査	前回調査との数値比較
思う	42.0%	49.5%	→
思わない	52.1%	42.0%	↑

(11) 人員削減する場合、男性より女性の方が解雇されやすい

73.4%の人が“思わない”と回答

○全体では

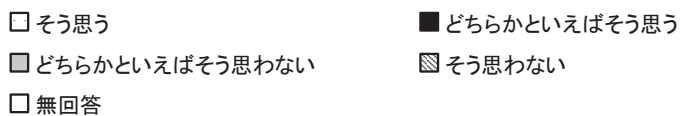
“思う”の割合が20.8%、“思わない”の割合が73.4%となっています。

○性別では

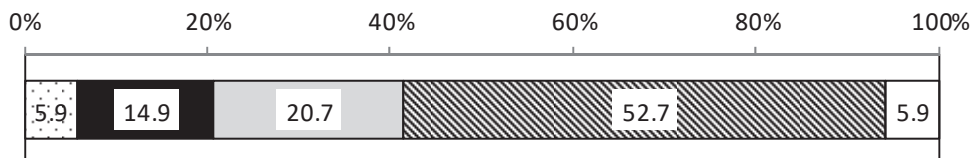
男性に比べ、女性で「そう思う」の割合が6.2ポイント、「どちらかといえばそう思わない」の割合が11.1ポイント高くなっています。また、女性に比べ、男性で「そう思わない」の割合が14.3ポイント高くなっています。

○2014（平成26）年度調査との比較

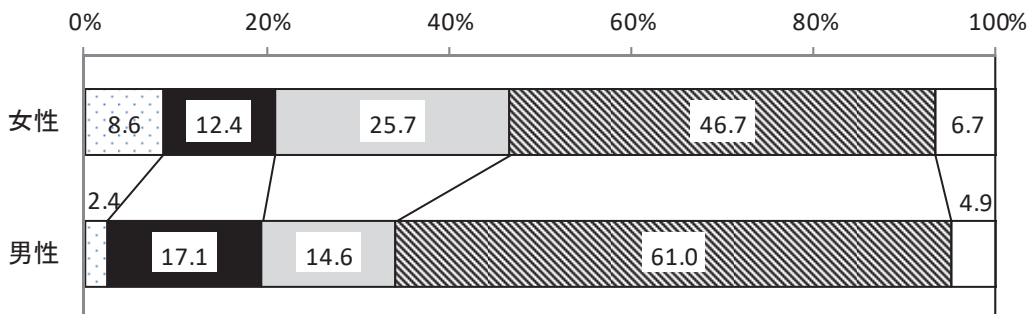
今回調査で「どちらかといえばそう思わない」の割合が7.3ポイント高くなっています。



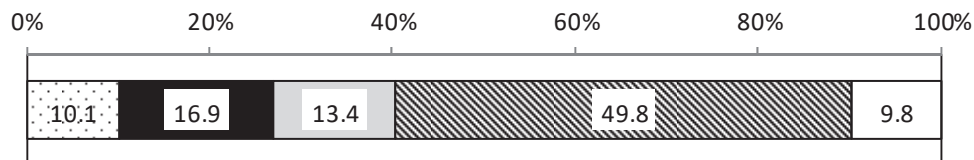
【全 体】



【性 別】



【2014（平成26）年度調査（全体）】



【比較ポイント】

	今回調査	2014（平成26） 年度調査	前回調査との 数値比較
思う	20.8%	27.0%	→
思わない	73.4%	63.2%	→

問12 あなたは、男女がともに働きやすい環境をつくるためには、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまる番号に○印をつけてください。(○印は3つ以内)

40.2%の人が「育児・介護休業などの休業中に所得保障があること」と回答

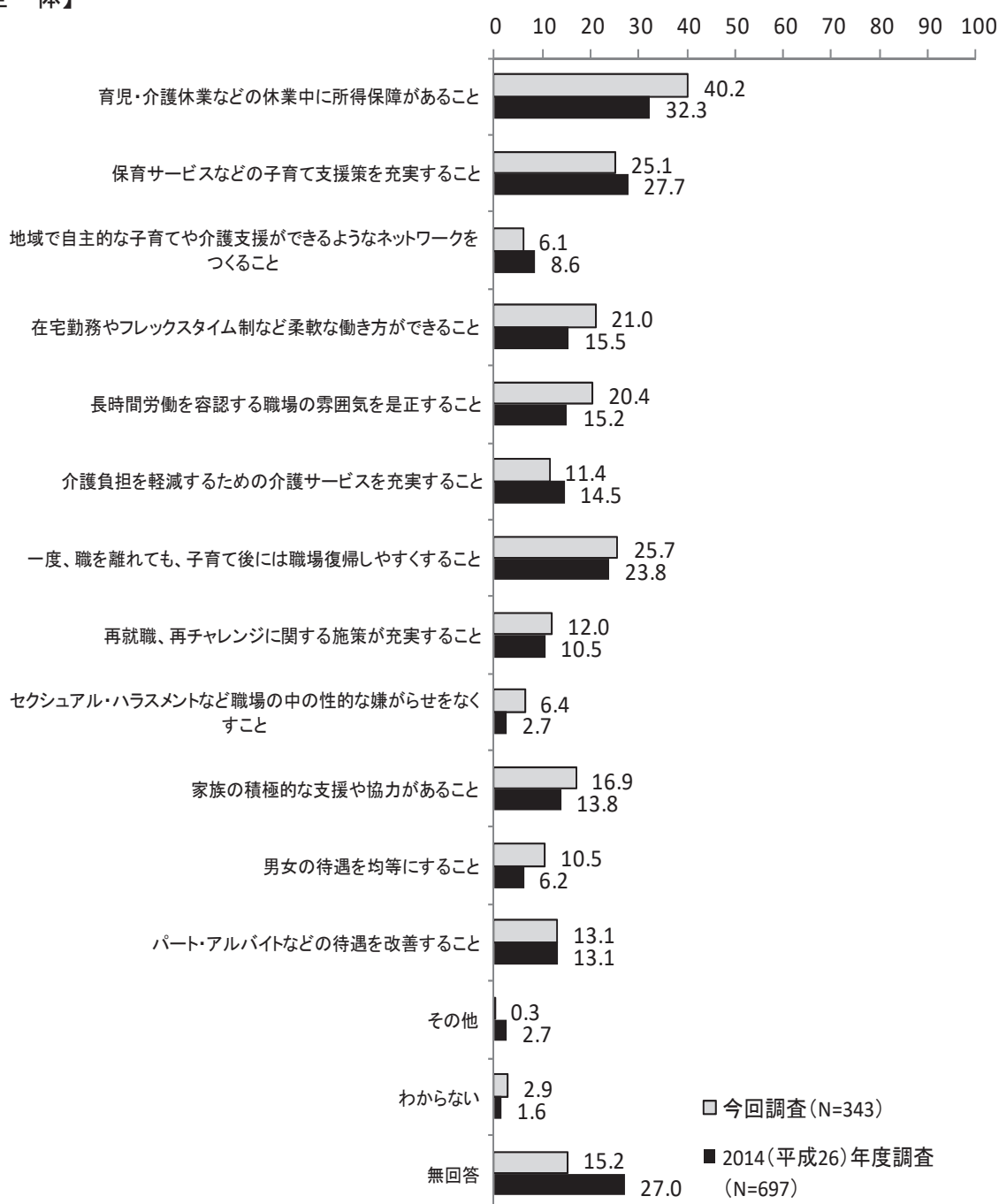
○全体では

「育児・介護休業などの休業中に所得保障があること」の割合が40.2%と最も高く、次いで「一度、職を離れても、子育て後には職場復帰しやすくすること」の割合が25.7%、「保育サービスなどの子育て支援策を充実すること」の割合が25.1%となっています。

○2014（平成26）年度調査との比較

今回調査で「育児・介護休業などの休業中に所得保障があること」の割合が7.9ポイント、「在宅勤務やフレックスタイム制など柔軟な働き方ができること」の割合が5.5ポイント、「長時間労働を容認する職場の雰囲気は是正すること」の割合が5.2ポイント高くなっています。

【全体】



【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「保育サービスなどの子育て支援策を充実すること」の割合が8.8ポイント、「男女の待遇を均等にすること」の割合が5.6ポイント高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	育児・介護休業などの休業中に所得保障があること	保育サービスなどの子育て支援策を充実すること	地域で自主的な子育てや介護支援ができるようなネットワークをつくること	在宅勤務やフレックスタイム制など柔軟な働き方ができること	長時間労働を容認する職場の雰囲気是正すること	介護負担を軽減するための介護サービスを充実すること	一度、職を離れても、子育て後には職場復帰しやすくすること
女性	195	40.0	21.5	4.6	21.5	19.5	10.3	25.1
男性	145	40.0	30.3	8.3	20.7	22.1	12.4	26.9

区分	再就職、再チャレンジに関する施策が充実すること	セクシュアル・ハラスメントなど職場の中の性的な嫌がらせをなくすこと	家族の積極的な支援や協力があること	男女の待遇を均等にすること	パート・アルバイトなどの待遇を改善すること	その他	わからない	無回答
女性	10.8	6.7	19.0	8.2	14.4	0.5	4.1	15.9
男性	13.1	6.2	14.5	13.8	11.0	0.0	0.7	14.5

【結婚の有無別】

結婚の有無別でみると、結婚している、結婚していないで「長時間労働を容認する職場の雰囲気は是正すること」の割合が高くなっています。また、他に比べ、結婚しているで「男女の待遇を均等にすること」の割合が低くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	育児・介護休業などの休業中に所得保障があること	保育サービスなどの子育て支援策を充実すること	地域で自主的な子育てや介護支援ができるようなネットワークをつくること	在宅勤務やフレックスタイト制など柔軟な働き方ができること	長時間労働を容認する職場の雰囲気を是正すること	介護負担を軽減するための介護サービスを充実すること	一度、職を離れても、子育て後には職場復帰しやすくなること
結婚している	267	37.8	25.8	7.5	20.2	21.0	12.7	25.1
結婚していないがパートナーと暮らしている	0	—	—	—	—	—	—	—
離別した	10	40.0	10.0	—	30.0	—	10.0	30.0
死別した	20	35.0	25.0	—	10.0	10.0	10.0	25.0
結婚していない	44	36.4	25.0	2.3	29.5	27.3	2.3	29.5

区分	セクシュアル・ハラスメントなど職場の中の性的な嫌がらせをなくすこと	家族の積極的な支援や協力があること	男女の待遇を均等にすること	パート・アルバイトなどの待遇を改善すること	その他	わからない	無回答
結婚している	6.0	16.9	8.6	13.5	0.4	2.2	16.5
結婚していないがパートナーと暮らしている	—	—	—	—	—	—	—
離別した	10.0	20.0	20.0	10.0	—	10.0	—
死別した	—	30.0	15.0	5.0	—	10.0	20.0
結婚していない	11.4	11.4	18.2	13.6	—	2.3	9.1

5 配偶者・恋人等からの暴力について

問13 あなたはこれまでに、あなたの配偶者（事実婚や別居中を含む）や恋人から、次のようなことをされたことがありますか。（1）～（12）の項目について、あてはまる番号に○印をつけてください。（○印は1つずつ）

（1） 命の危険を感じるくらいの暴行を受けた

90.7%の人が「まったくない」と回答

○全体では

「まったくない」の割合が90.7%と最も高くなっています。

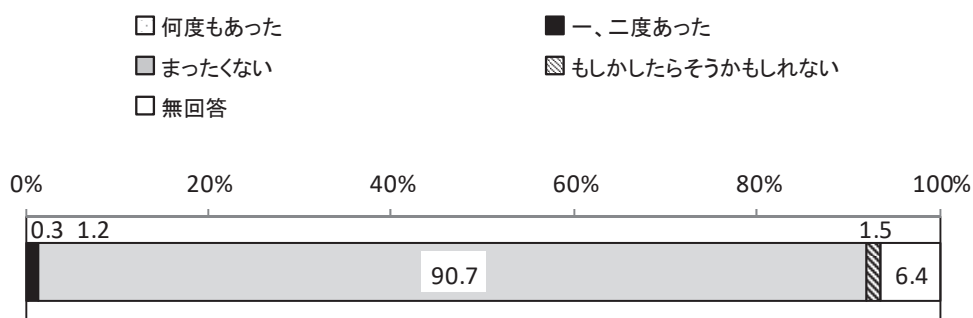
○性別では

女性に比べ、男性で「まったくない」の割合が5.1ポイント高くなっています。

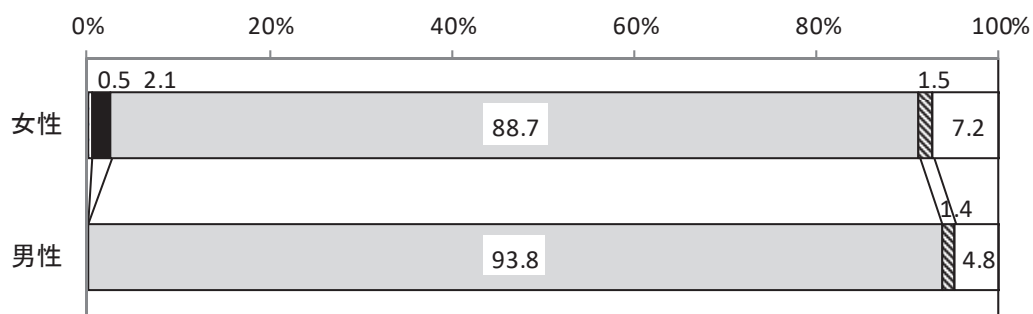
○2014（平成26）年度調査との比較

大きな変化はありません。

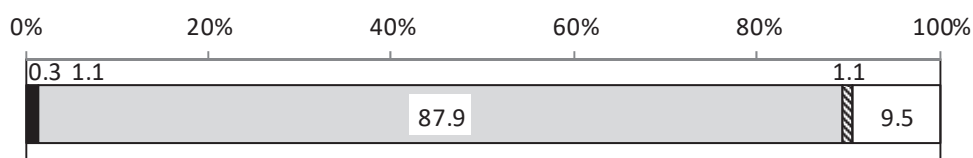
【全 体】



【性 別】



【2014（平成26）年度調査（全体）】



【比較ポイント】

	今回調査	2014（平成26）年度調査	前回調査との数値比較
何度もあった	0.3%	0.3%	→

(2) 医師の治療が必要となるような暴行を受けた

91.5%の人が「まったくない」と回答

○全体では

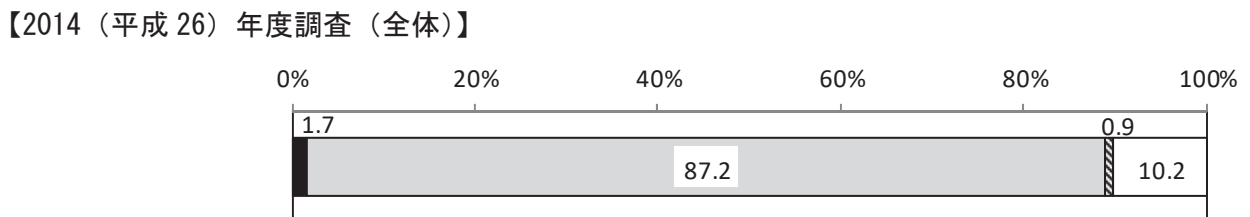
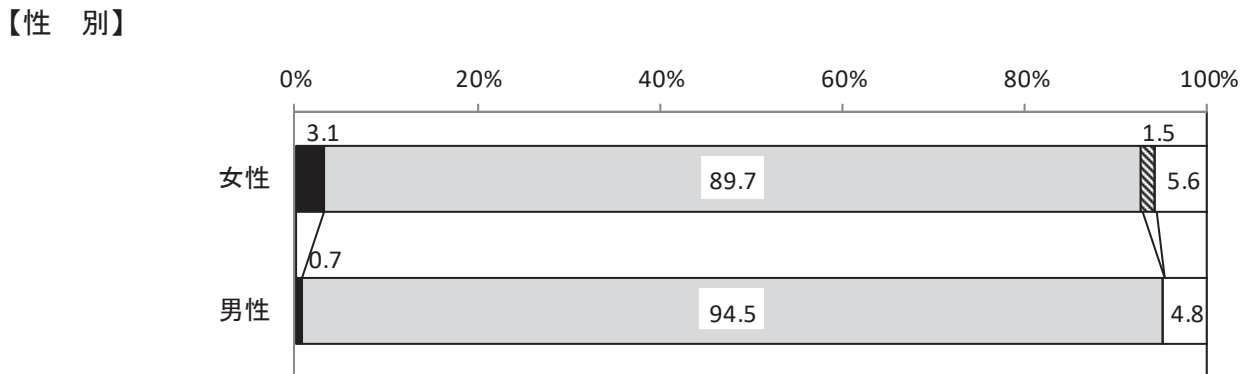
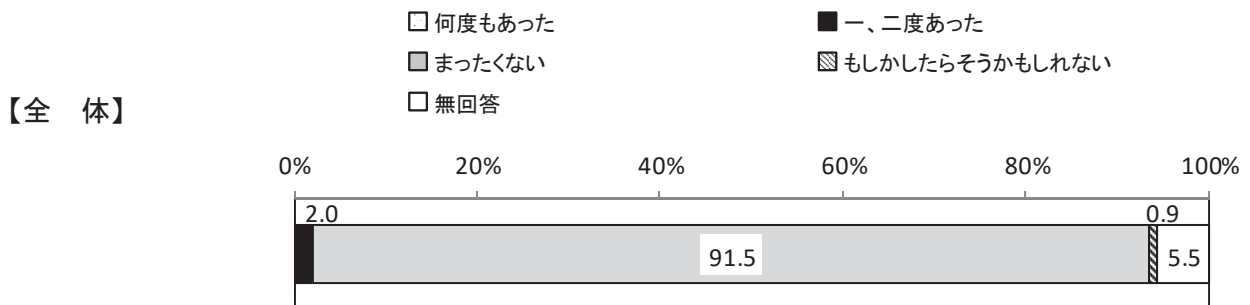
「まったくない」の割合が91.5%と最も高くなっています。

○性別では

大きな差はありません。

○2014（平成26）年度調査との比較

大きな変化はありません。



【比較ポイント】

	今回調査	2014（平成26） 年度調査	前回調査との 数値比較
何度もあった	0.0%	0.0%	➡

(3) 医師の治療が必要ではない程度の暴行を受けた

87.2%の人が「まったくない」と回答

○全体では

「まったくない」の割合が87.2%と最も高くなっています。

○性別では

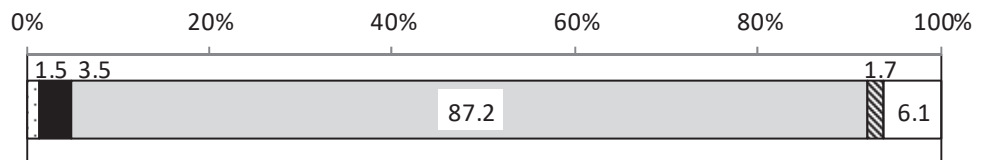
女性に比べ、男性で「まったくない」の割合が8.8ポイント高くなっています。

○2014（平成26）年度調査との比較

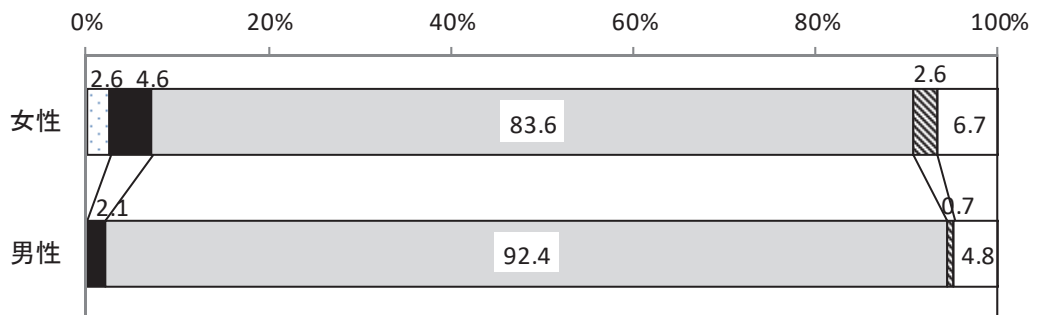
大きな変化はありません。



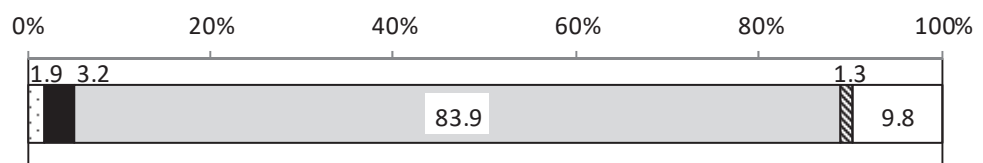
【全 体】



【性 別】



【2014（平成26）年度調査（全体）】



【比較ポイント】

	今回調査	2014（平成26） 年度調査	前回調査との 数値比較
何どもあった	1.5%	1.9%	➡

(4) いやがっているのに、性的な行為を強要された

84.5%の人が「まったくない」と回答

○全体では

「まったくない」の割合が84.5%と最も高くなっています。

○性別では

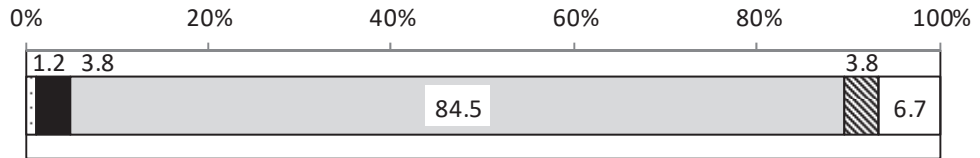
男性に比べ、女性で「一、二度あった」の割合が5.5ポイント高くなっています。また、女性に比べ、男性で「まったくない」の割合が12.2ポイント高くなっています。

○2014（平成26）年度調査との比較

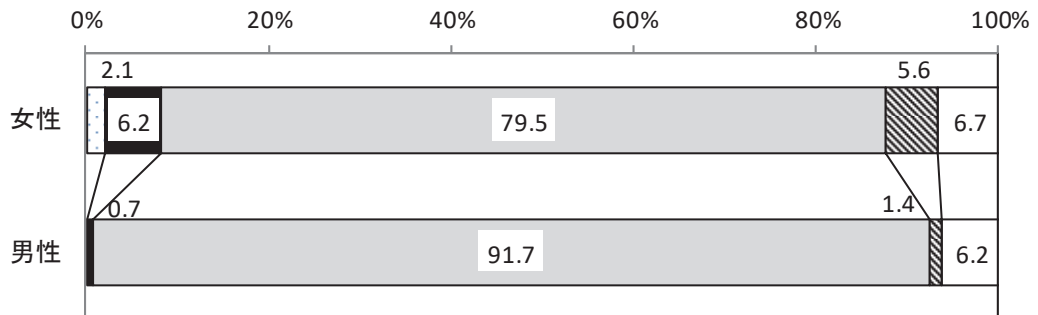
大きな変化はありません。



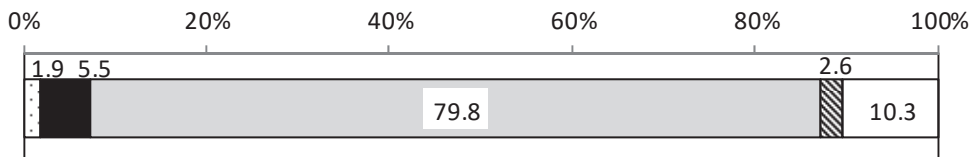
【全 体】



【性 別】



【2014（平成26）年度調査（全体）】



【比較ポイント】

	今回調査	2014（平成26） 年度調査	前回調査との 数値比較
何どもあった	1.2%	1.9%	→

(5) 目の前で家具や物を壊したり、投げつけたりして威嚇された
77.8%の人が「まったくない」と回答

○全体では

「まったくない」の割合が77.8%と最も高くなっています。

○性別では

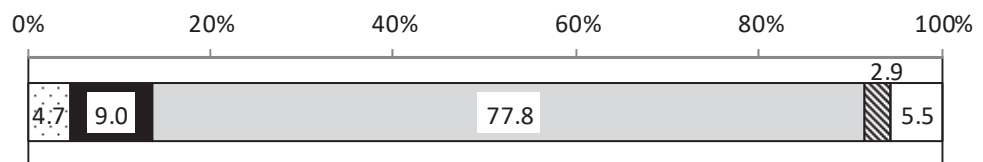
男性に比べ、女性で「何度もあった」の割合が7.0ポイント、「一、二度あった」の割合が6.3ポイント高くなっています。また、女性に比べ、男性で「まったくない」の割合が14.4ポイント高くなっています。

○2014（平成26）年度調査との比較

大きな変化はありません。



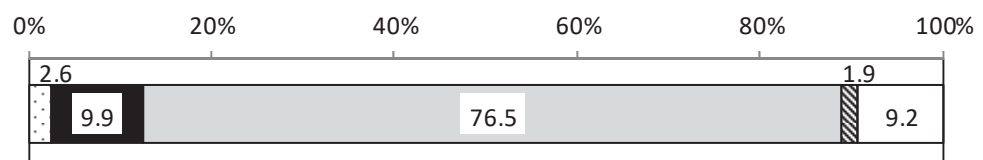
【全 体】



【性 別】



【2014（平成26）年度調査（全体）】



【比較ポイント】

	今回調査	2014（平成26）年度調査	前回調査との数値比較
何度もあった	4.7%	2.6%	➔

(6) 避妊に協力しなかった

84.5%の人が「まったくない」と回答

○全体では

「まったくない」の割合が84.5%と最も高くなっています。

○性別では

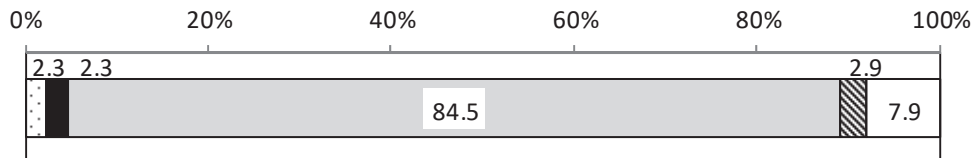
女性に比べ、男性で「まったくない」の割合が5.0ポイント高くなっています。

○2014（平成26）年度調査との比較

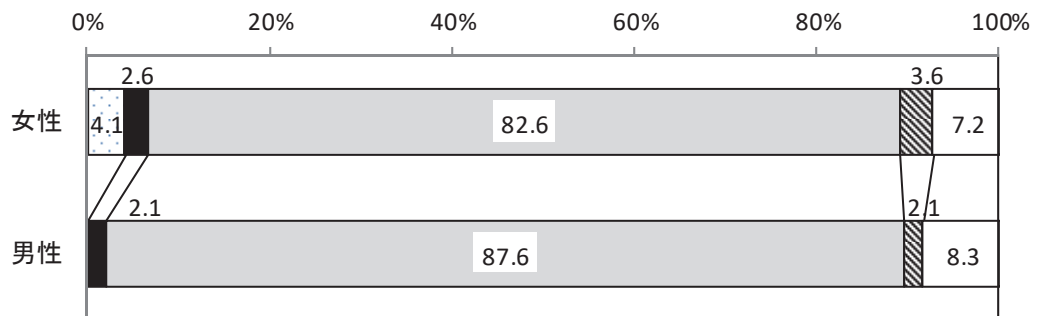
大きな変化はありません。



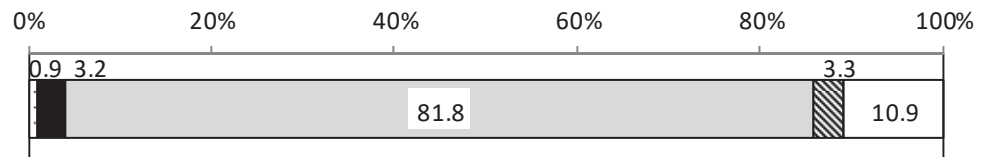
【全 体】



【性 別】



【2014（平成26）年度調査（全体）】



【比較ポイント】

	今回調査	2014（平成26） 年度調査	前回調査との 数値比較
何度もあった	2.3%	0.9%	➔

(7) 何を言っても、無視され続けた
79.6%の人が「まったくない」と回答

○**全体では**

「まったくない」の割合が79.6%と最も高くなっています。

○**性別では**

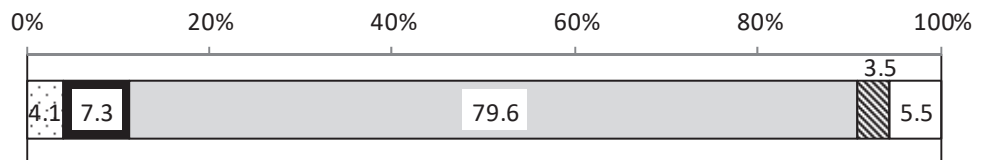
大きな差はありません。

○**2014（平成26）年度調査との比較**

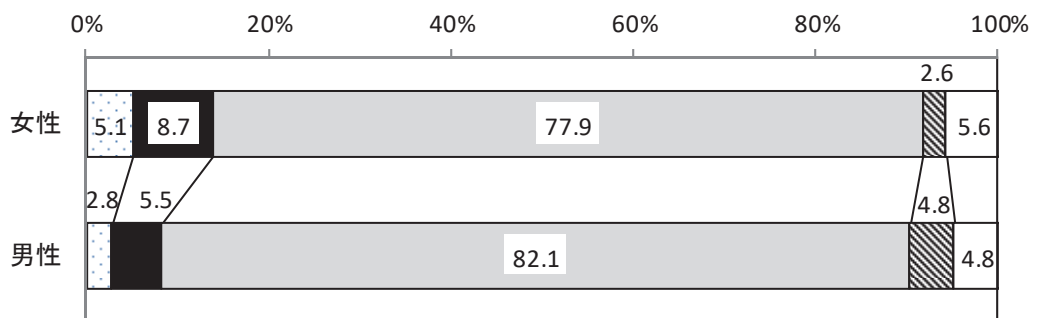
今回調査で「まったくない」の割合が7.7ポイント高くなっています。



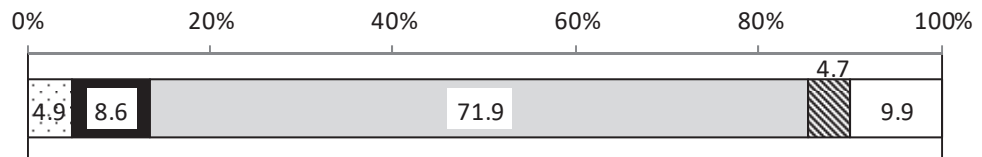
【全 体】



【性 別】



【2014（平成26）年度調査（全体）】



【比較ポイント】

	今回調査	2014（平成26） 年度調査	前回調査との 数値比較
何どもあった	4.1%	4.9%	→

(8) 交友関係や電話、郵便物を細かく監視された

86.3%の人が「まったくない」と回答

○**全体では**

「まったくない」の割合が86.3%と最も高くなっています。

○**性別では**

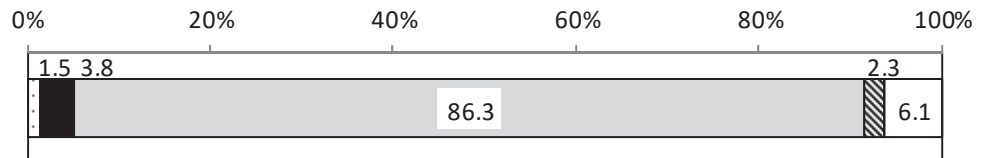
女性に比べ、男性で「まったくない」の割合が8.6ポイント高くなっています。

○**2014（平成26）年度調査との比較**

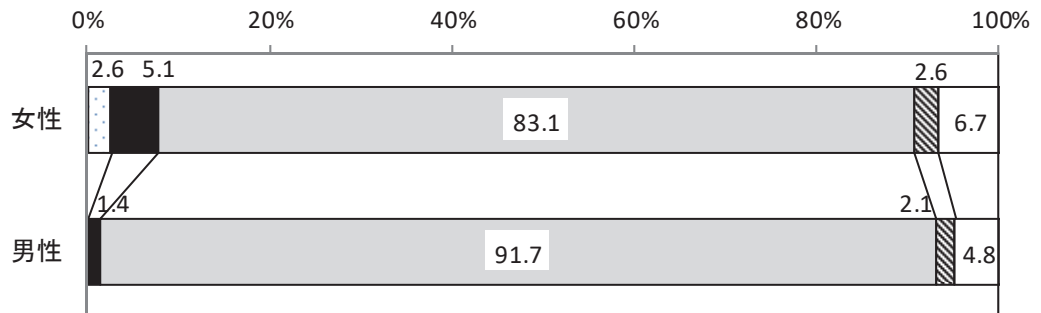
大きな変化はありません。



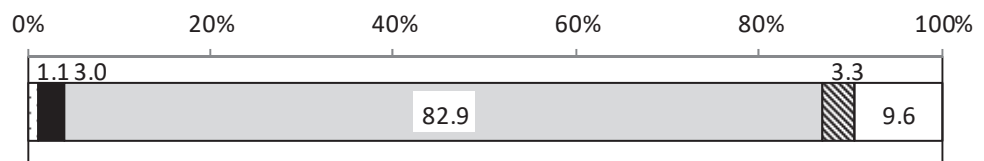
【全 体】



【性 別】



【2014（平成26）年度調査（全体）】



【比較ポイント】

	今回調査	2014（平成26） 年度調査	前回調査との 数値比較
何度もあった	1.5%	1.1%	➔

(9) 「誰のおかげで生活できるのか」や「役立たず」など、人格を否定することを言われた
82.2%の人が「まったくない」と回答

○**全体では**

「まったくない」の割合が82.2%と最も高くなっています。

○**性別では**

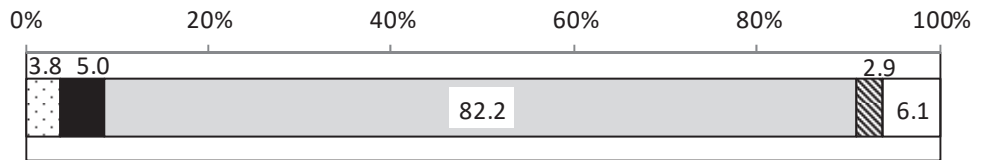
男性に比べ、女性で「そう思う」の割合が5.5ポイント、「一、二度あった」の割合が5.1ポイント高くなっています。また、女性に比べ、男性で「まったくない」の割合が12.8ポイント高くなっています。

○**2014（平成26）年度調査との比較**

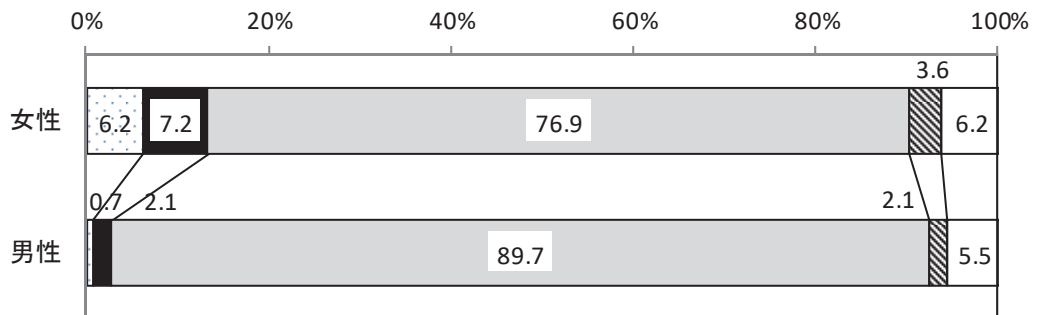
今回調査で「まったくない」の割合が5.0ポイント高くなっています。



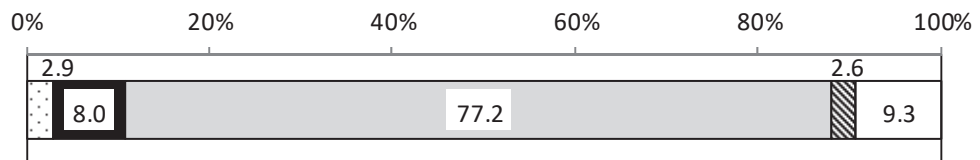
【**全 体**】



【**性 別**】



【**2014（平成26）年度調査（全体）**】



【**比較ポイント**】

	今回調査	2014（平成26） 年度調査	前回調査との 数値比較
何度もあった	3.8%	2.9%	➔

(10) 大声でどなられた

64.5%の人が「まったくない」と回答

○全体では

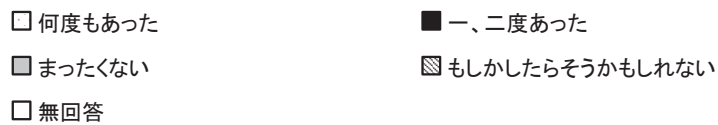
「何度もあった」と「一、二度あった」という「あった」割合が24.2%となっています。

○性別では

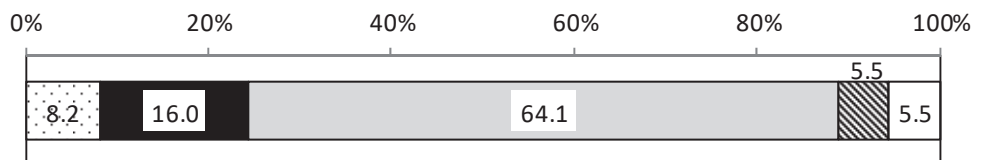
男性に比べ、女性で「何度もあった」の割合が7.2ポイント、「一、二度あった」の割合が7.8ポイント高くなっています。また、女性に比べ、男性で「まったくない」の割合が18.8ポイント高くなっています。

○2014（平成26）年度調査との比較

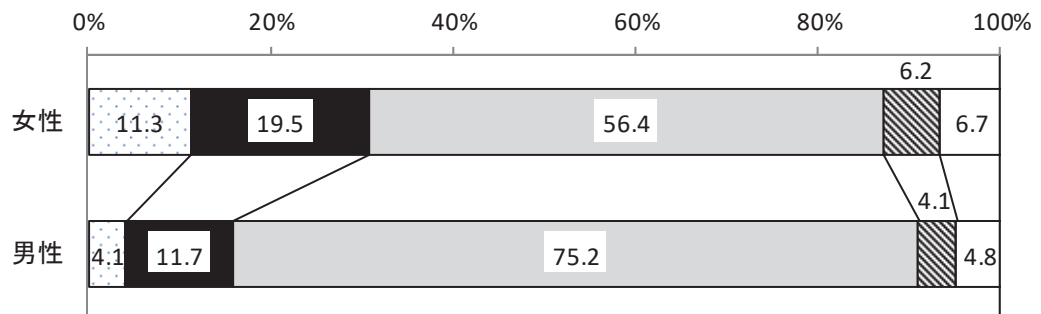
大きな変化はありません。



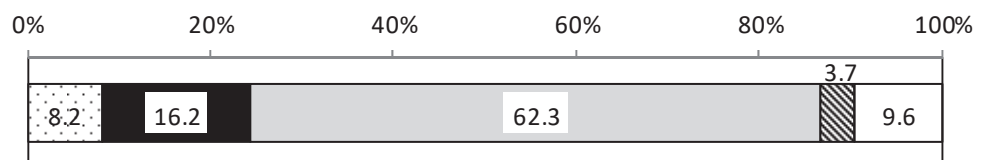
【全 体】



【性 別】



【2014（平成26）年度調査（全体）】



【比較ポイント】

	今回調査	2014（平成26）年度調査	前回調査との数値比較
何どもあった	8.2%	8.2%	→

(11) 生活費を渡さないなど、経済的に押さえつけられた
87.8%の人が「まったくない」と回答

○**全体では**

「まったくない」の割合が87.8%と最も高くなっています。

○**性別では**

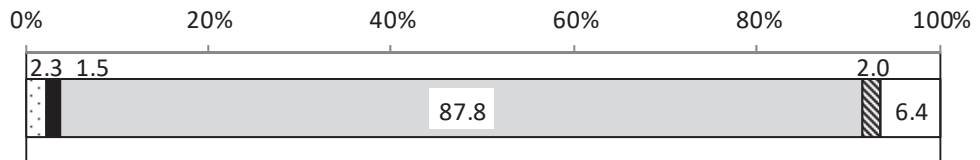
女性に比べ、男性で「まったくない」の割合が11.4ポイント高くなっています。

○**2014（平成26）年度調査との比較**

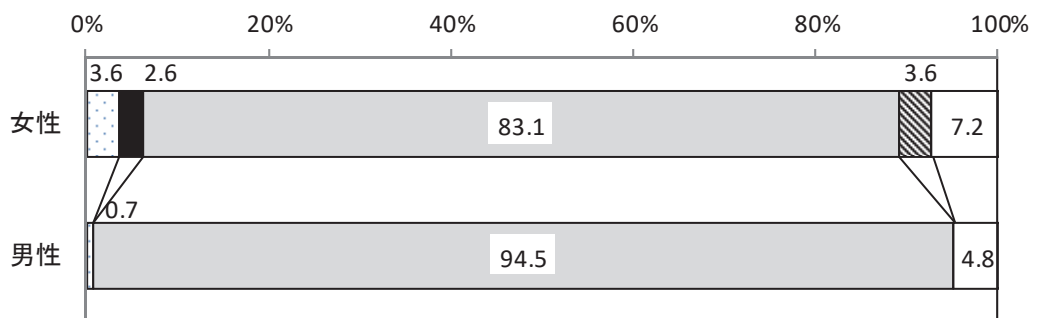
大きな差はありません。



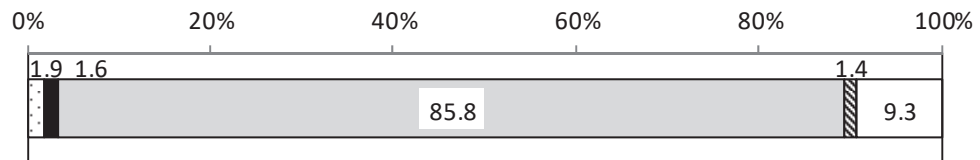
【全 体】



【性 別】



【2014（平成26）年度調査（全体）】



【比較ポイント】

	今回調査	2014（平成26） 年度調査	前回調査との 数値比較
何どもあった	2.3%	1.9%	▲

(12) 子どもの前で暴力を振るう、子どもに自分の悪口を言うなどされた
83.4%の人が「まったくない」と回答

○全体では

「まったくない」の割合が83.4%と最も高くなっています。

○性別では

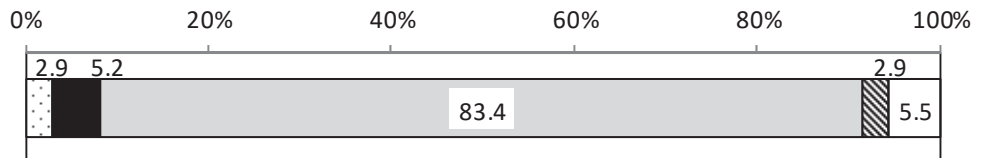
女性に比べ、男性で「まったくない」の割合が7.1ポイント高くなっています。

○2014（平成26）年度調査との比較

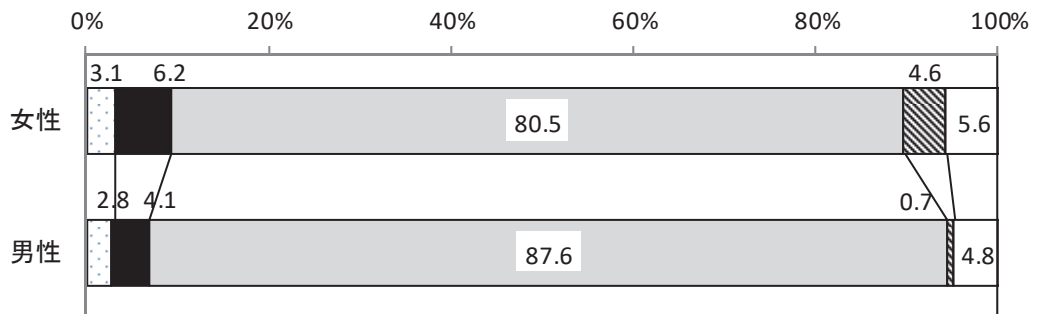
大きな差はありません。



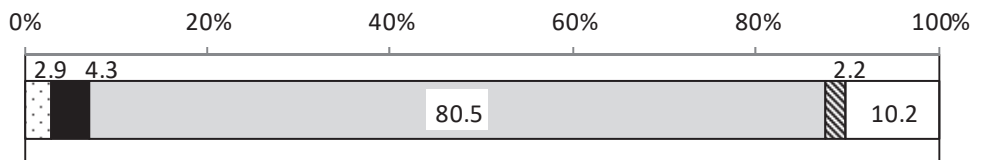
【全 体】



【性 別】



【2014（平成26）年度調査（全体）】



【比較ポイント】

	今回調査	2014（平成26） 年度調査	前回調査との 数値比較
何どもあった	2.9%	2.9%	→

問 14 問 13 で「何度もあった」、「一、二度あった」、「もしかしたらそうかもしれない」に○をつけた人におたずねします。（「まったくない」に○をつけた人は、問 15 に進んでください。）あなたは、その行為について、誰かにうちあけたり相談したりしましたか。あてはまる番号に○印をつけてください。

54.7%の人が「どこにも相談しなかった」と回答

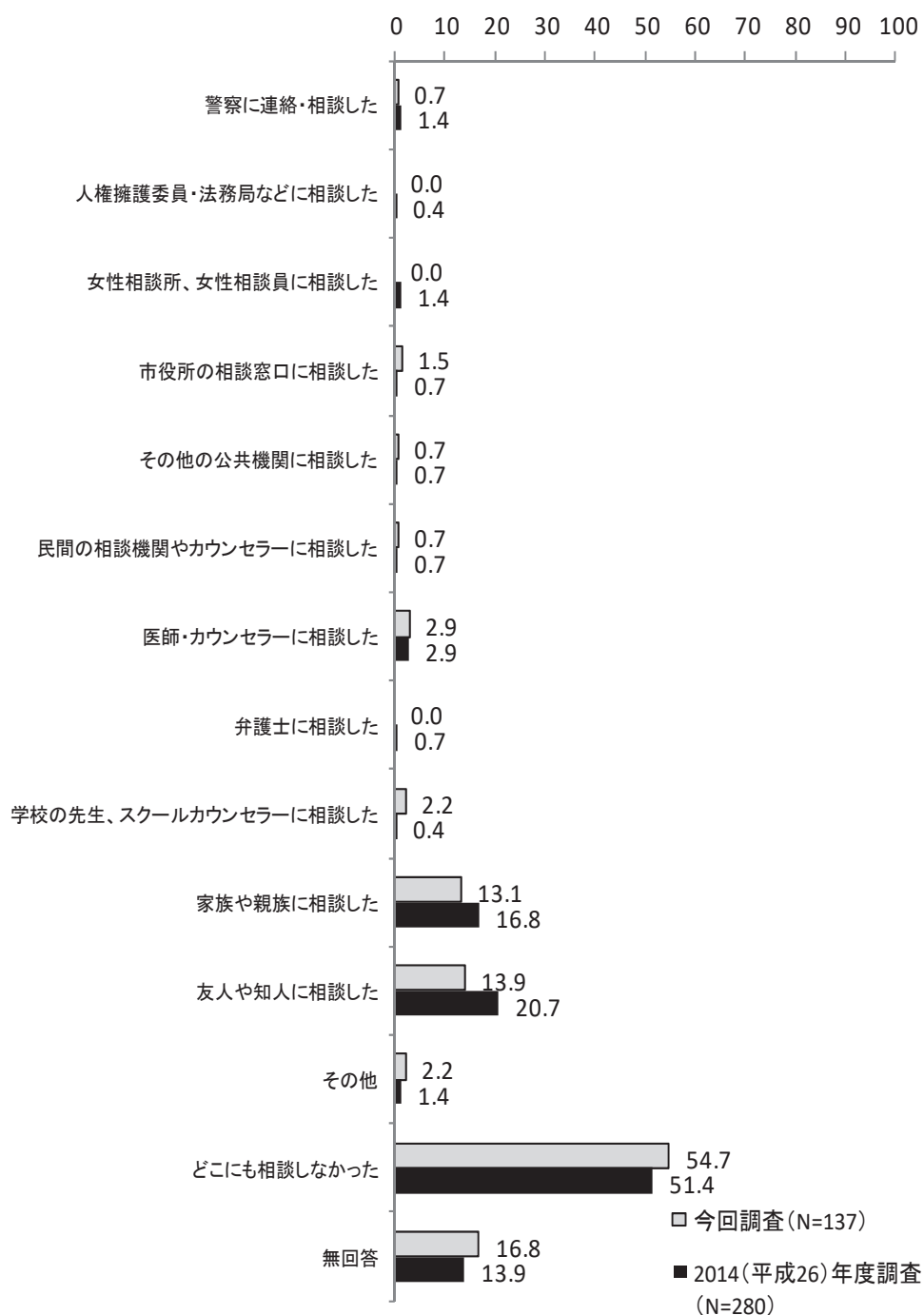
○全体では

「どこにも相談しなかった」の割合が 54.7%と最も高く、次いで「友人や知人に相談した」の割合が 13.9%、「家族や親族に相談した」の割合が 13.1%となっています。

○2014（平成 26）年度調査との比較

大きな変化はありません。

【全 体】



【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「家族や親族に相談した」の割合が 11.8 ポイント高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	警察に連絡・相談した	人権擁護委員・法務局などに相談した	女性相談所、女性相談員に相談した	市役所の相談窓口相談した	その他の公共機関に相談した	民間の相談機関やカウンセラーに相談した	医師・カウンセラーに相談した	弁護士に相談した	学校の先生、スクールカウンセラーに相談した	家族や親族に相談した	友人や知人に相談した	その他	どこにも相談しなかった	無回答
女性	96	1.0	—	—	2.1	1.0	1.0	3.1	—	2.1	16.7	14.6	3.1	53.1	14.6
男性	41	—	—	—	—	—	—	2.4	—	2.4	4.9	12.2	—	56.1	22.0

問15 あなたは、配偶者や恋人等からの暴力をなくすためには、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまる番号に○印をつけてください。(○印は3つ以内)

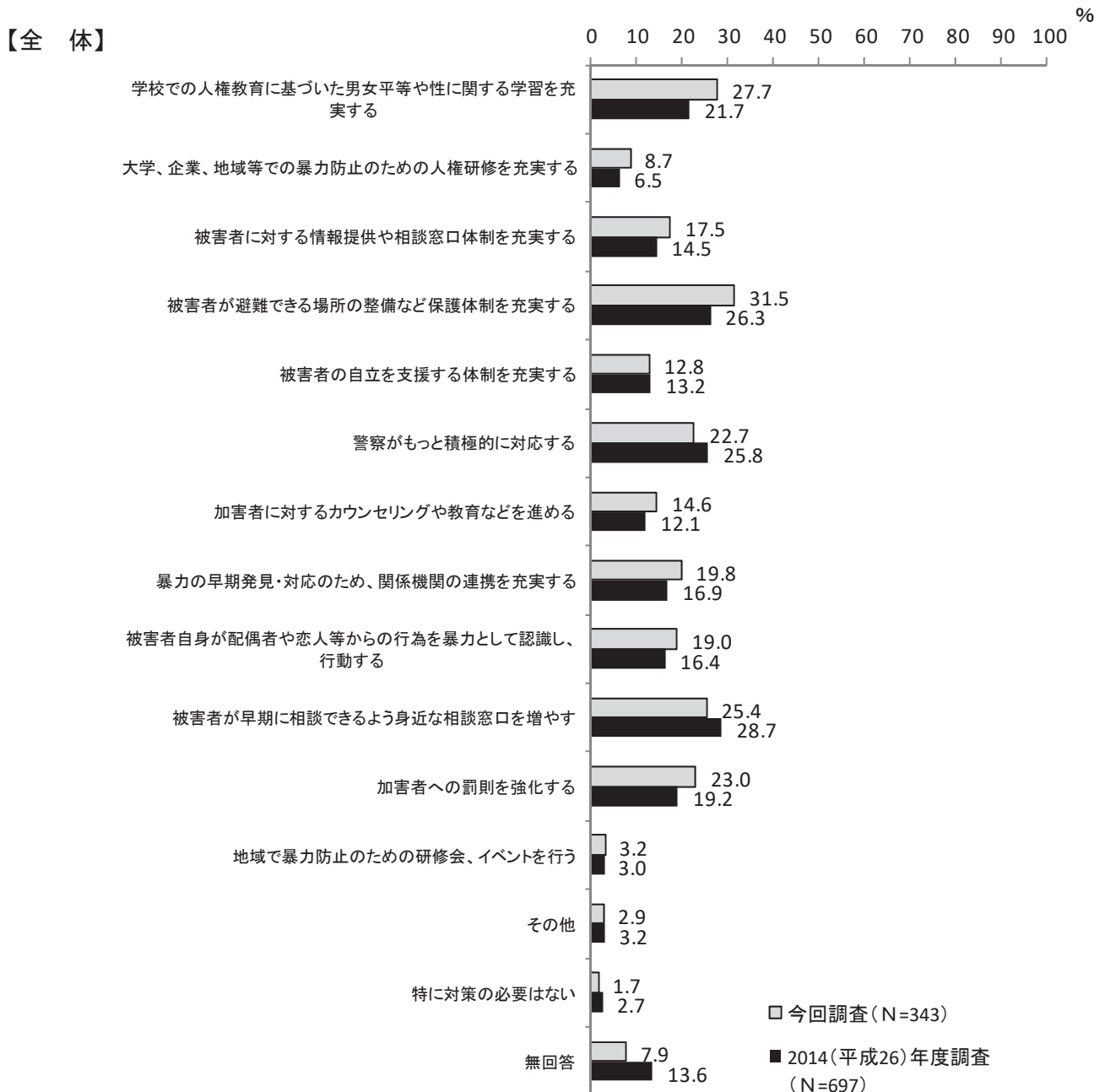
31.5%の人が「被害者が避難できる場所の整備など保護体制を充実する」と回答

○全体では

「被害者が避難できる場所の整備など保護体制を充実する」の割合が31.5%と最も高く、次いで「学校での人権教育に基づいた男女平等や性に関する学習を充実する」の割合が27.7%、「被害者が早期に相談できるよう身近な相談窓口を増やす」の割合が25.4%となっています。

○2014（平成26）年度調査との比較

今回調査で「学校での人権教育に基づいた男女平等や性に関する学習を充実する」で6.0ポイント、「被害者が避難できる場所の整備など保護体制を充実する」の割合が5.2ポイント高くなっています。



【性別】

男性に比べ、女性で「被害者自身が配偶者や恋人等からの行為を暴力として認識し、行動する」の割合が 13.6 ポイント高くなっています。また、女性に比べ、男性で「学校での人権教育に基づいた男女平等や性に関する学習を充実する」の割合が 6.4 ポイント、「被害者に対する情報提供や相談窓口体制を充実する」の割合が 5.8 ポイント、「加害者への罰則を強化する」の割合が 7.6 ポイント高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	学校での人権教育に基づいた男女平等や性に関する学習を充実する	大学、企業、地域等での暴力防止のための人権研修を充実する	被害者に対する情報提供や相談窓口体制を充実する	被害者が避難できる場所の整備など保護体制を充実する	被害者の自立を支援する体制を充実する	警察がもっと積極的に対応する	加害者に対するカウンセリングや教育を進める
女性	195	24.6	9.2	14.9	32.3	13.8	22.1	14.4
男性	145	31.0	8.3	20.7	30.3	11.7	23.4	15.2

区分	暴力の早期発見・対応のため、関係機関の連携を充実する	被害者自身が配偶者や恋人等からの行為を暴力として認識し、行動する	被害者が早期に相談できるよう身近な相談窓口を増やす	加害者への罰則を強化する	地域で暴力防止のための研修会、イベントを行う	その他	特に対策の必要はない	無回答
女性	19.0	24.6	24.1	20.0	2.1	3.1	2.1	8.2
男性	21.4	11.0	27.6	27.6	4.8	2.8	0.7	7.6

【性別年齢別】

女性では40歳代で「被害者自身が配偶者や恋人等からの行為を暴力として認識し、行動する」の割合が高くなっています。また、男性では20歳代、50歳代で「加害者への罰則を強化する」の割合が高くなっています。一方、女性では70歳以上で割合が低くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	学校での人権教育に基づいた男女平等や性に関する学習を充実する	大学の暴力防止のための人権研修を充実する	被害者に対する情報提供や相談窓口体制を充実する	被害者が避難できる場所の整備など保護体制を充実する	被害者の自立を支援する体制を充実する	警察がもっと積極的に対応する	加害者に対するカウンセリングや教育などを進める
女性 20歳代	11	—	9.1	27.3	72.7	9.1	18.2	—
30歳代	23	13.0	—	17.4	21.7	8.7	34.8	30.4
40歳代	33	33.3	6.1	3.0	33.3	18.2	24.2	12.1
50歳代	37	24.3	2.7	21.6	29.7	16.2	13.5	13.5
60歳代	48	25.0	12.5	16.7	27.1	12.5	29.2	10.4
70歳以上	41	31.7	19.5	12.2	36.6	14.6	14.6	17.1
男性 20歳代	6	50.0	—	33.3	16.7	—	33.3	16.7
30歳代	19	10.5	5.3	10.5	63.2	10.5	21.1	15.8
40歳代	20	25.0	5.0	10.0	30.0	—	30.0	20.0
50歳代	21	19.0	—	33.3	38.1	14.3	28.6	19.0
60歳代	38	34.2	15.8	26.3	28.9	18.4	26.3	15.8
70歳以上	41	43.9	9.8	17.1	14.6	12.2	14.6	9.8

区分	暴力の早期発見・対応のため、関係機関の連携を充実する	被害者自身が配偶者や恋人等からの行為を暴力として認識し、行動する	被害者自身や配偶者など身近な相談窓口を増やす	被害者が早期に相談できるような身近な相談窓口を増やす	加害者への罰則を強化する	地域で暴力防止のための研修会、イベントを行う	その他	特に対策の必要はない	無回答
女性 20歳代	9.1	—	9.1	27.3	9.1	—	9.1	18.2	
30歳代	21.7	26.1	39.1	21.7	—	4.3	—	8.7	
40歳代	12.1	39.4	18.2	21.2	3.0	3.0	3.0	6.1	
50歳代	13.5	27.0	27.0	27.0	—	5.4	—	5.4	
60歳代	27.1	27.1	22.9	20.8	2.1	2.1	—	8.3	
70歳以上	22.0	14.6	24.4	9.8	2.4	—	4.9	7.3	
男性 20歳代	33.3	—	—	50.0	—	—	—	—	
30歳代	10.5	31.6	10.5	47.4	5.3	—	—	5.3	
40歳代	20.0	15.0	35.0	30.0	5.0	—	—	5.0	
50歳代	9.5	4.8	23.8	38.1	9.5	—	—	9.5	
60歳代	23.7	10.5	31.6	18.4	2.6	5.3	—	2.6	
70歳以上	29.3	4.9	34.1	17.1	4.9	4.9	2.4	14.6	

6 社会活動への参加について

問 16 あなたは、次のような活動に参加していますか。(1)～(9)の項目について、あてはまる番号に○印をつけてください。(○印は1つずつ)

(1) 趣味・学習・スポーツ活動

38.8%の人が「まったく参加しない」と回答

○全体では

「まったく参加しない」の割合が38.8%と最も高く、次いで「時々参加する」の割合が34.7%、「よく参加する」の割合が22.4%となっています。

○性別では

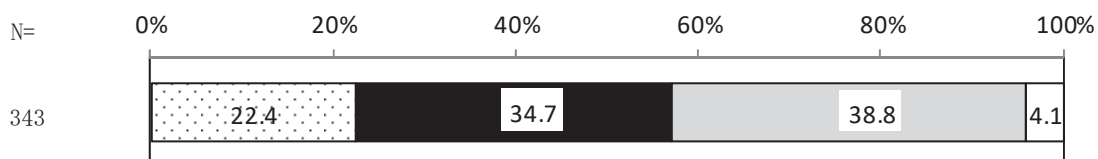
男性に比べ、女性で「時々参加する」の割合が7.6ポイント高くなっています。また、女性に比べ、男性で「よく参加する」の割合が5.5ポイント、「まったく参加しない」の割合が5.7ポイント高くなっています。

○2014（平成26）年度調査との比較

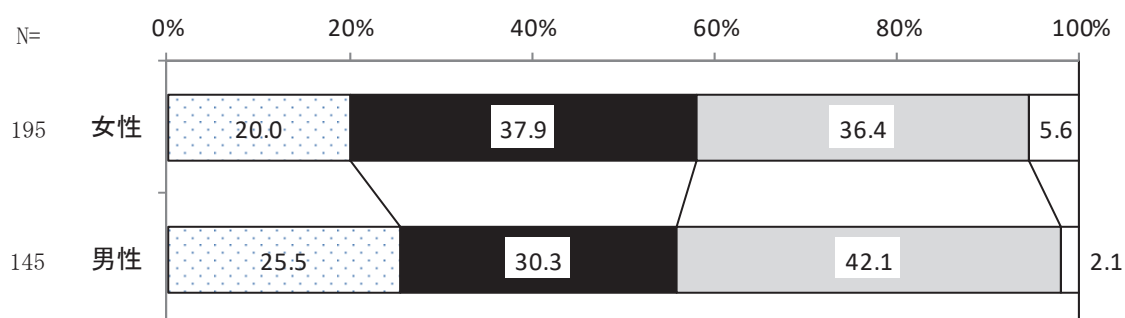
大きな変化はありません。

□よく参加する ■時々参加する ▨まったく参加しない □無回答

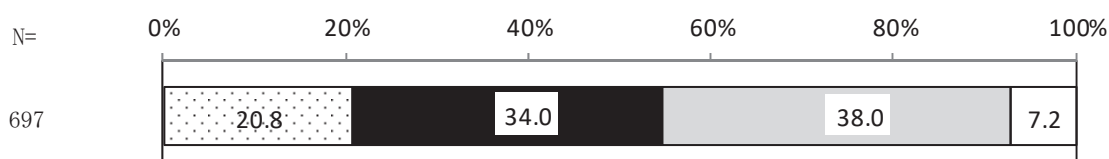
【全 体】



【性 別】



【2014（平成26）年度調査（全体）】



(2) 自治会などの役員活動

51.6%の人が「時々参加する」と回答

○全体では

「時々参加する」の割合が51.6%と最も高く、次いで「まったく参加しない」の割合が28.6%、「よく参加する」の割合が15.2%となっています。

○性別では

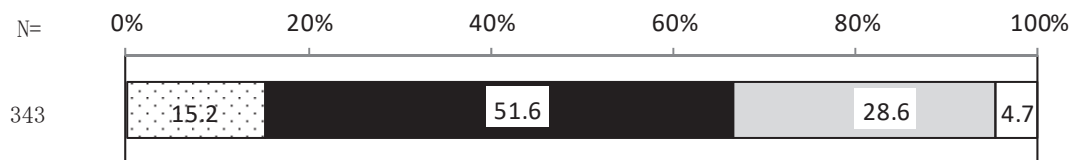
男性に比べ、女性で「時々参加する」の割合が5.0ポイント高くなっています。また、女性に比べ、男性で「よく参加する」の割合が9.4ポイント高くなっています。

○2014（平成26）年度調査との比較

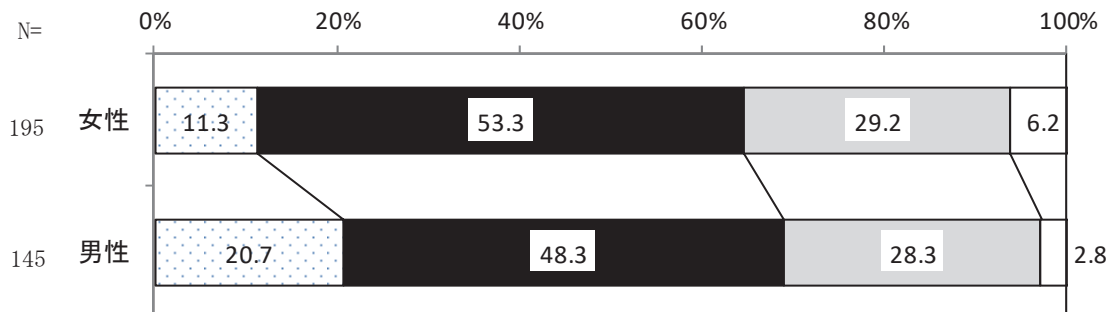
大きな変化はありません。

□よく参加する ■時々参加する □まったく参加しない □無回答

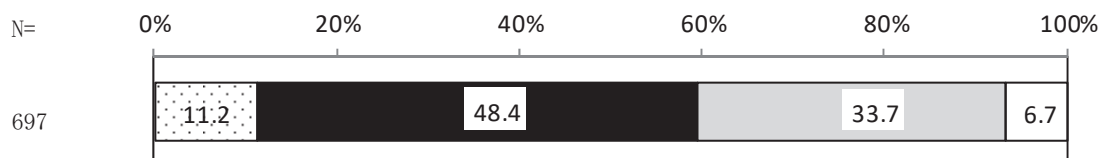
【全 体】



【性 別】



【2014（平成26）年度調査（全体）】



(3) PTA、子ども会などの地域活動

44.3%の人が「まったく参加しない」と回答

○全体では

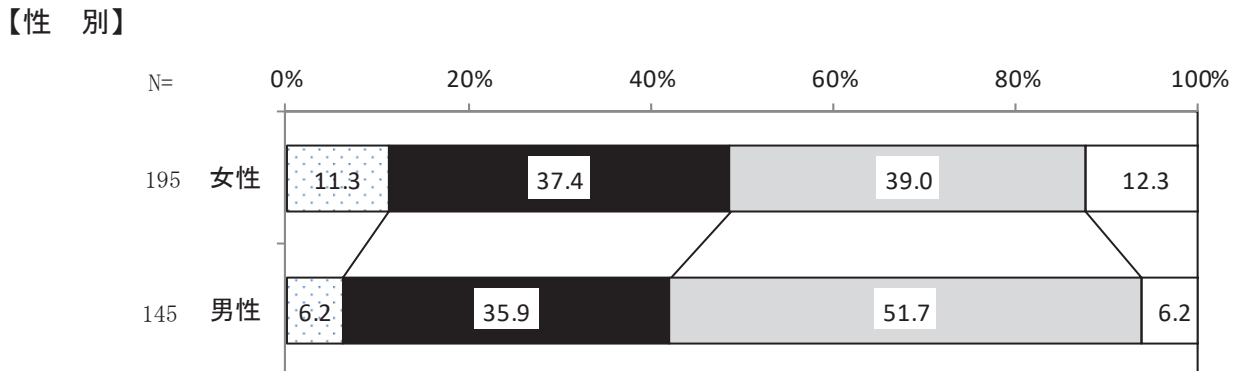
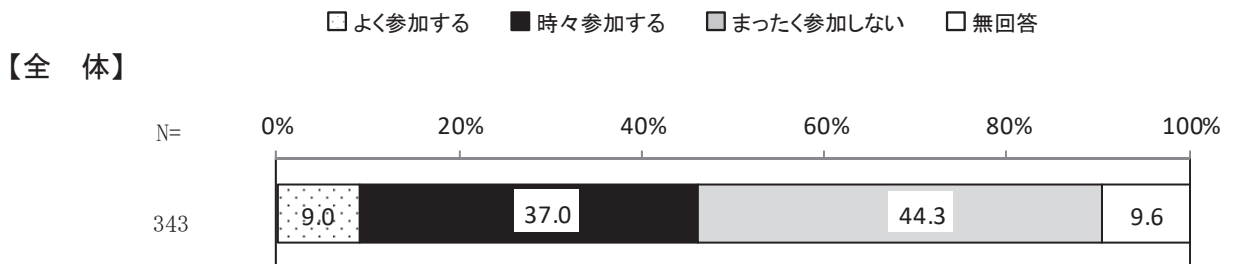
「まったく参加しない」の割合が44.3%と最も高く、次いで「時々参加する」の割合が37.0%となっています。

○性別では

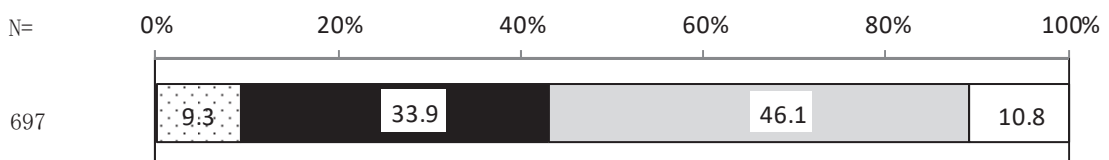
男性に比べ、女性で「よく参加する」の割合が5.1ポイント高くなっています。また、女性に比べ、男性で「まったく参加しない」の割合が12.7ポイント高くなっています。

○2014（平成26）年度調査との比較

大きな変化はありません。



【2014（平成26）年度調査（全体）】



(4) 消費生活活動や住民運動（共同購入やリサイクルなど）

57.4%の人が「まったく参加しない」と回答

○全体では

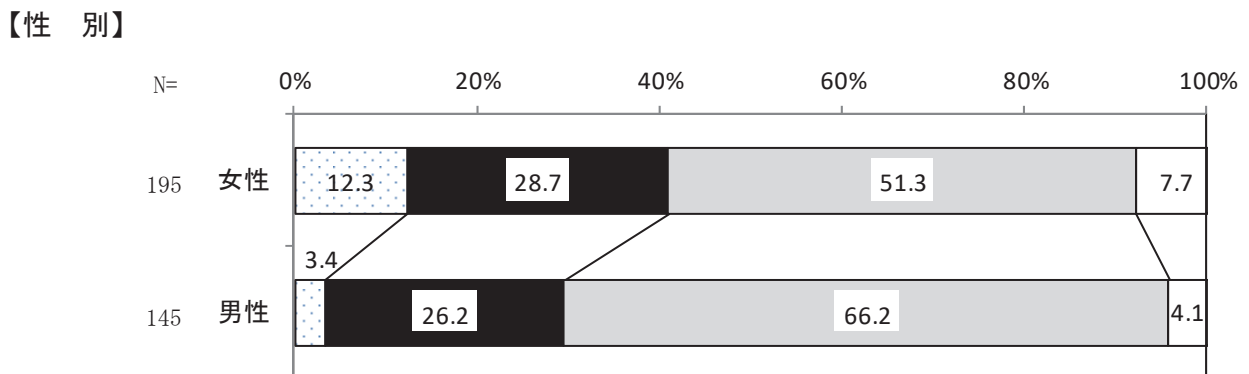
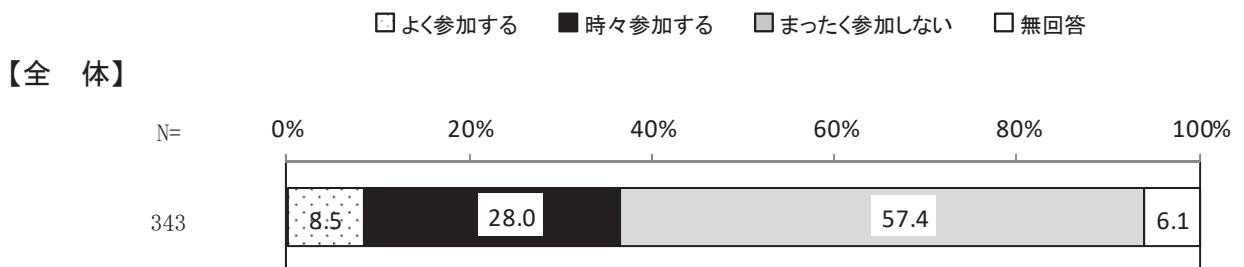
「まったく参加しない」の割合が57.4%と最も高く、次いで「時々参加する」の割合が28.0%となっています。

○性別では

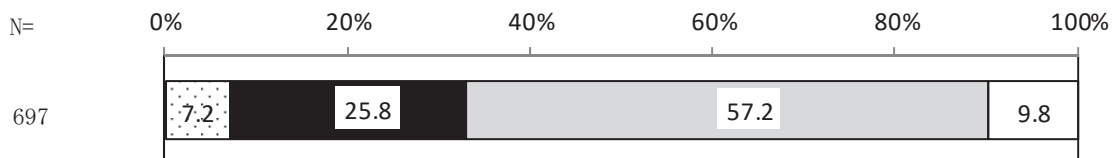
男性に比べ、女性で「よく参加する」の割合が8.9ポイント高くなっています。また、女性に比べ、男性で「まったく参加しない」の割合が14.9ポイント高くなっています。

○2014（平成26）年度調査との比較

大きな変化はありません。



【2014（平成26）年度調査（全体）】



(5) 福祉・ボランティア活動

59.2%の人が「まったく参加しない」と回答

○全体では

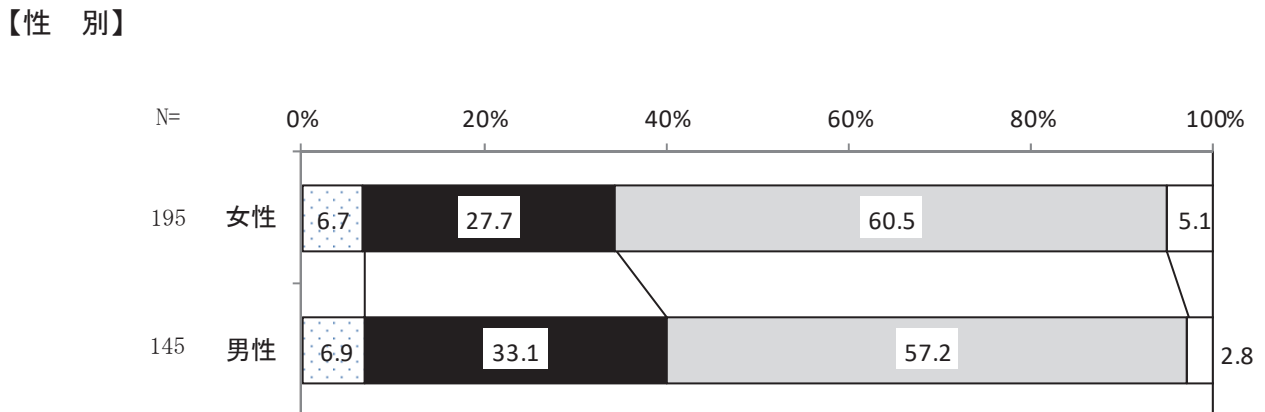
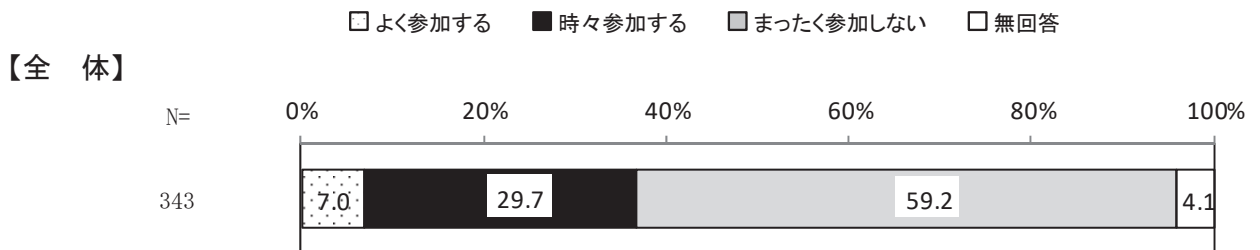
「まったく参加しない」の割合が 59.2%と最も高く、次いで「時々参加する」の割合が 29.7%となっています。

○性別では

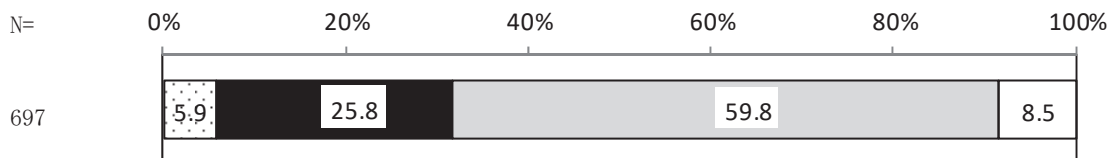
女性に比べ、男性で「時々参加する」の割合が 5.4 ポイント高くなっています。

○2014（平成 26）年度調査との比較

大きな変化はありません。



【2014（平成 26）年度調査（全体）】



(6) 政治活動や労働組合活動

76.1%の人が「まったく参加しない」と回答

○全体では

「まったく参加しない」の割合が76.1%と最も高くなっています。次いで「時々参加する」の割合が14.6%となっています。

○性別では

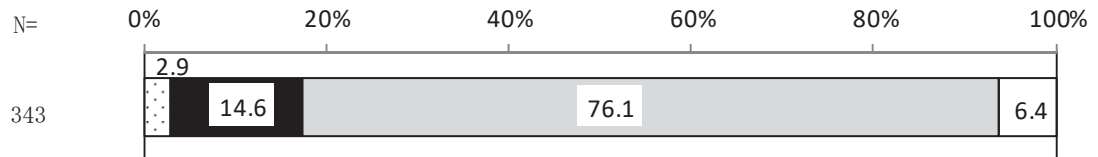
男性に比べ、女性で「まったく参加しない」の割合が6.6ポイント高くなっています。また、女性に比べ、男性で「時々参加する」の割合が8.5ポイント高くなっています。

○2014（平成26）年度調査との比較

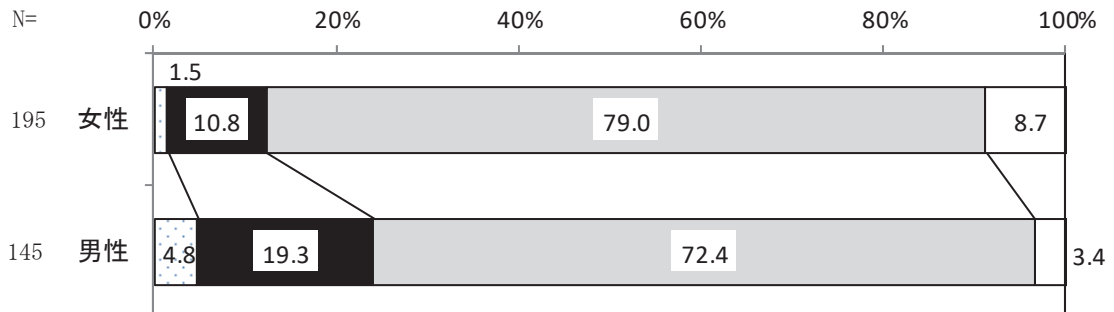
大きな変化はありません。

□よく参加する ■時々参加する ▨まったく参加しない □無回答

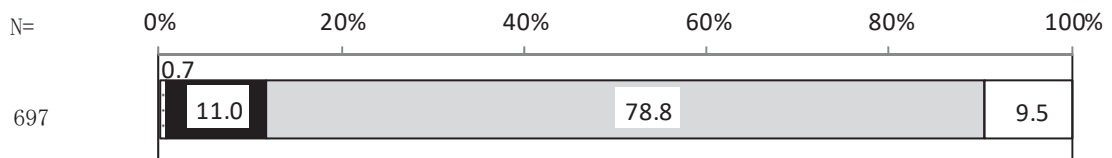
【全 体】



【性 別】



【2014（平成26）年度調査（全体）】



(7) 宗教活動

83.7%の人が「まったく参加しない」と回答

○全体では

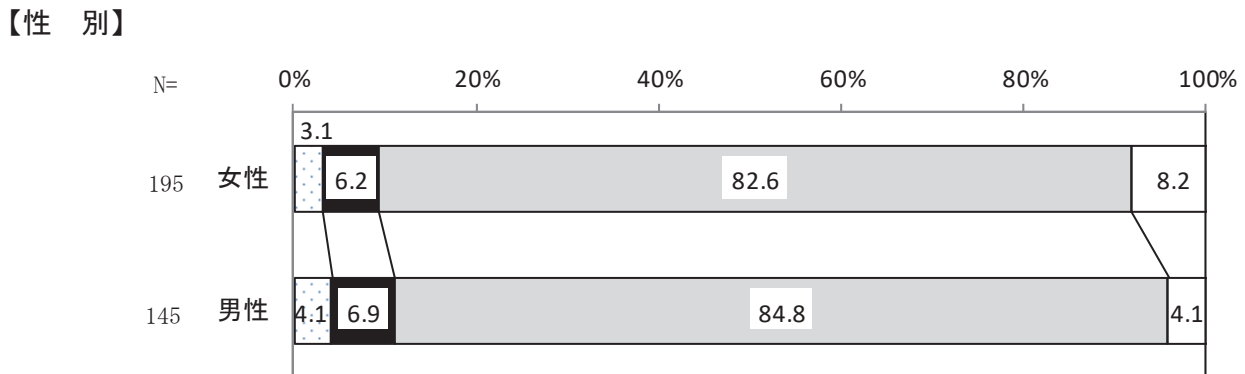
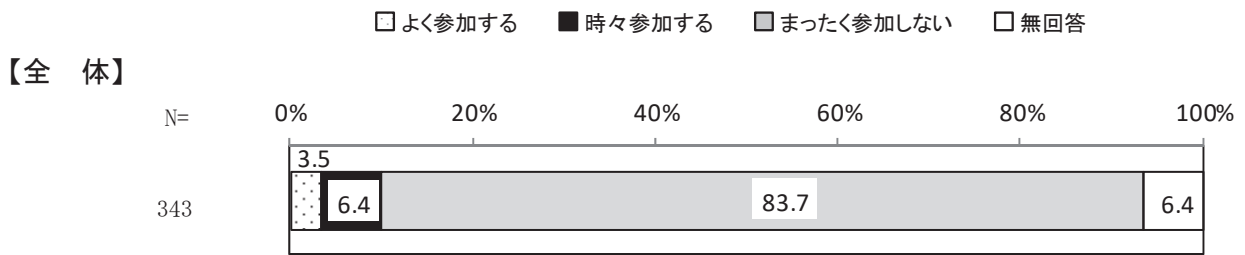
「まったく参加しない」の割合が83.7%と最も高くなっています。

○性別では

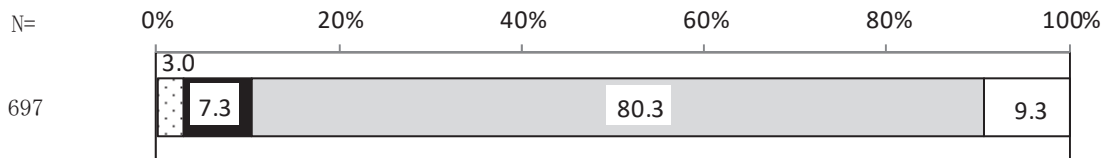
大きな差はありません。

○2014（平成26）年度調査との比較

大きな変化はありません。



【2014（平成26）年度調査（全体）】



(8) 審議会委員などの公的な委員活動

87.5%の人が「まったく参加しない」と回答

○全体では

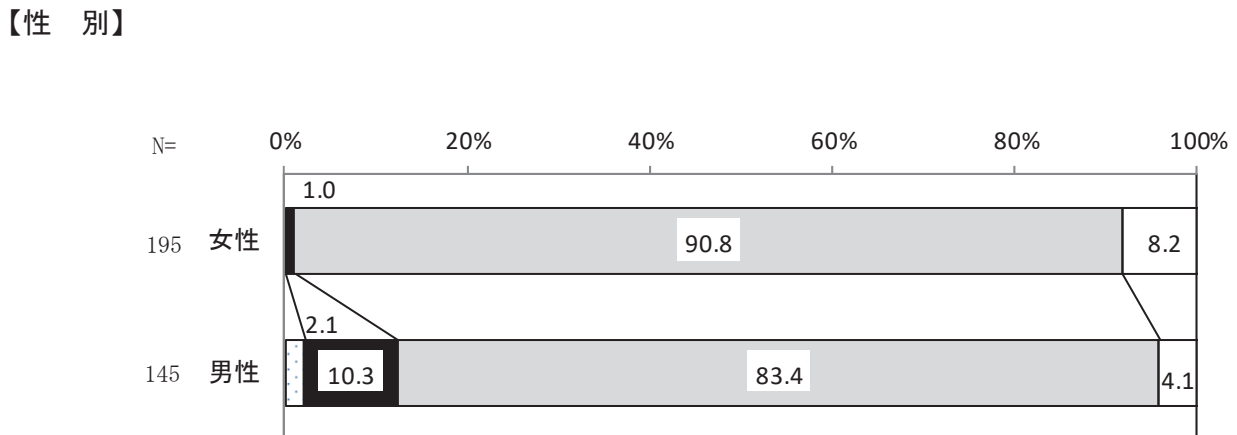
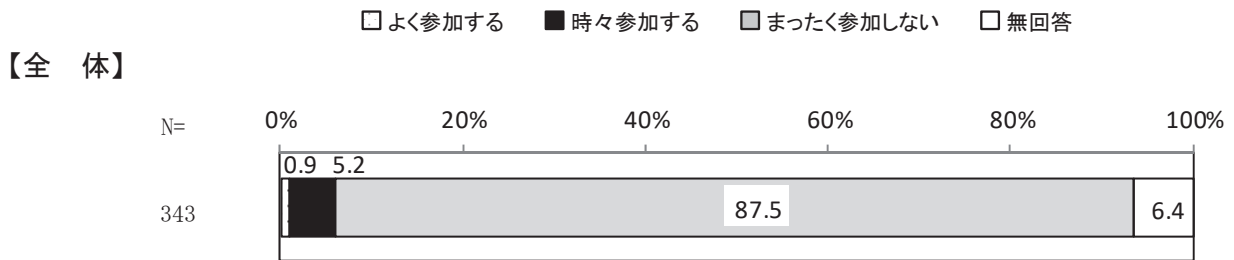
「まったく参加しない」の割合が87.5%と最も高くなっています。

○性別では

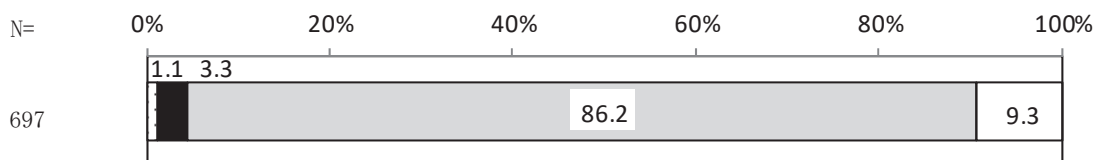
男性に比べ、女性で「まったく参加しない」の割合が7.4ポイント高くなっています。また、女性に比べ、男性で「時々参加する」の割合が9.3ポイント高くなっています。

○2014（平成26）年度調査との比較

大きな変化はありません。



【2014（平成26）年度調査（全体）】



(9) NPOの活動

86.6%の人が「まったく参加しない」と回答

○全体では

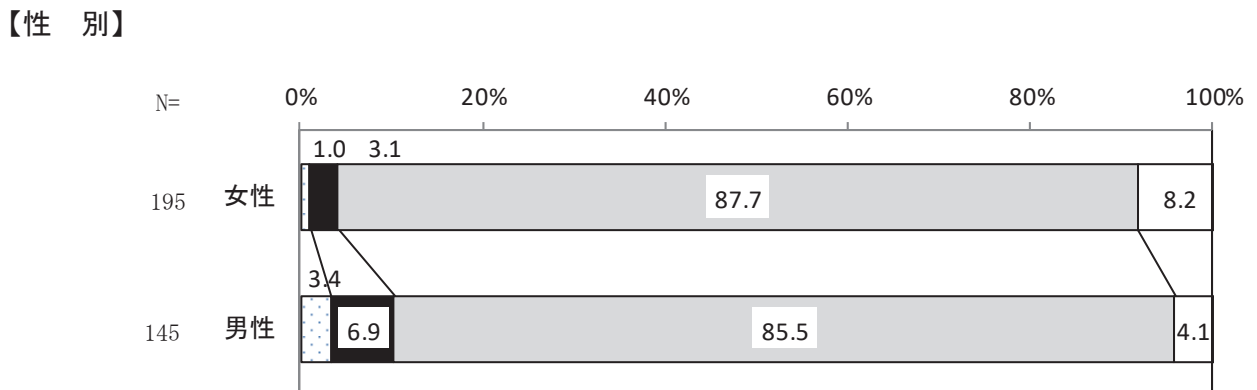
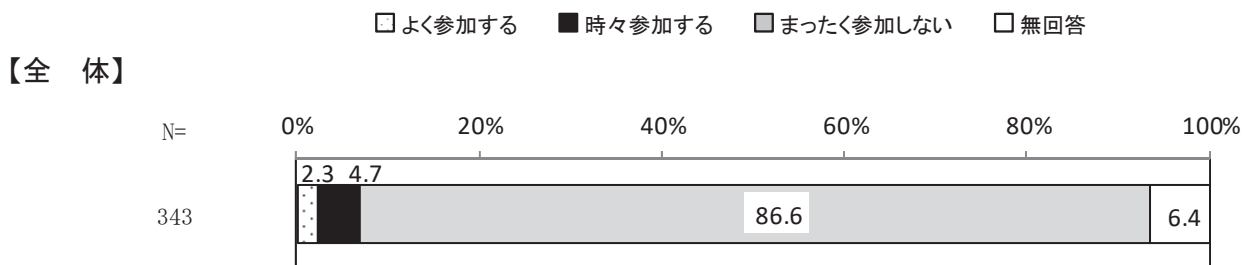
「まったく参加しない」の割合が86.6%と最も高くなっています。

○性別では

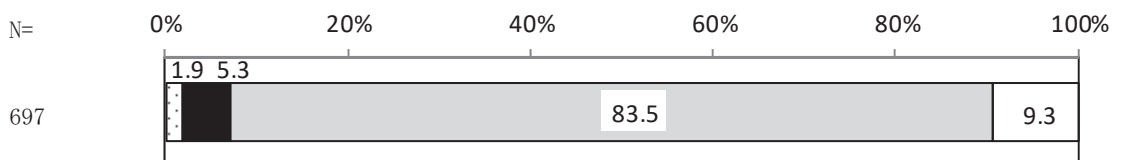
大きな差はありません。

○2014（平成26）年度調査との比較

大きな変化はありません。



【2014（平成26）年度調査（全体）】



問 17 あなたが、社会的な活動に参加しようと思うとき、支障となることはどのようなことですか。あてはまる番号に○印をつけてください。(○印は3つ以内)

47.2%の人が「仕事や家事が忙しい」と回答

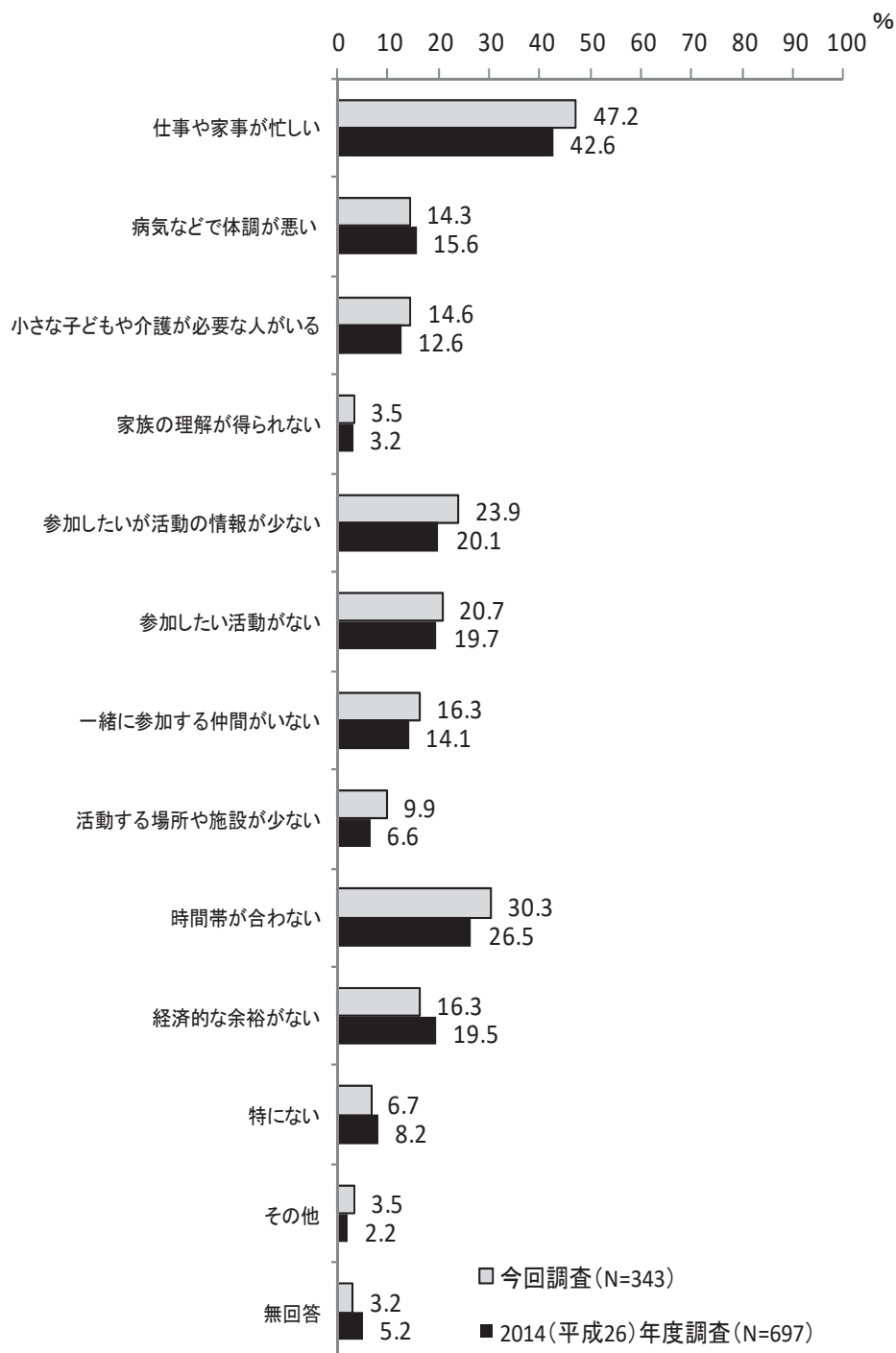
○全体では

「仕事や家事が忙しい」の割合が47.2%と最も高く、次いで「時間帯が合わない」の割合が30.3%、「参加したいが活動の情報が少ない」の割合が23.9%となっています。

○2014（平成26）年度調査との比較

大きな変化はありません。

【全 体】



【性別】

男性に比べ、女性で「小さな子どもや介護が必要な人がいる」の割合が 13.6 ポイント高くなっています。また、女性に比べ、男性で「仕事や家事が忙しい」の割合が 7.6 ポイント、「経済的な余裕がない」の割合が 11.0 ポイント高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	仕事や家事が忙しい	病気などで体調が悪い	小さな子どもや介護が必要な人がいる	家族の理解が得られない	参加したいが活動の情報が少ない	参加したい活動がない	一緒に参加する仲間がない	活動する場所や施設が少ない	時間帯が合わない	経済的な余裕がない	その他	特にない	無回答
女性	195	44.1	13.8	20.5	3.1	24.6	21.0	16.4	9.2	28.2	11.8	4.6	6.2	5.1
男性	145	51.7	15.2	6.9	4.1	22.8	20.0	15.9	11.0	33.1	22.8	2.1	6.9	0.7

【性別年齢別】

女性では 20 歳代、男性では 20 歳代、50 歳代で「時間帯が合わない」の割合が高くなっています。また、女性の 30 歳代で「小さな子どもや介護が必要な人がいる」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	仕事や家事が忙しい	病気などで体調が悪い	小さな子どもや介護が必要な人がいる	家族の理解が得られない	参加したいが活動の情報が少ない	参加したい活動がない	一緒に参加する仲間がない	活動する場所や施設が少ない	時間帯が合わない	経済的な余裕がない	その他	特にない	無回答
女性 20 歳代	11	54.5	—	9.1	9.1	9.1	36.4	36.4	—	45.5	9.1	—	9.1	—
30 歳代	23	56.5	—	52.2	—	30.4	30.4	21.7	—	21.7	17.4	—	—	4.3
40 歳代	33	69.7	9.1	30.3	—	18.2	24.2	18.2	9.1	36.4	12.1	6.1	3.0	—
50 歳代	37	48.6	10.8	13.5	5.4	35.1	24.3	21.6	5.4	32.4	16.2	2.7	2.7	—
60 歳代	48	35.4	18.8	16.7	4.2	25.0	14.6	8.3	8.3	25.0	10.4	4.2	6.3	8.3
70 歳以上	41	22.0	26.8	9.8	2.4	22.0	14.6	12.2	22.0	22.0	7.3	7.3	14.6	9.8
男性 20 歳代	6	66.7	—	—	16.7	—	50.0	16.7	16.7	50.0	33.3	—	—	—
30 歳代	19	47.4	5.3	15.8	10.5	10.5	26.3	26.3	5.3	36.8	15.8	—	10.5	—
40 歳代	20	85.0	5.0	10.0	10.0	10.0	25.0	5.0	—	35.0	35.0	5.0	5.0	—
50 歳代	21	81.0	4.8	—	—	14.3	23.8	9.5	9.5	42.9	19.0	—	4.8	—
60 歳代	38	50.0	10.5	13.2	2.6	26.3	15.8	26.3	13.2	26.3	31.6	—	7.9	2.6
70 歳以上	41	22.0	36.6	—	—	39.0	12.2	9.8	17.1	29.3	12.2	4.9	7.3	—

7 災害について

問 18 大災害が発生し避難が必要になった時、あなたはどのようなことが心配ですか。
あてはまる番号に○印をつけてください。(○印は2つまで)

55.7%の人が「災害についての的確な情報が得られるか」と回答

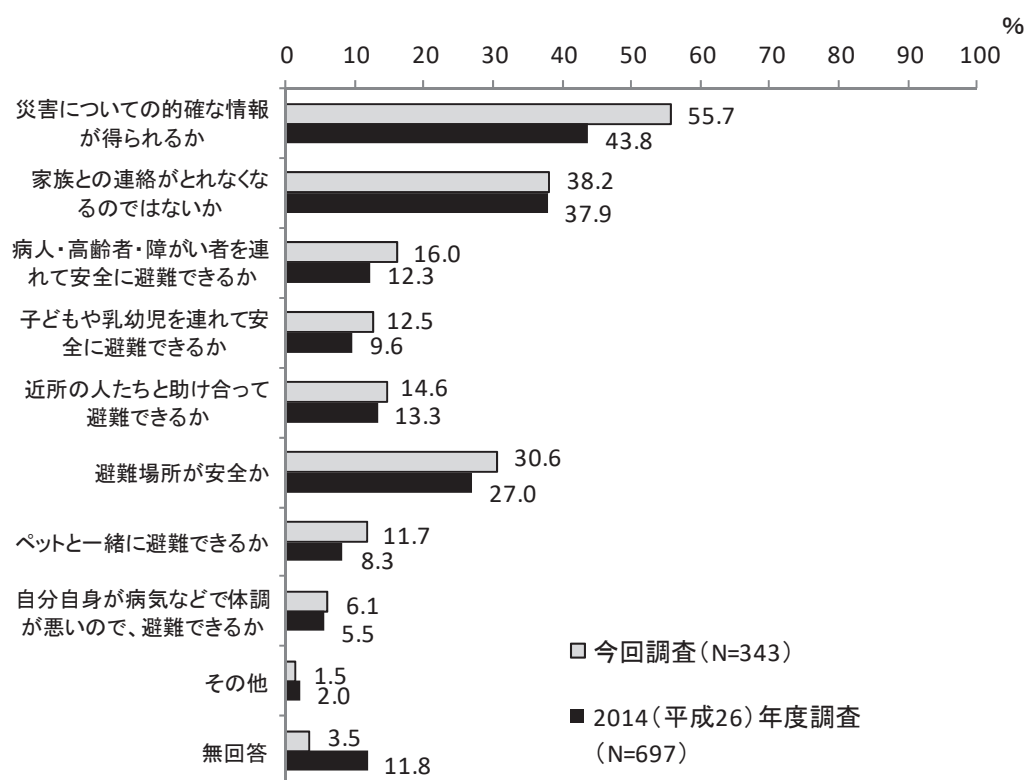
○全体では

「災害についての的確な情報が得られるか」の割合が 55.7%と最も高く、次いで「家族との連絡がとれなくなるのではないかな」の割合が 38.2%、「避難場所が安全か」の割合が 30.6%となっています。

○2014（平成 26）年度調査との比較

今回調査で「災害についての的確な情報が得られるか」の割合が 11.9 ポイント高くなっています。

【全 体】



【性別】

女性に比べ、男性で「病人・高齢者・障がい者を連れて安全に避難できるか」の割合が6.0ポイント、「避難場所が安全か」の割合が8.0ポイント高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	災害についての的確な情報が得られるか	家族との連絡がとれなくなるのではないか	病人・高齢者・障がい者を連れて安全に避難できるか	子どもや乳幼児を連れて安全に避難できるか	近所の人たちと助け合って避難できるか	避難場所が安全か	ペットと一緒に避難できるか	自分自身が病気などで体調が悪いので、避難できるか	その他	無回答
女性	195	57.9	37.9	13.3	14.4	13.3	27.2	11.8	7.7	2.1	3.1
男性	145	53.1	39.3	19.3	10.3	15.9	35.2	11.7	4.1	0.7	4.1

【性別年齢別】

他に比べ、女性の30歳代で「子どもや乳幼児を連れて安全に避難できるか」の割合が高く、5割を超えています。また、男性の20歳代で「ペットと一緒に避難できるか」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	災害についての的確な情報が得られるか	家族との連絡がとれなくなるのではないか	病人・高齢者・障がい者を連れて安全に避難できるか	子どもや乳幼児を連れて安全に避難できるか	近所の人たちと助け合って避難できるか	避難場所が安全か	ペットと一緒に避難できるか	自分自身が病気などで体調が悪いので、避難できるか	その他	無回答
女性 20歳代	11	54.5	36.4	18.2	9.1	9.1	18.2	18.2	9.1	—	—
30歳代	23	47.8	34.8	4.3	52.2	4.3	30.4	8.7	—	4.3	8.7
40歳代	33	54.5	57.6	9.1	33.3	6.1	18.2	18.2	3.0	—	—
50歳代	37	45.9	56.8	18.9	5.4	2.7	29.7	16.2	8.1	2.7	2.7
60歳代	48	68.8	33.3	10.4	4.2	16.7	31.3	12.5	10.4	4.2	—
70歳以上	41	65.9	12.2	17.1	—	31.7	29.3	2.4	12.2	—	7.3
男性 20歳代	6	50.0	16.7	—	—	16.7	50.0	50.0	—	—	—
30歳代	19	36.8	57.9	15.8	36.8	5.3	31.6	5.3	—	—	—
40歳代	20	50.0	50.0	20.0	20.0	10.0	35.0	15.0	5.0	—	—
50歳代	21	47.6	61.9	23.8	4.8	9.5	42.9	4.8	—	—	4.8
60歳代	38	63.2	28.9	23.7	5.3	15.8	39.5	13.2	2.6	2.6	5.3
70歳以上	41	56.1	26.8	17.1	2.4	26.8	26.8	9.8	9.8	—	7.3

問 19 防災・災害復興対策で男女の性別に配慮して取り組む必要があると思うことは何ですか。あてはまる番号に○印をつけてください。(○印は3つまで)

75.2%の人が「避難所の設備（男女別トイレ・更衣室、防犯対策）」と回答

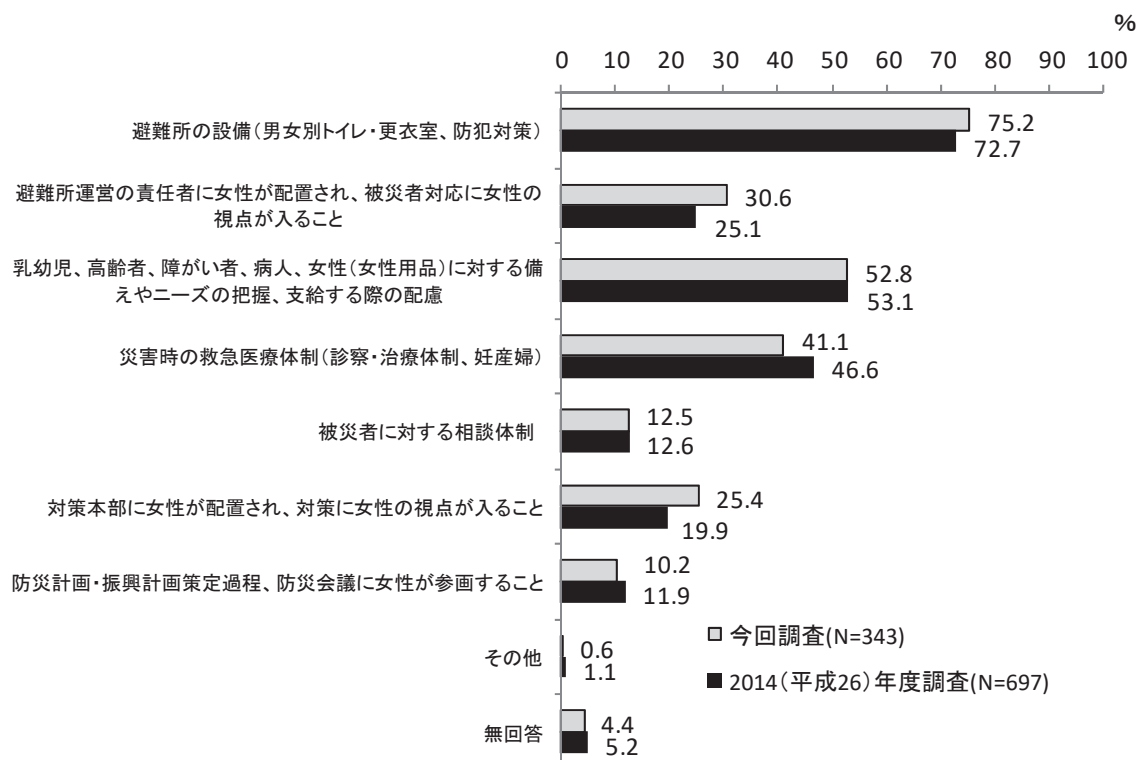
○全体では

「避難所の設備（男女別トイレ・更衣室、防犯対策）」の割合が75.2%と最も高く、次いで「乳幼児、高齢者、障がい者、病人、女性（女性用品）に対する備えやニーズの把握、支給する際の配慮」の割合が52.8%、「災害時の救急医療体制（診察・治療体制、妊産婦）」の割合が41.1%となっています。

○2014（平成26）年度調査との比較

今回調査で「避難所運営の責任者に女性が配置され、被災者対応に女性の視点が入ること」の割合が5.5ポイント、「対策本部に女性が配置され、対策に女性の視点が入ること」の割合が5.5ポイント高くなっており、「災害時の救急医療体制（診察・治療体制・妊産婦）」の割合が5.5ポイント低くなっています。

【全 体】



【性 別】

男性に比べ、女性で「乳幼児、高齢者、障がい者、病人、女性（女性用品）に対する備えやニーズの把握、支給する際の配慮」の割合が6.9ポイント高くなっています。また、女性に比べ、男性で「被災者に対する相談体制」の割合が5.6ポイント高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	避難所の設備(男女別トイレ・更衣室、防犯対策)	避難所運営の責任者に女性が配置され、被災者対応に女性の視点が入ること	乳幼児、高齢者、障がい者、病人、女性(女性用品)に対する備えやニーズの把握、支給する際の配慮	災害時の救急医療体制(診察・治療体制、妊産婦)	被災者に対する相談体制	対策本部に女性が配置され、対策に女性の視点が入ること	防災計画・復興計画策定過程、防災会議に女性が参画すること	その他	無回答
女性	195	74.4	30.8	55.9	39.0	10.3	27.2	9.7	0.5	3.6
男性	145	76.6	31.0	49.0	43.4	15.9	22.8	11.0	0.7	4.8

【性別年齢別】

他に比べ、男性の30歳代で「乳幼児、高齢者、障がい者、病人、女性(女性用品)に対する備えやニーズの把握、支給する際の配慮」の割合が高く、7割を超えており、女性の30歳代でも約7割となっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	避難所の設備(男女別トイレ・更衣室、防犯対策)	避難所運営の責任者に女性が配置され、被災者対応に女性の視点が入ること	乳幼児、高齢者、障がい者、病人、女性(女性用品)に対する備えやニーズの把握、支給する際の配慮	災害時の救急医療体制(診察・治療体制、妊産婦)	被災者に対する相談体制	対策本部に女性が配置され、対策に女性の視点が入ること	防災計画・復興計画策定過程、防災会議に女性が参画すること	その他	無回答
女性 20歳代	11	81.8	18.2	63.6	45.5	27.3	9.1	9.1	—	—
30歳代	23	69.6	34.8	69.6	39.1	8.7	17.4	13.0	—	8.7
40歳代	33	81.8	39.4	60.6	21.2	9.1	33.3	6.1	—	—
50歳代	37	67.6	27.0	54.1	37.8	10.8	32.4	5.4	2.7	2.7
60歳代	48	81.3	27.1	56.3	45.8	10.4	25.0	14.6	—	2.1
70歳以上	41	68.3	34.1	43.9	41.5	7.3	29.3	9.8	—	7.3
男性 20歳代	6	100	33.3	66.7	50.0	0.0	0.0	16.7	—	—
30歳代	19	63.2	15.8	78.9	26.3	31.6	15.8	0.0	—	—
40歳代	20	75.0	45.0	55.0	30.0	10.0	25.0	5.0	5.0	5.0
50歳代	21	85.7	23.8	38.1	33.3	9.5	33.3	28.6	—	4.8
60歳代	38	76.3	34.2	57.9	52.6	13.2	23.7	13.2	—	5.3
70歳以上	41	75.6	31.7	26.8	53.7	19.5	22.0	7.3	—	7.3

8 男女共同参画に関する施策について

問 20 あなたは、男女共同参画に関する事項について、どの程度ご存じですか。(1)～(13) それぞれについて、あてはまる番号に1つずつ○印をつけてください。

(1) 男女共同参画社会

55.4%の人が「見聞きしたことはある」と回答

○全体では

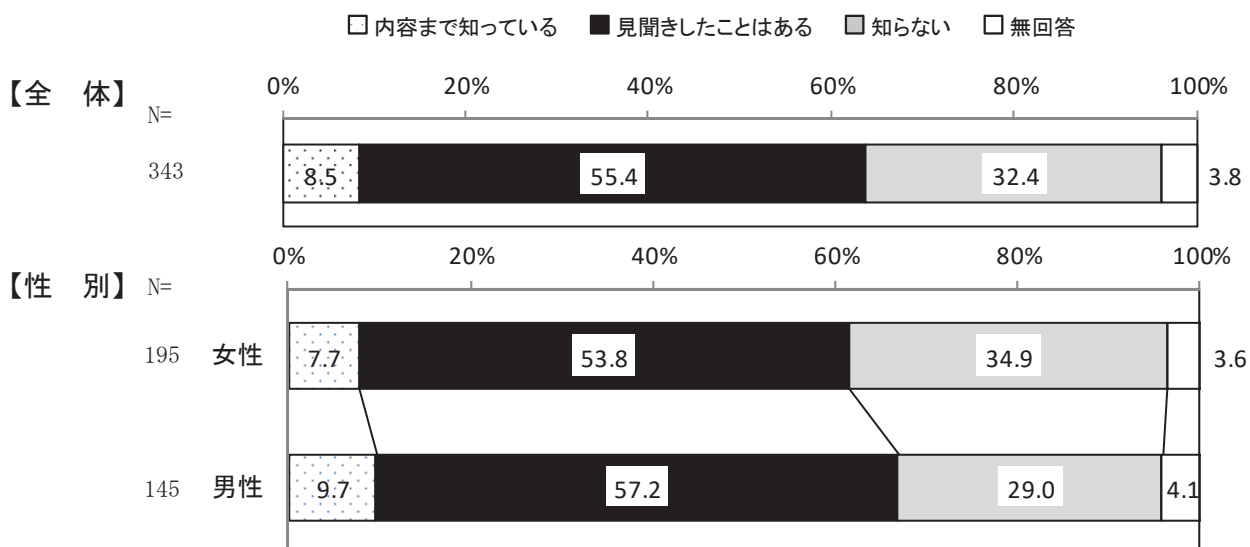
「見聞きしたことはある」の割合が55.4%と最も高く、次いで「知らない」の割合が32.4%となっています。

○性別では

男性に比べ、女性で「知らない」の割合が5.9ポイント高くなっています。

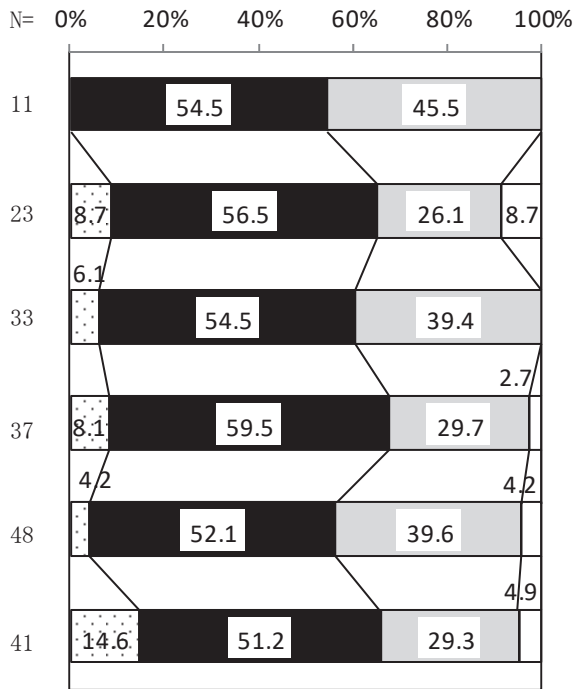
○性別年齢別では

女性の70歳以上、男性の20歳代、50歳代、70歳以上で「内容まで知っている」の割合が高くなっています。一方、女性の20歳代、男性の30歳代で「知らない」の割合が高く、4割を超えています。

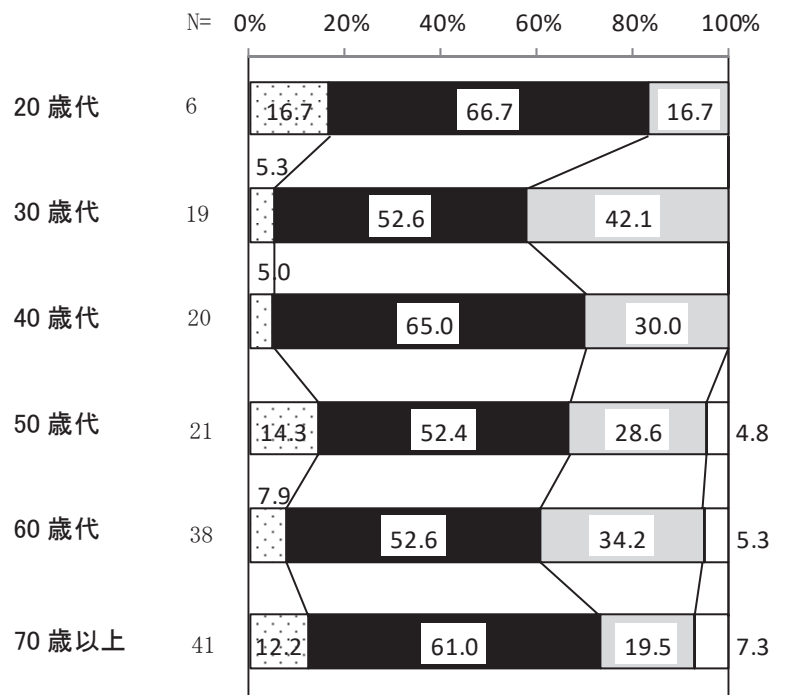


【性別年齢別】

〈女性〉



〈男性〉



(2) 男女雇用機会均等法

51.0%の人が「見聞きしたことはある」と回答

○全体では

「見聞きしたことはある」の割合が51.0%と最も高く、次いで「内容まで知っている」の割合が33.5%となっています。

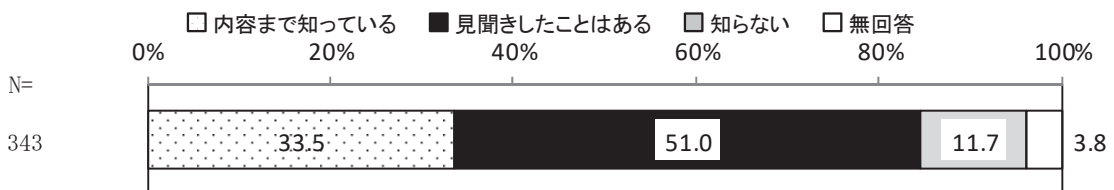
○性別では

男性に比べ、女性で「知らない」の割合が5.5ポイント高くなっています。

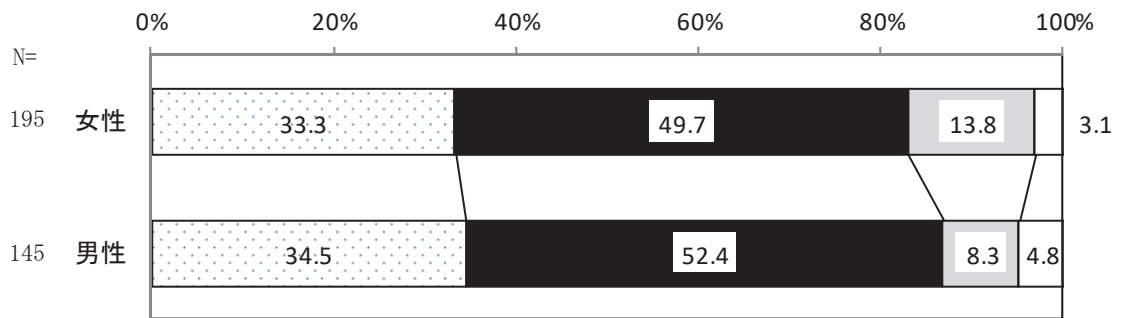
○性別年齢別では

女性の30歳代、40歳代、50歳代と男性の40歳代で「内容まで知っている」の割合が高くなっています。

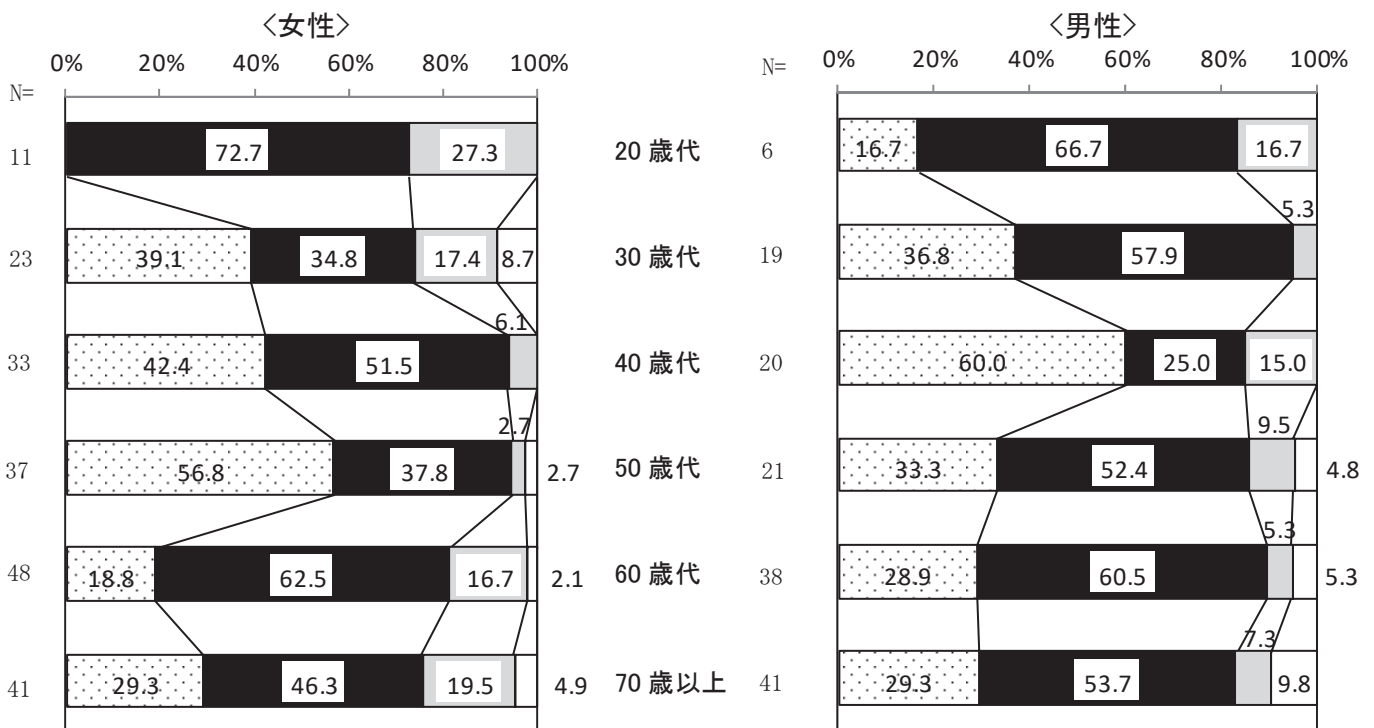
【全 体】



【性 別】



【性別年齢別】



(3) 女子差別撤廃条約

45.8%の人が「知らない」と回答

○全体では

「知らない」の割合が45.8%と最も高く、次いで「見聞きしたことはある」の割合が43.4%となっています。

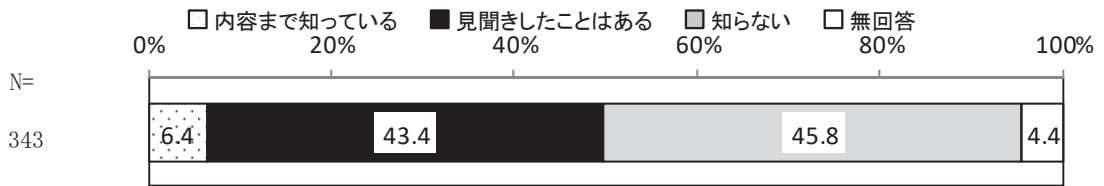
○性別では

大きな差はありません。

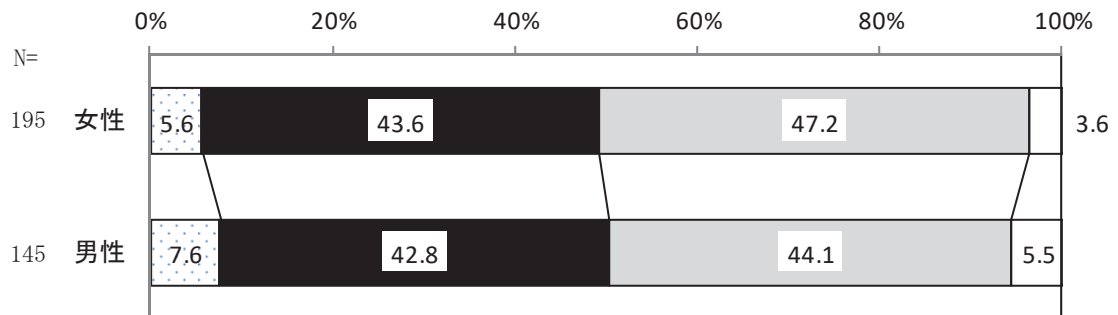
○性別年齢別では

男性の20歳代、30歳代、50歳代で「内容まで知っている」の割合が高くなっています。

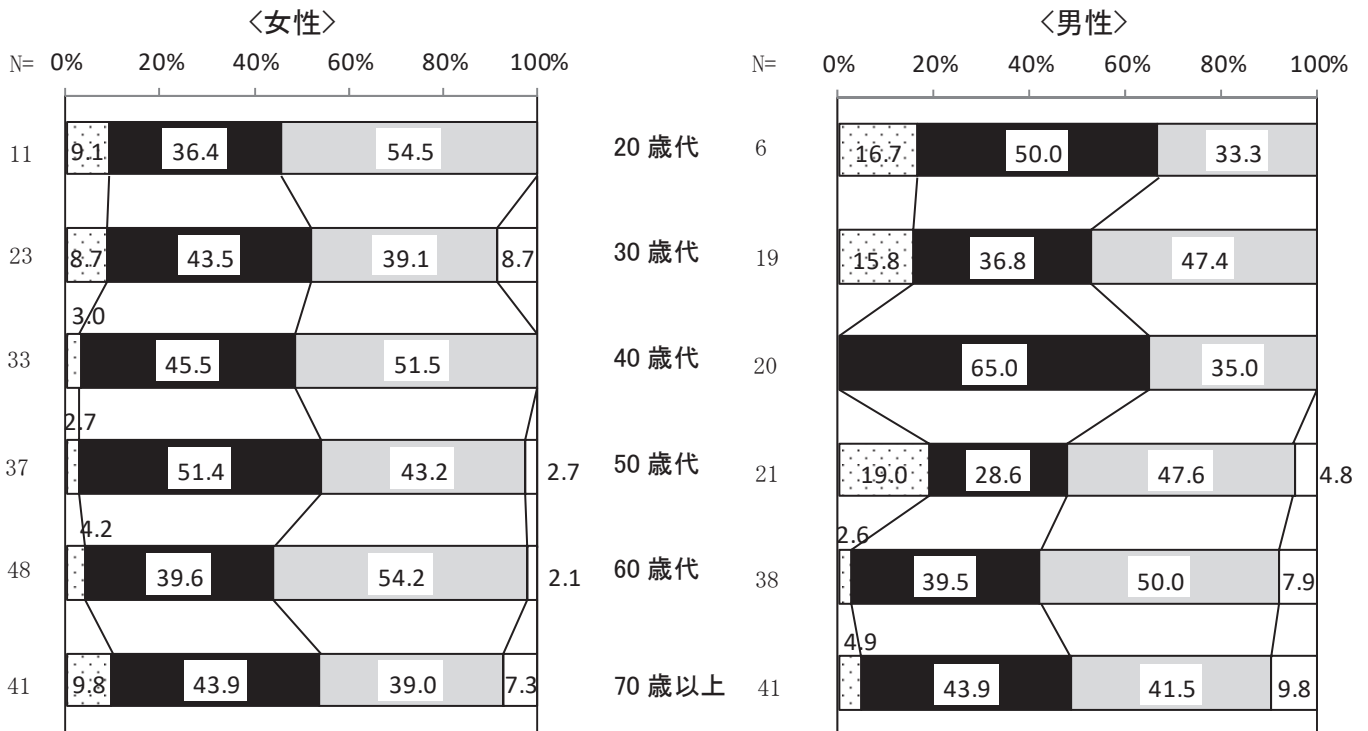
【全 体】



【性 別】



【性別年齢別】



(4) ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）

39.9%の人が「見聞きしたことはある」と回答

○全体では

「見聞きしたことはある」の割合が39.9%と最も高く、次いで「知らない」の割合が37.9%となっています。

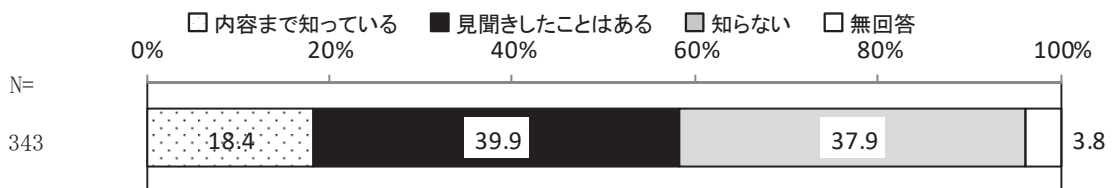
○性別では

男性に比べ、女性で「見聞きしたことはある」の割合が6.0ポイント高くなっています。

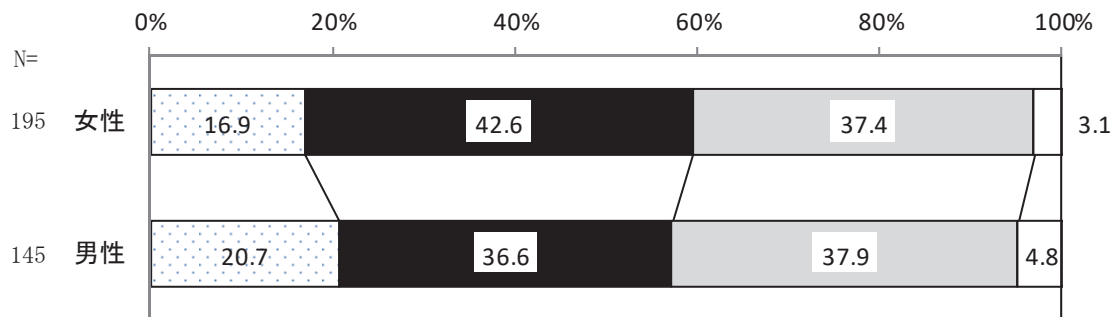
○性別年齢別では

女性の20歳代、50歳代と男性の40歳代、50歳代で「内容まで知っている」の割合が高くなっています。

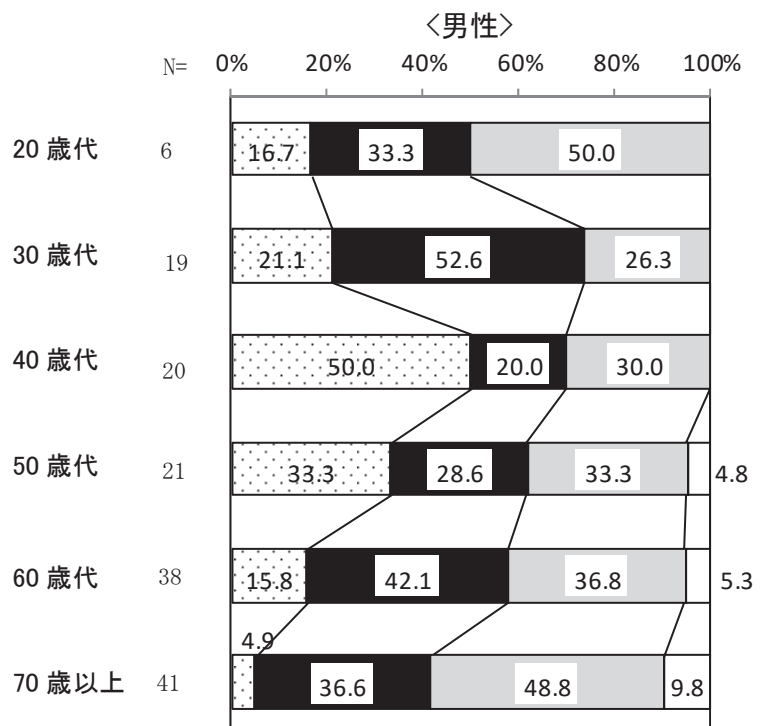
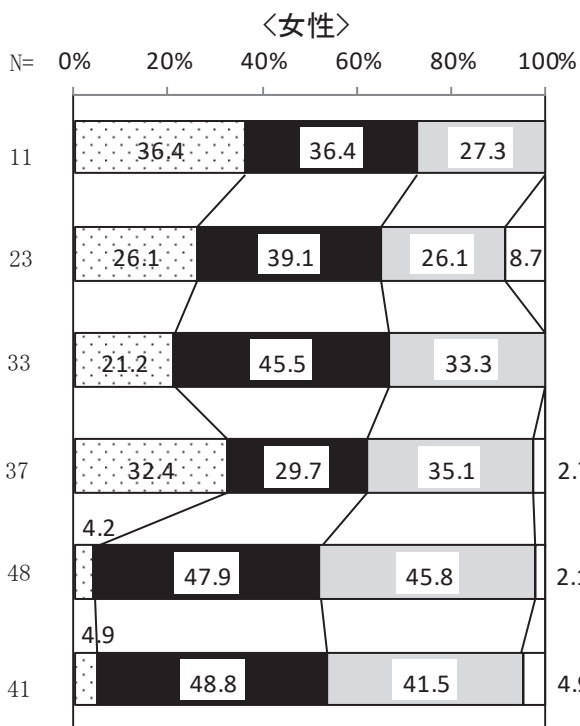
【全 体】



【性 別】



【性別年齢別】



(5) ストーカー規制法

61.2%の人が「見聞きしたことはある」と回答

○全体では

「見聞きしたことはある」の割合が61.2%と最も高く、次いで「内容まで知っている」の割合が27.4%となっています。

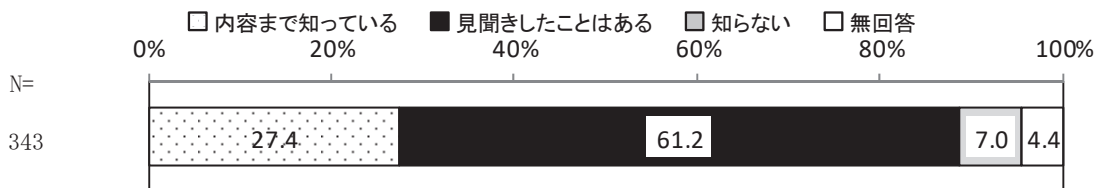
○性別では

大きな差はありません。

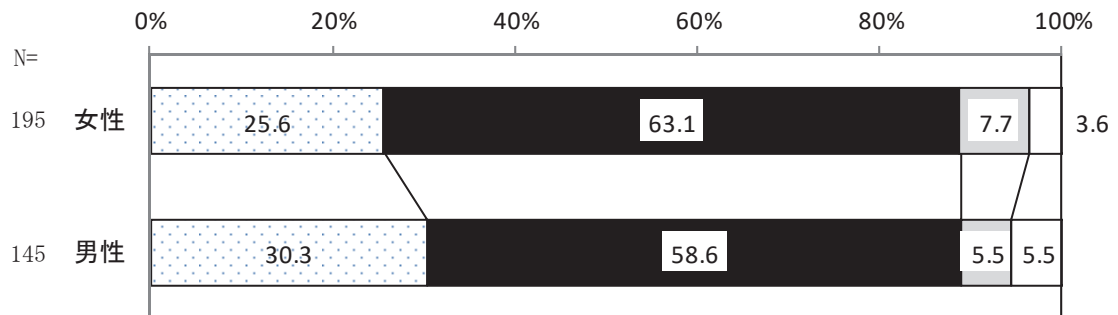
○性別年齢別では

男性の40歳代、50歳代で「内容まで知っている」の割合が高くなっています。

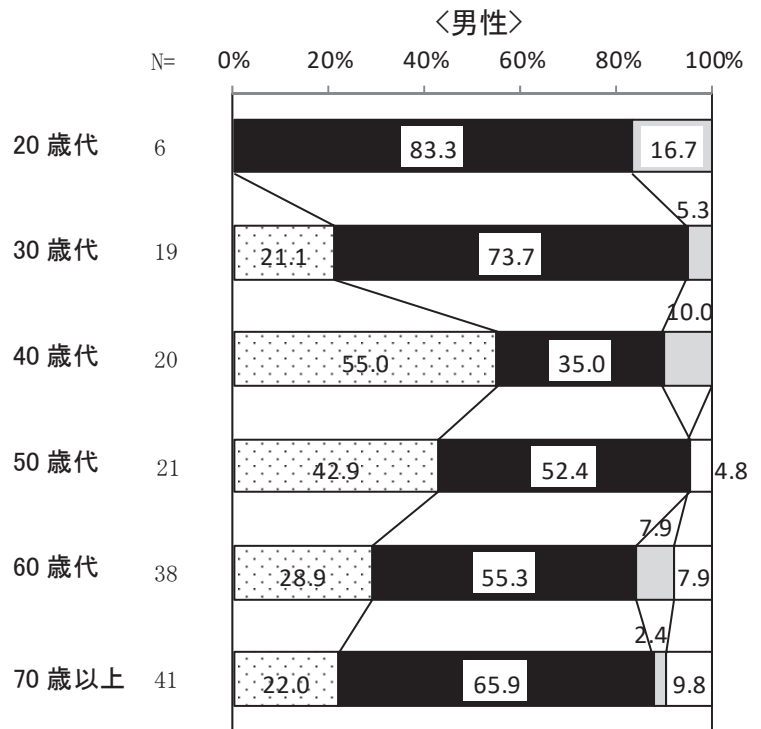
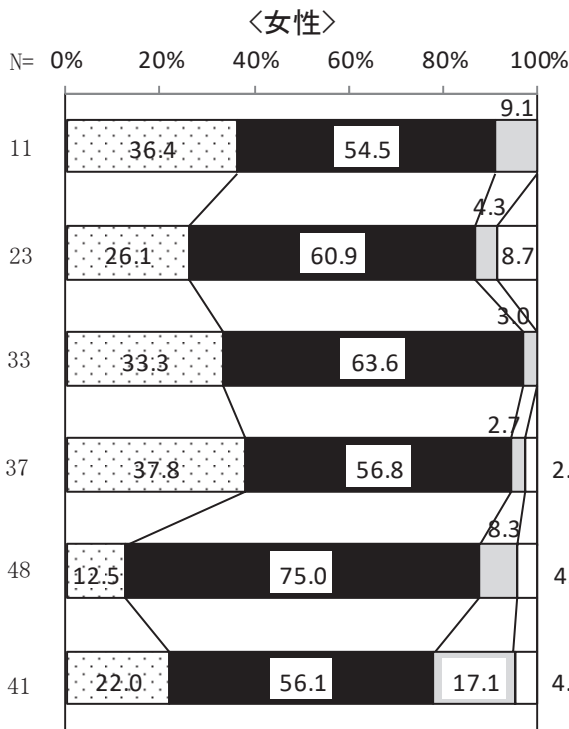
【全 体】



【性 別】



【性別年齢別】



(6) 配偶者暴力防止法 (DV 防止法)

61.8%の人が「見聞きしたことはある」と回答

○全体では

「見聞きしたことはある」の割合が 61.8%と最も高く、次いで「内容まで知っている」の割合が 24.8%となっています。

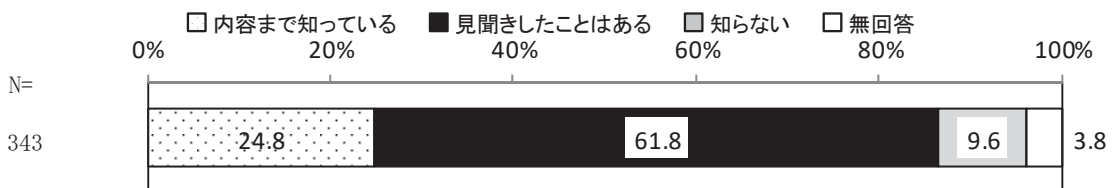
○性別では

男性に比べ、女性で「見聞きしたことはある」の割合が 8.4 ポイント高くなっています。また、女性に比べ、男性で「内容まで知っている」の割合が 6.9 ポイント高くなっています。

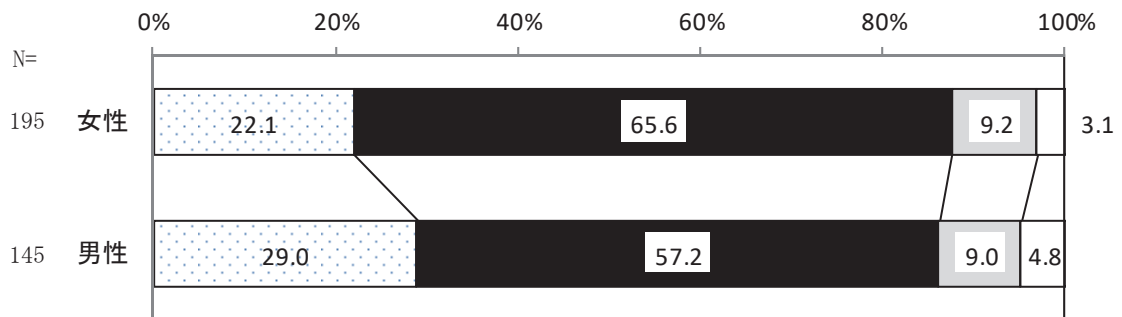
○性別年齢別では

男女とも、40 歳代、50 歳代で「内容まで知っている」の割合が高くなっています。

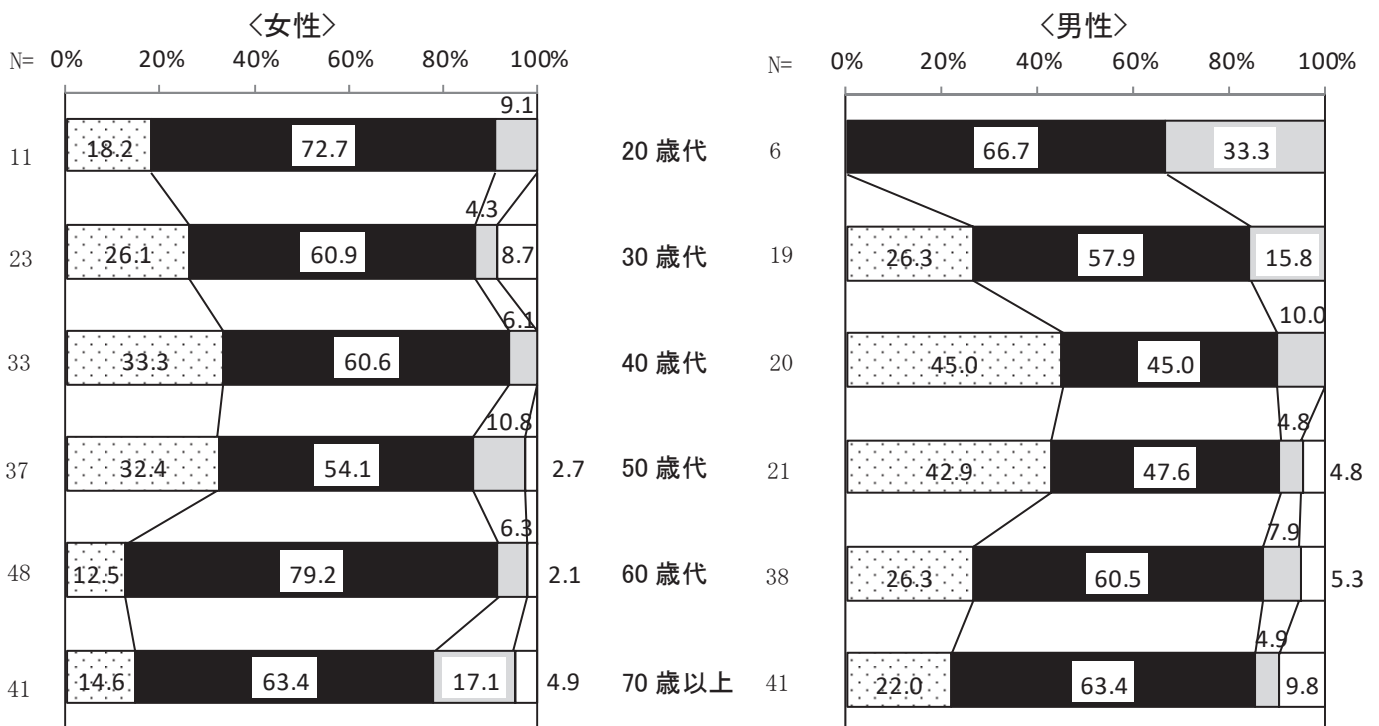
【全 体】



【性 別】



【性別年齢別】



(7) ポジティブ・アクション（積極的改善）

69.1%の人が「知らない」と回答

○全体では

「知らない」の割合が69.1%と最も高く、次いで「見聞きしたことはある」の割合が24.2%となっています。

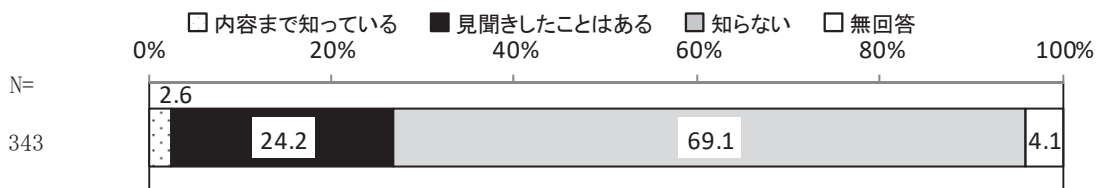
○性別では

男性に比べ、女性で「知らない」の割合が8.2ポイント高くなっています。また、女性に比べ、男性で「見聞きしたことはある」の割合が8.0ポイント高くなっています。

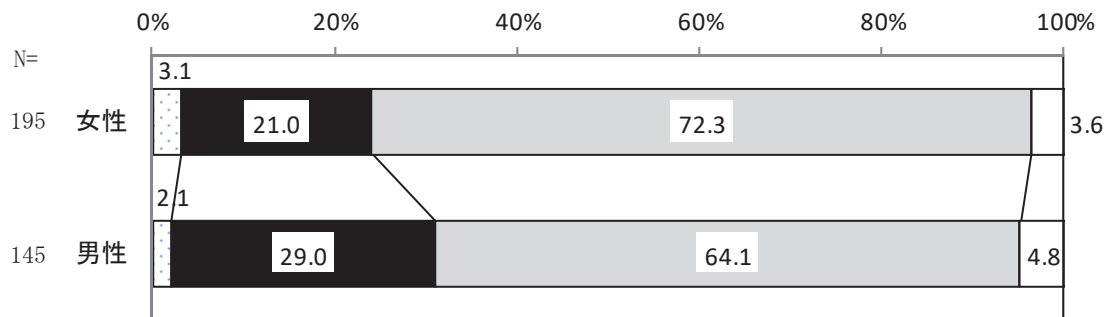
○性別年齢別では

男性の20歳代、40歳代、60歳代で「見聞きしたことはある」の割合が高くなっています。

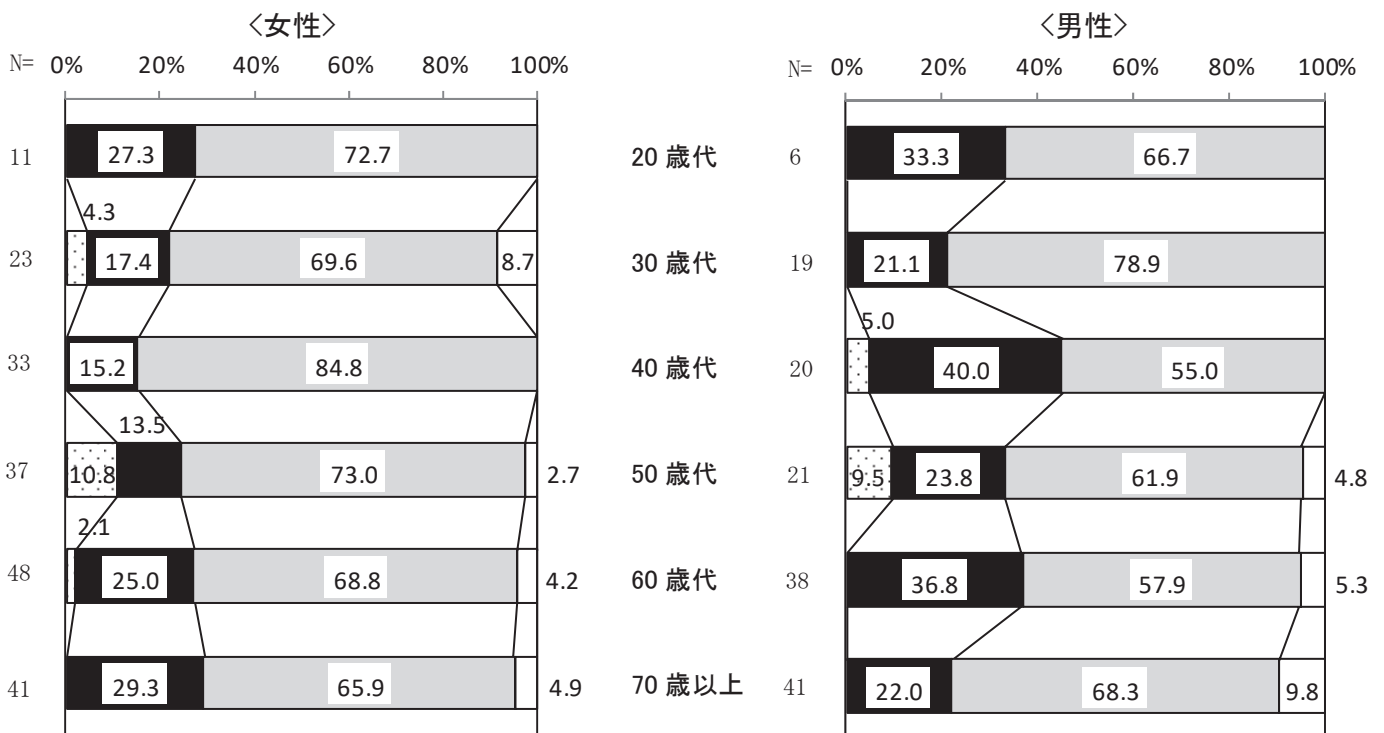
【全 体】



【性 別】



【性別年齢別】



(8) ジェンダー（社会的・文化的につくられた性別）

44.6%の人が「見聞きしたことはある」と回答

○全体では

「見聞きしたことはある」の割合が44.6%と最も高く、次いで「知らない」の割合が28.9%となっています。

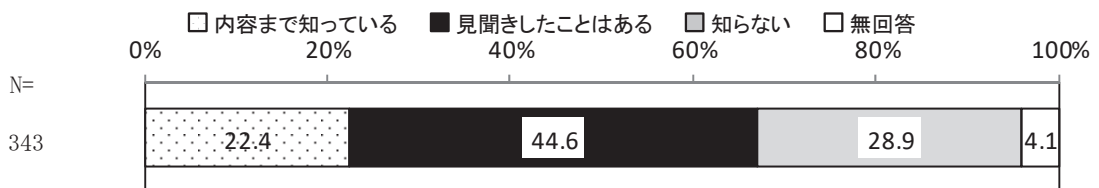
○性別では

女性に比べ、男性で「知らない」の割合が7.3ポイント高くなっています。

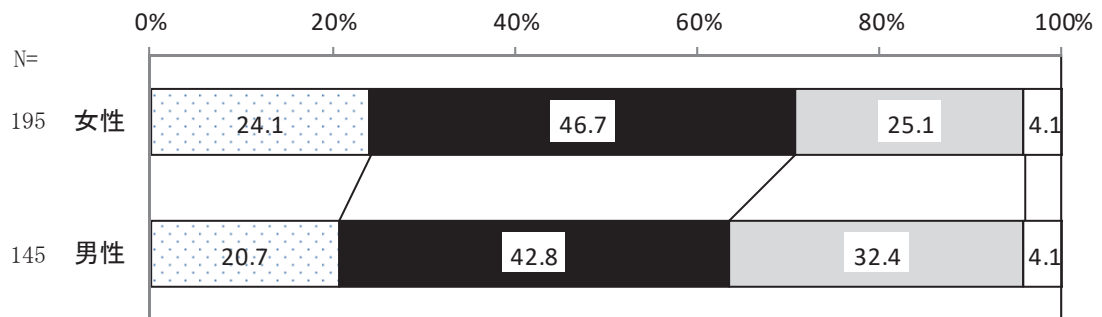
○性別年齢別では

女性の30歳代で「内容まで知っている」の割合が高くなっています。また、男女とも、70歳以上で「知らない」の割合が高くなっています。

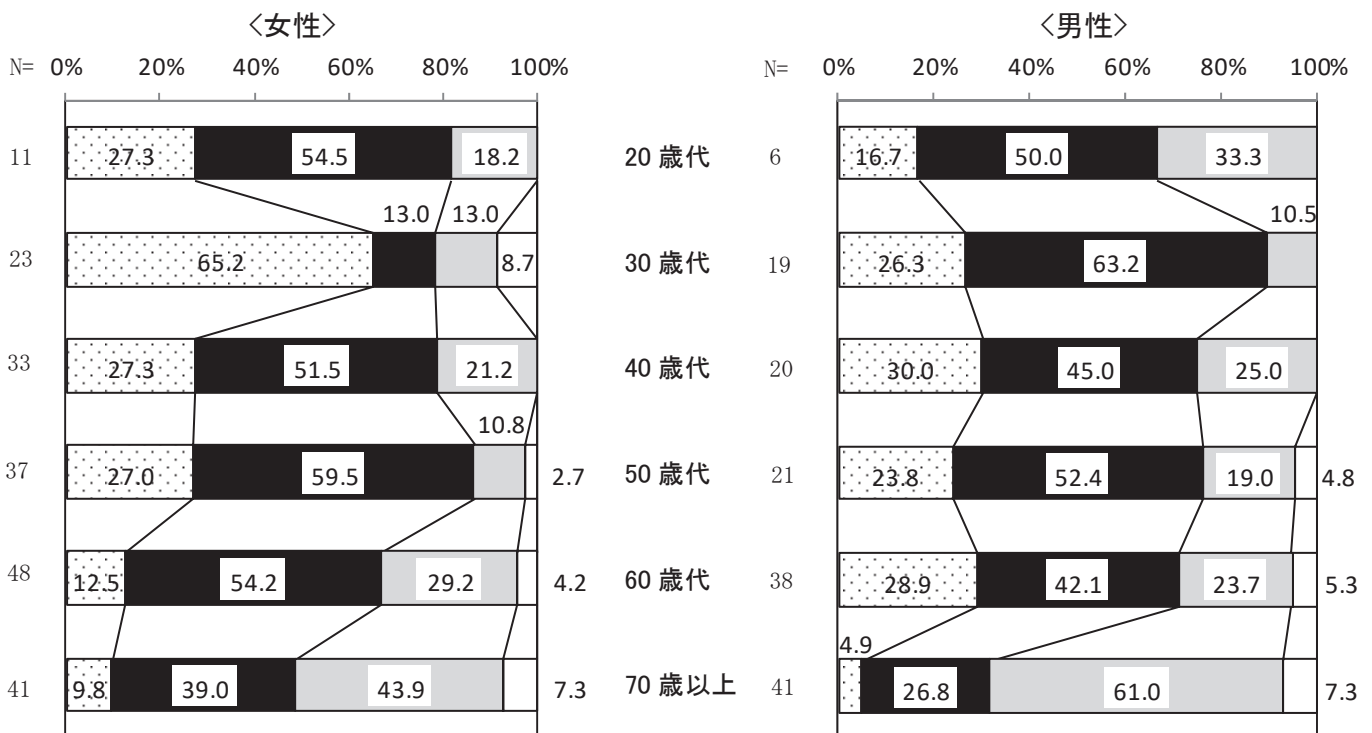
【全 体】



【性 別】



【性別年齢別】



(9) 亀岡市男女共同参画条例

59.8%の人が「知らない」と回答

○全体では

「知らない」の割合が59.8%と最も高く、次いで「見聞きしたことはある」の割合が33.5%となっています。

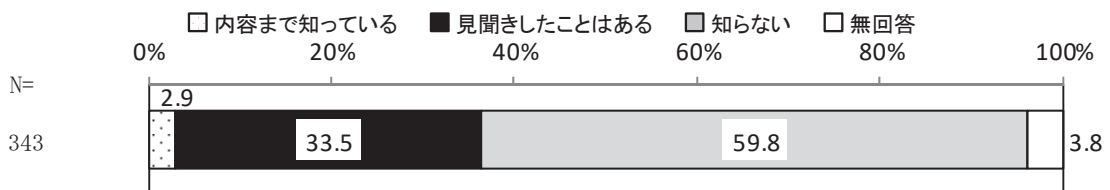
○性別では

男性に比べ、女性で「見聞きしたことはある」の割合が13.5ポイント高くなっています。また、女性に比べ、男性で「知らない」の割合が14.5ポイント高くなっています。

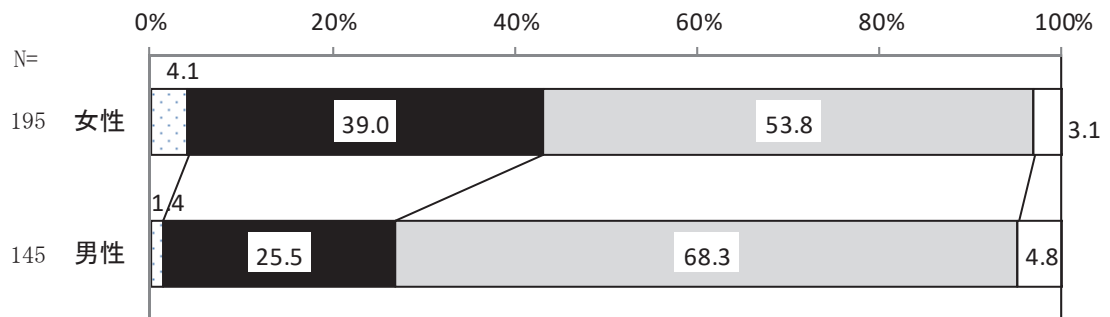
○性別年齢別では

女性の50歳代、70歳以上で「見聞きしたことはある」の割合が高くなっています。

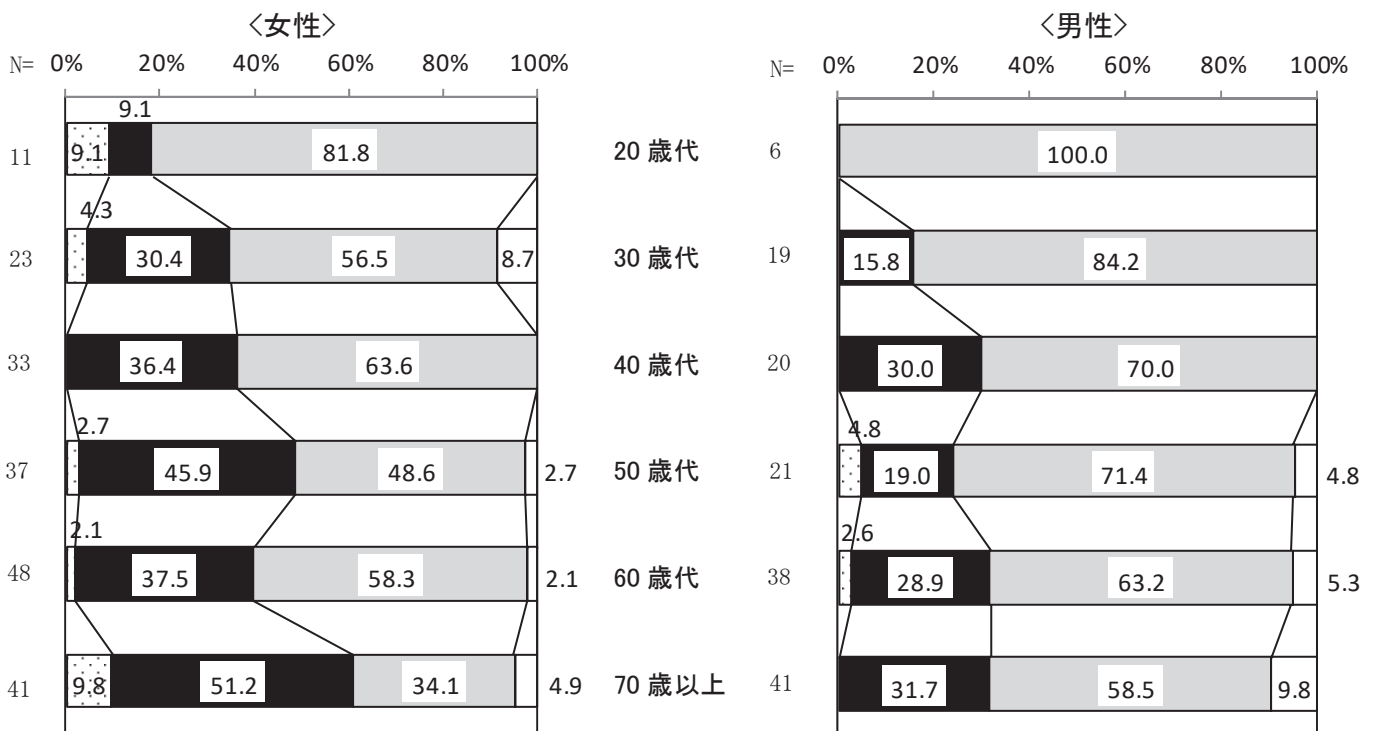
【全 体】



【性 別】



【性別年齢別】



(10) 亀岡市男女共同参画計画ゆう・あいステッププラン

73.2%の人が「知らない」と回答

○全体では

「知らない」の割合が73.2%と最も高く、次いで「見聞きしたことはある」の割合が21.0%となっています。

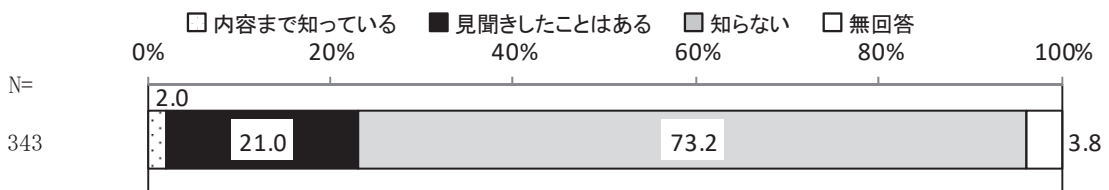
○性別では

男性に比べ、女性で「見聞きしたことはある」の割合が12.4ポイント高くなっています。また、女性に比べ、男性で「知らない」の割合が11.8ポイント高くなっています。

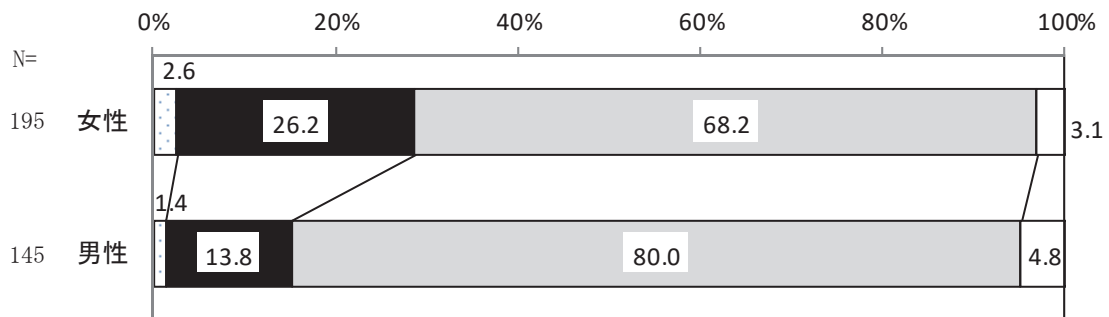
○性別年齢別では

女性の50歳代、70歳以上で「見聞きしたことはある」の割合が高くなっています。

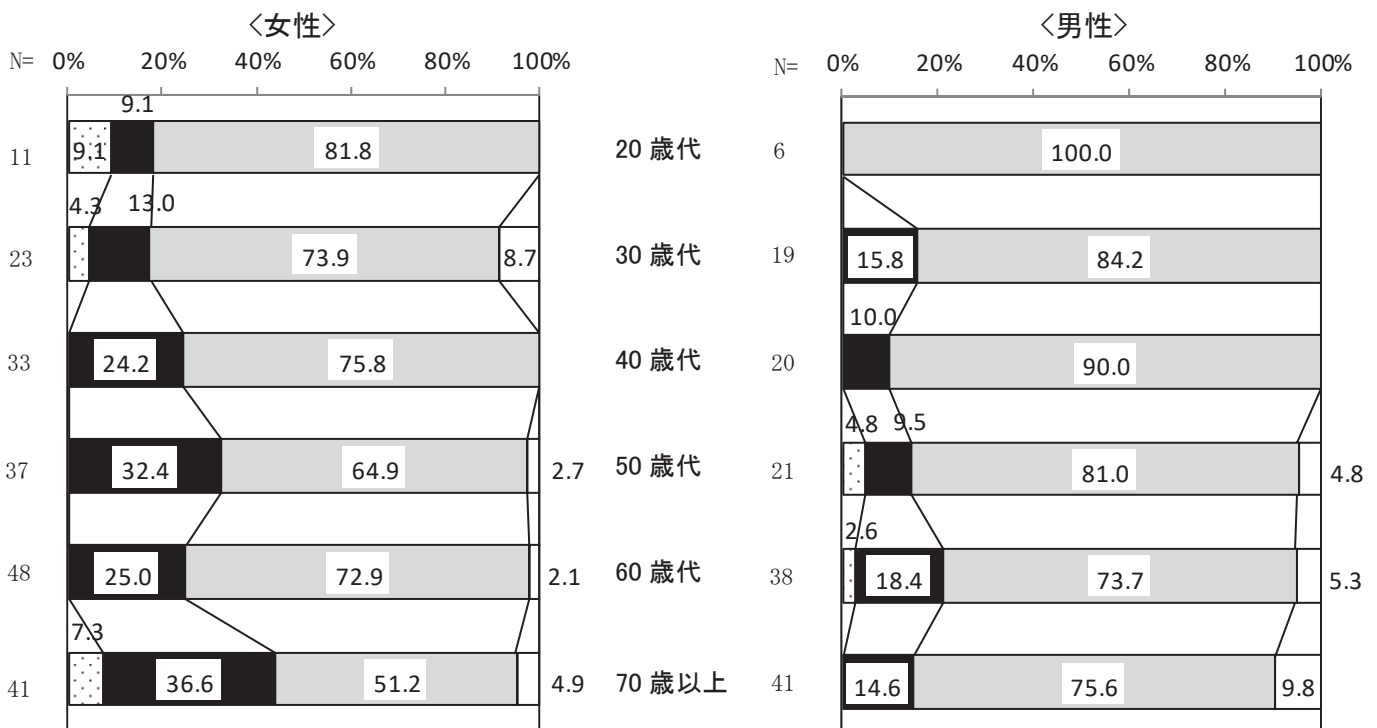
【全 体】



【性 別】



【性別年齢別】



(11) ジェンダーギャップ指数 (多様な視点から男女間格差を測った指数)

79.0%の人が「知らない」と回答

○全体では

「知らない」の割合が79.0%と最も高く、次いで「見聞きしたことはある」の割合が15.2%となっています。

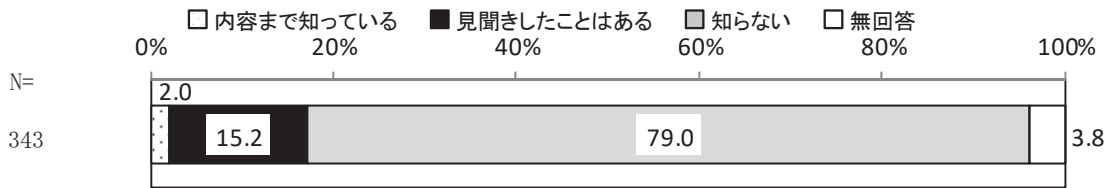
○性別では

男性に比べ、女性で「見聞きしたことはある」の割合が6.2ポイント高くなっています。

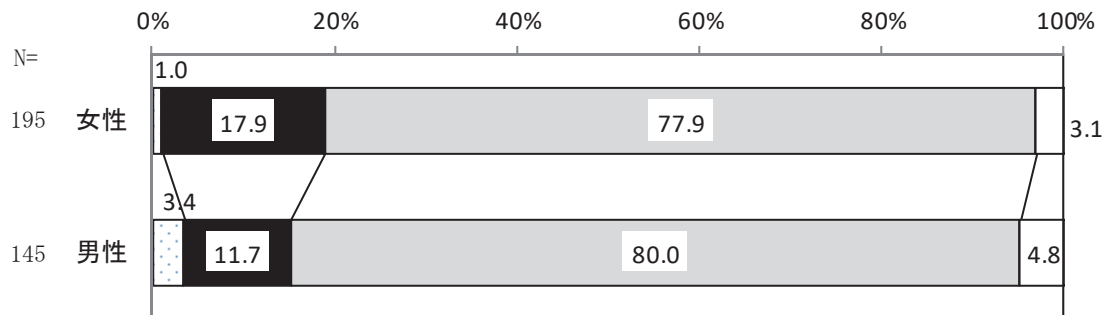
○性別年齢別では

男性の40歳代、60歳代で「見聞きしたことはある」の割合が高くなっています。

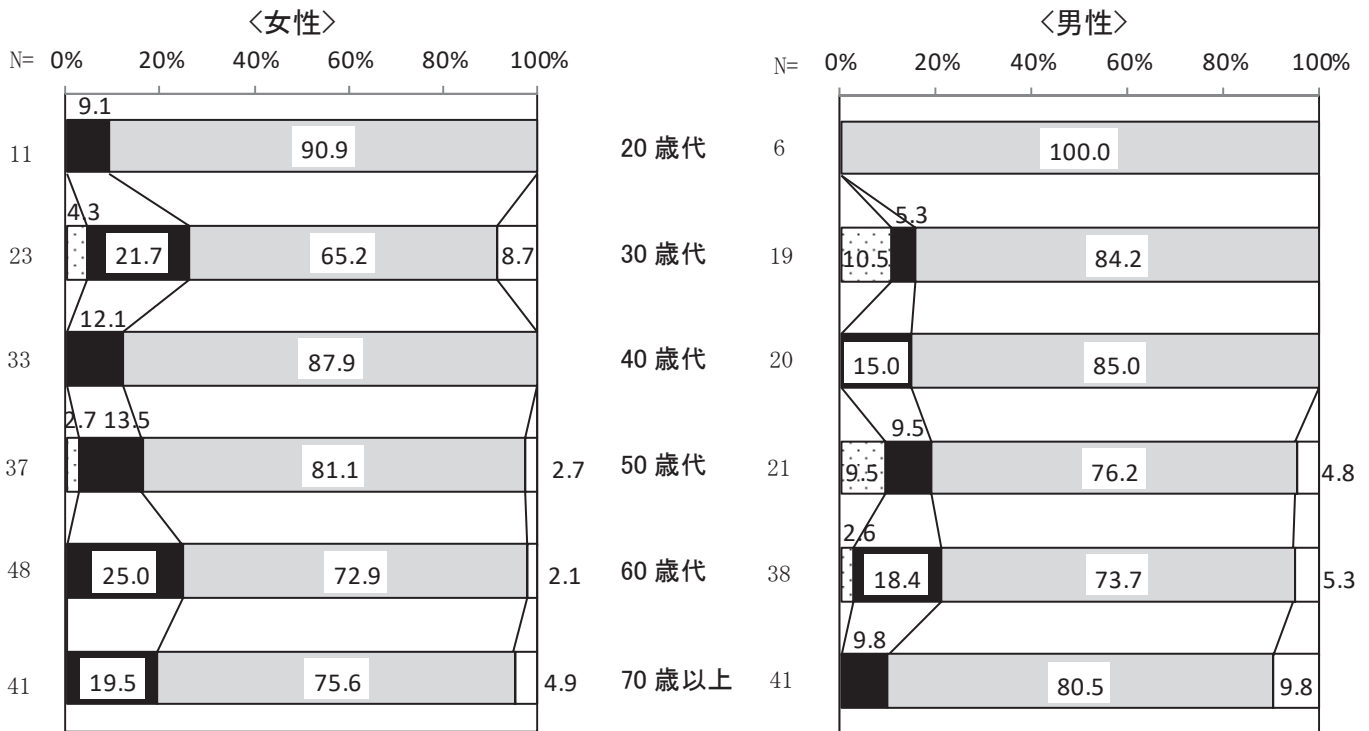
【全 体】



【性 別】



【性別年齢別】



(12) 女性活躍推進法

62.7%の人が「知らない」と回答

○全体では

「知らない」の割合が62.7%と最も高く、次いで「見聞きしたことはある」の割合が30.3%となっています。

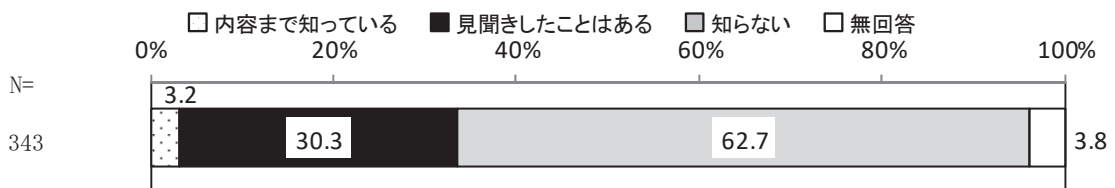
○性別では

男性に比べ、女性で「見聞きしたことはある」の割合が5.2ポイント高くなっています。また、女性に比べ、男性で「知らない」の割合が5.5ポイント高くなっています。

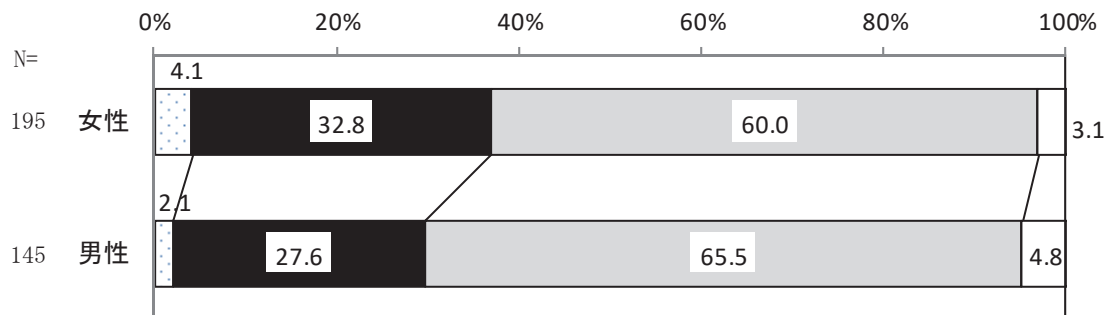
○性別年齢別では

男性の20歳代、30歳代、40歳代で「知らない」の割合が高くなっています。

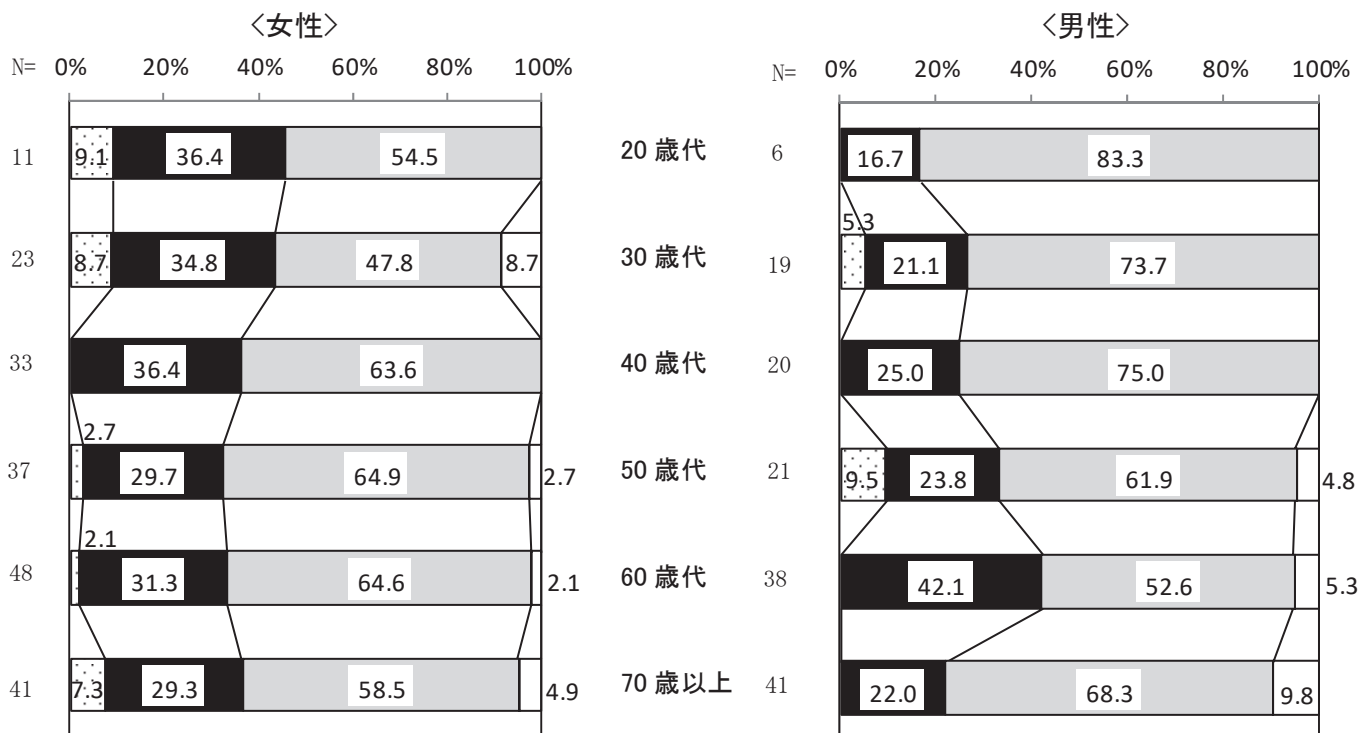
【全体】



【性別】



【性別年齢別】



(13) LGBTQ など性的少数者

42.0%の人が「見聞きしたことはある」と回答

○全体では

「見聞きしたことはある」の割合が42.0%と最も高く、次いで「知らない」の割合が37.6%となっています。

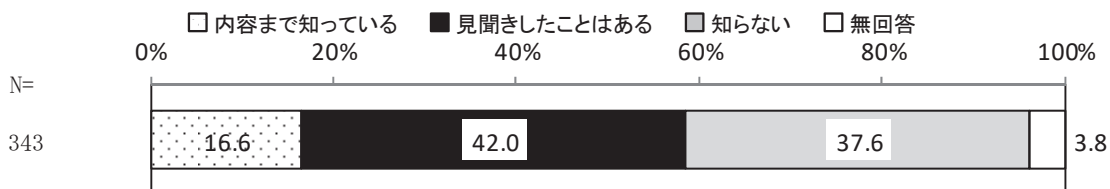
○性別では

男性に比べ、女性で「内容まで知っている」の割合が10.0ポイント高くなっています。また、女性に比べ、男性で「見聞きしたことはある」の割合が7.2ポイント高くなっています。

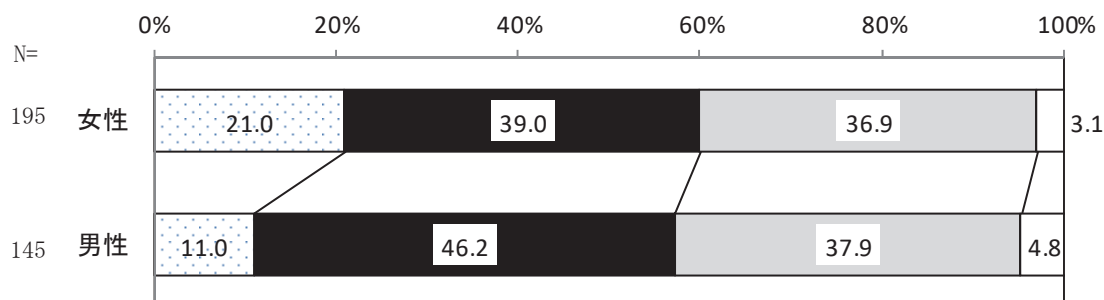
○性別年齢別では

女性の30歳代で「内容まで知っている」の割合が高くなっています。一方、男性の20歳代、70歳以上で「知らない」の割合が高くなっています。

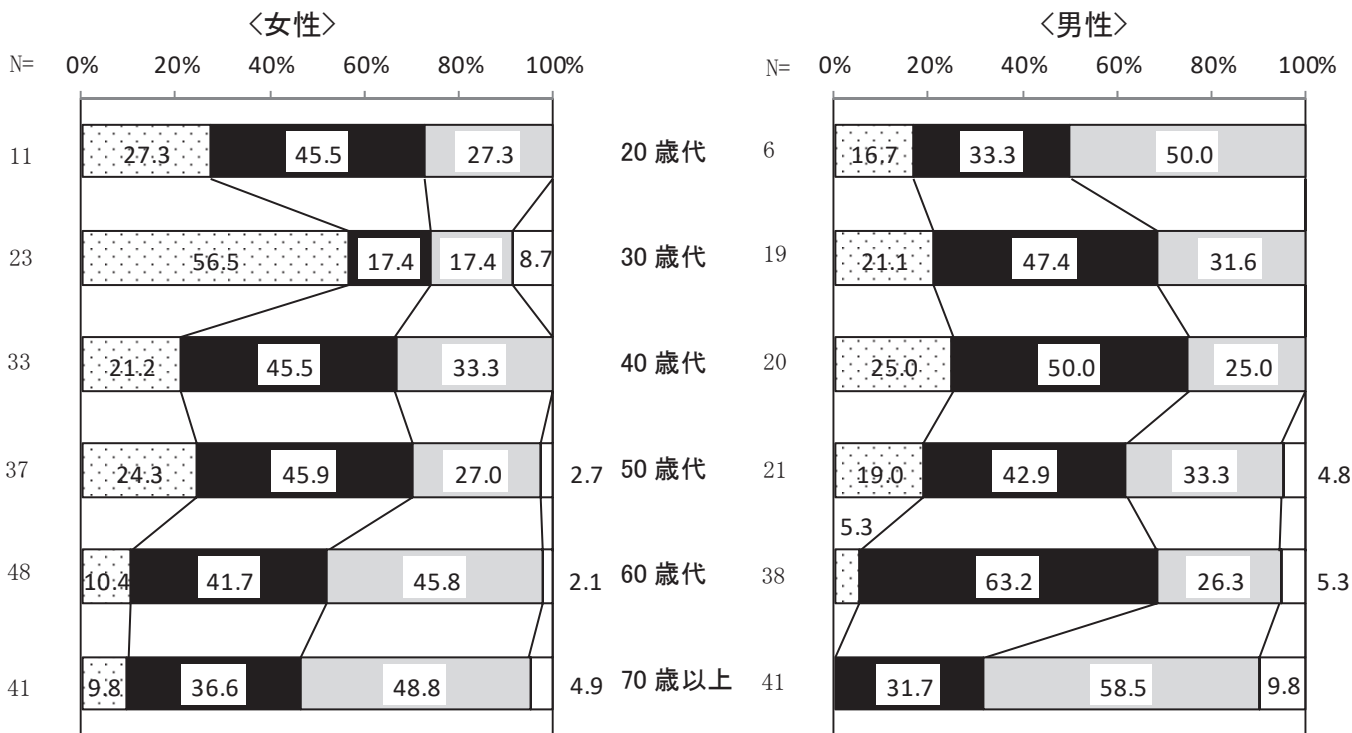
【全 体】



【性 別】



【性別年齢別】



9 男女共同参画の推進について

問 21 亀岡市は男女共同参画推進のためにこれまで様々な取組をしてきましたが、あなたは、取組が不十分な分野は何だと思えますか。あてはまる番号に○印をつけてください。(○印は3つ以内)

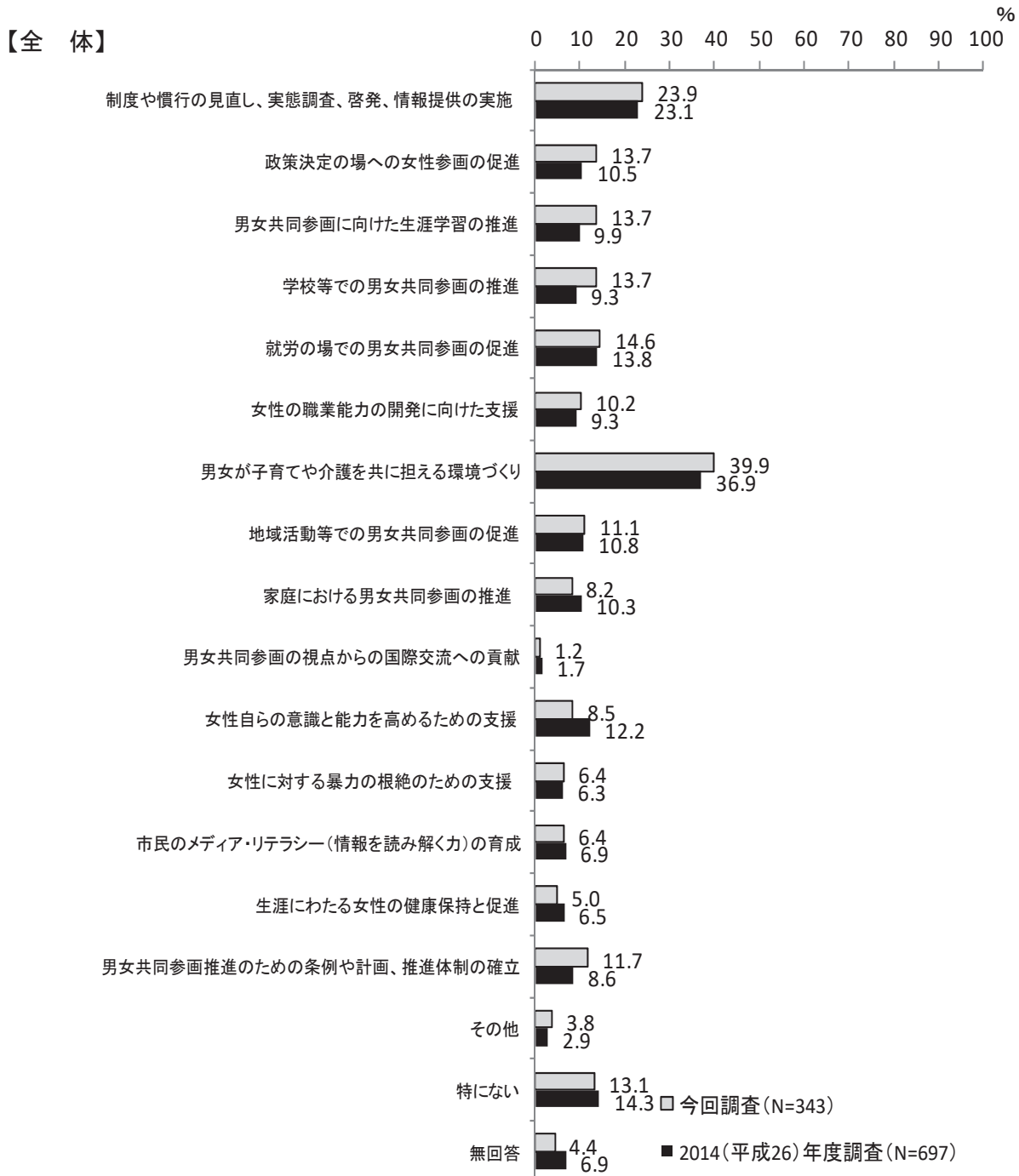
39.9%の人が「男女が子育てや介護を共に担える環境づくり」と回答

○全体では

「男女が子育てや介護を共に担える環境づくり」の割合が39.9%と最も高く、次いで「制度や慣行の見直し、実態調査、啓発、情報提供の実施」の割合が23.9%、「就労の場での男女共同参画の促進」の割合が14.6%となっています。

○2014（平成26）年度調査との比較

大きな変化はありません。



【性別】

男性に比べ、女性で「男女が子育てや介護を共に担える環境づくり」の割合が 7.2 ポイント、「女性自らの意識と能力を高めるための支援」の割合が 6.5 ポイント、「女性に対する暴力の根絶のための支援」の割合が 5.3 ポイント高くなっています。また、女性に比べ、男性で「男女共同参画推進のための条例や計画、推進体制の確立」の割合が 9.5 ポイント、「制度や慣行の見直し、実態調査、啓発、情報提供の実施」の割合が 7.8 ポイント、「地域活動等での男女共同参画の促進」の割合が 6.3 ポイント高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	制度や慣行の見直し、実態調査、啓発、情報提供の実施	政策決定の場への女性参画の促進	男女共同参画に向けた生涯学習の推進	学校等での男女共同参画の推進	就労場での男女共同参画の促進	女性の職業能力の開発に向けた支援	男女が子育てや介護を共に担える環境づくり	地域活動等での男女共同参画の促進	家庭における男女共同参画の推進
女性	195	20.5	13.3	12.3	13.3	13.3	11.8	43.1	8.2	8.7
男性	145	28.3	14.5	15.9	13.8	16.6	8.3	35.9	14.5	7.6

区分	男女共同参画の視点からの国際交流への貢献	女性自らの意識と能力を高めるための支援	女性に対する暴力の根絶のための支援	市民のメディア・リテラシー(情報を読み解く力)の育成	生涯にわたる女性の健康保持と促進	男女共同参画推進のための条例や計画、推進体制の確立	その他	特になし	無回答
女性	1.0	11.3	8.7	6.2	6.2	7.7	4.6	12.8	5.1
男性	1.4	4.8	3.4	6.2	3.4	17.2	2.8	13.1	3.4

コラム

男女共同参画推進のために 取組が不十分な分野について

国では、「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」の割合が 58.0%と最も高く、次いで「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」の割合が 57.8%となっています。

資料：国は、男女共同参画社会に関する世論調査(2019(令和元)年9月)

【性別年齢別】

男女ともに「男女が子育てや介護を共に担える環境づくり」の割合が高くなっています。また、男女ともに70歳以上で「男女共同参画に向けた生涯学習の推進」の割合が高くなっています。また、男性の20歳代で「制度や慣行の見直し、実態調査、啓発、情報提供の実施」の割合が高く、5割となっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	制度や慣行の見直し、実態調査、啓発、情報提供の実施	政策決定の場への女性参画の促進	男女共同参画に向けた生涯学習の推進	学校等での男女共同参画の推進	就労の場での男女共同参画の促進	女性の職業能力の開発に向けた支援	男女が子育てや介護を共に担える環境づくり	地域活動等での男女共同参画の促進	家庭における男女共同参画の推進
女性 20歳代	11	18.2	18.2	9.1	9.1	9.1	9.1	36.4	—	18.2
30歳代	23	21.7	8.7	—	13.0	8.7	4.3	30.4	8.7	4.3
40歳代	33	21.2	9.1	3.0	15.2	12.1	15.2	60.6	6.1	12.1
50歳代	37	16.2	8.1	13.5	18.9	13.5	8.1	40.5	13.5	8.1
60歳代	48	20.8	20.8	8.3	10.4	20.8	16.7	50.0	—	6.3
70歳以上	41	24.4	14.6	29.3	9.8	9.8	12.2	31.7	17.1	7.3
男性 20歳代	6	50.0	33.3	16.7	33.3	16.7	—	16.7	—	—
30歳代	19	21.1	—	5.3	5.3	15.8	10.5	47.4	15.8	10.5
40歳代	20	15.0	20.0	5.0	10.0	20.0	15.0	45.0	15.0	5.0
50歳代	21	33.3	14.3	4.8	9.5	19.0	4.8	38.1	4.8	9.5
60歳代	38	31.6	21.1	18.4	15.8	15.8	7.9	42.1	15.8	7.9
70歳以上	41	29.3	9.8	29.3	17.1	14.6	7.3	22.0	19.5	7.3

区分	男女共同参画の視点からの国際交流への貢献	女性自らの意識と能力を高めるための支援	女性に対する暴力の根絶のための支援	市民のメディア・リテラシー(情報を読み解く力)の育成	生涯にわたる女性の健康保持と促進	男女共同参画推進のための条例や計画、推進体制の確立	その他	特になし	無回答
女性 20歳代	—	9.1	9.1	9.1	—	—	9.1	27.3	—
30歳代	—	—	4.3	—	4.3	—	21.7	21.7	8.7
40歳代	—	9.1	6.1	—	6.1	6.1	3.0	15.2	3.0
50歳代	2.7	5.4	18.9	16.2	5.4	10.8	2.7	13.5	—
60歳代	2.1	18.8	4.2	8.3	4.2	10.4	—	8.3	8.3
70歳以上	—	17.1	9.8	2.4	12.2	9.8	2.4	7.3	7.3
男性 20歳代	—	—	—	—	—	33.3	—	33.3	—
30歳代	—	10.5	—	5.3	—	—	15.8	15.8	—
40歳代	—	5.0	—	10.0	5.0	20.0	—	5.0	10.0
50歳代	4.8	4.8	—	4.8	—	9.5	—	28.6	—
60歳代	—	2.6	10.5	2.6	2.6	21.1	—	7.9	—
70歳以上	2.4	4.9	2.4	9.8	7.3	22.0	2.4	9.8	7.3

Ⅲ 自由意見

1 男女平等に関する意識について

1	<p>男女平等の概念が女性の社会進出という考え方、つまり男性と対等になるために仕事をするという考え方自体が、仕事をしている男性が偉いという男性の考えた言い訳を認めたことになるのではないのでしょうか。女性が仕事しやすくなるのはもちろんですが、男性が家庭に入ることも当たり前にならないといけない。</p> <p>(30歳代 女性)</p>
2	<p>今のままで充分です。</p> <p>(50歳代 女性)</p>
3	<p>亀岡市の男女共同参画社会づくりのためにではないですが、男性だから～、女性だから～、そもそもどちらの性別であるべきとか、普通は～とか、～すべきとか・・・そういうものが少なくなると良いなあと思っています。</p> <p>(30歳代 女性)</p>
4	<p>男女の体質差はあるので全てを平等には無理があると思う。それに対し優劣なく、個々を認める事が出来る社会になって欲しい。</p> <p>(50歳代 女性)</p>
5	<p>男か女か、ではなく“個人”が尊重される街になると皆が住みやすくなるのでは、と考えます。女性より男性の方が力が強いだらう。若者より年配者の方が知識・経験が勝るだらう。引っ越しして間もない人より長く住んでいる人のほうが、街に愛着があるだらう。男女関係なく“言った者勝ち”が横行しています。</p> <p>(30歳代 女性)</p>
6	<p>令和時代になっても女性差別がいつこうになくならない(亀岡市も特に田舎)のは、社会において男性自身が自分のこととしてとらえられていない現状があると思います。例えば、家々で代々男尊女卑の「考え方」がうけつがれているため、意識に続いてしまう、、その現状を私も含め父親となっているものは、考えなおさないといけないと考えています。</p> <p>(40歳代 男性)</p>
7	<p>「男」「女」の前にまず「ヒト」という視点で物事を考えるべきだと思います。相手の気持ちになって考え行動する。一方で女性だけが優遇されている事もある事実を、全ての人が理解しなければならないと思います。</p> <p>(30歳代 男性)</p>
8	<p>現在私は68歳ですが、3人の子供達の夫婦間を見ていますと男女平等に感じます。女性が強くなりました。年々代が変われば、男女共同参画の推進のための取り組みも必要なくなると思います。</p> <p>(60歳代 女性)</p>
9	<p>「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」の間で「どちらかといえば反対」と回答した。「べき」とは思わないが、その家庭によって夫婦でそうしたいと思えばすればよい。「暴力をなくすためにどのようなことが必要か」の間で「被害者自身が配偶者や恋人等からの行為を暴力として認識し、行動する」と回答した。「自分が悪いから」と思い込み我慢している人が多いと思うので。</p> <p>(40歳代 女性)</p>

10	男女共同参画社会というタイトルからして時代錯誤ではないでしょうか？市民にどこまで浸透しているかは、家庭での様々な事件、事故問題、相談事も50才代くらいの私共には紐解けば、何ら前進しているようには感じません。若い世代に関しては、少しずつ浸透しているのかもしれませんが。ご主人が子供達の面倒をよく見ておられる風景を見ると30年程前にはなかったと思います。 (50歳代 女性)
----	--

2 家庭生活（家事・育児・介護）における男女共同参画について

1	子育てについて、子供が5才くらいまで親が育てるように。最近の子供に、親の愛情が足りないように思う。子供の保育を無料にするならもっと親にお金を出す社会にした方がいいと思う。 (70歳以上 男性)
2	子育てを行う男性への支援（相談窓口など）。 (30歳代 女性)
3	家庭生活を家族みんなが、できる場所を役割分担する。そういった事が社会生活が円滑に進む基となるのではと思っています。 (60歳代 女性)

3 男女共同参画による教育について

1	家庭内での男女平等は必ずしも仕事や家事を分担することだけではなくて、夫婦で互いを思い合って役割を分担することができれば上手くいくし、子供たちにも伝わると思う。その上で学校教育の場でもっと具体的に男女平等をしっかりと教えていくべきだと思う。 (40歳代 女性)
2	女性も一生働き続けることを前提で教育を受けるべき。男性も家事を手伝うではなく、することを前提で教育を受けるべき。大人になってから急に変わることは難しい。女性が出産・育児などで会社を辞めなければ、男性と対等に働くことが出来る。病児保育も充実してほしいと思います。 (40歳代 女性)
3	女性への優遇が言われているようでは改善されない。男女共に考える研修等を参加しやすい対策を。 (60歳代 男性)
4	男女平等にかたよらず、同じ人間であるという人格形成が必要である。 (70歳以上 男性)

4 地域活動における男女共同参画について

1	祭りなどの伝統的行事はまだまだ男性中心の運営なので、宗教的な制約があるかもしれないが改善が必要。 (60歳代 男性)
2	難しい言葉で言われても伝わりにくいです。平たく言えば「平等」ということでしょうか。私の田舎ではお祭りも参加できなかった。幼い頃からの生活習慣や風習で、なかなか改善しにくいことも多いと思います。子供の時代から教えて欲しいです。 (- 女性)

5 職場における男女共同参画について

1	会社（職場）の理解がないとなかなか難しいと思う。 (50歳代 女性)
2	私は高齢のため参考にならないと思います。中小企業には不利な点が多いと思います。 (70歳以上 女性)

6 男女共同参画の取り組みについて

1	亀岡市がこういう取り組みに対応されている事を（困った人を手助けされようとしている）試みが感じられ「安心できる住み良い街をめざしてほしい」と協力したく思いました。 (70歳以上 女性)
2	何をしているのか、全く見えない。 (60歳代 男性)
3	市街地から離れるほど男尊女卑の考え方が強く、十分理解できる機会も少ない。また、それに参加しようとする意識も全くない人が多く、地域に慣れるのに数年かかった。同じ亀岡市なのに地域によって理解の差があるのはなぜか？亀岡市に住む人すべてに同じ機会をもってもらえるよう活動してほしい。未だに男尊女卑が当然とと思っている人がいることに驚いた。（特に老人） (50歳代 女性)
4	個人の能力を生かせる社会が望ましいです。男女の性別の壁に気づき、風通しの良い暮らし作りに取り組んで下さっていることを、今回知りました。このアンケートでお役に立てたら幸いです。 (50歳代 女性)
5	この取り組みを老若男女、あらゆる世代の人が本当に知っているか、理解しているか、が個人的に気になります。生きてこられた世代が古い方に特に必要で、理解を強く求めて、これから良くなること望みます。職場や社会など広い視点だけでなく、家庭という小さな場所ではまだまだ男性が上という考えが強いです。 (50歳代 女性)
6	男女共同参画活動があまり、社会・地域の中で理解されていないし、具体的に見えていない感じがしている。 (60歳代 男性)
7	女性が生き生きと生活していけるような支援、地域支援も含めた取り組みが必要と考える。市民が幸せに暮らしていけるような取り組みをしていただきたいです。 (60歳代 女性)
8	第一次大戦や戦時中、働き手の男性の代わりに、女性が日常の業務を担っていました。なので、基本的に女性が出来ない業務は無いかと考えます。北欧に倣い、又男女対等の社会があった、縄文時代や室町時代を調べて、育児・介護・就業の共同参画が当たり前になる社会をめざしてください。 (40歳代 男性)

7 相談・情報について

1	具体的な例をもっと広報に・・・ (70 歳以上 男性)
2	本市の男女共同参画の実施報告や計画スケジュールを、もっと具体的かつていねいに PR して欲しい。 (70 歳以上 男性)
3	まだまだ知らない事が多いと思いました。周知徹底をお願い致します。情報に触れる機会が少ないと感じます。 (30 歳代 男性)
4	色々な相談所を作っても昨今の児相の様にならないか心配ですね。 (60 歳代 男性)
5	男女共同参画社会づくりには、一般的に又は、具体的な事例が知らされていないのでは。もっと極めて多くの方策等を広報すべきだと思う。 (70 歳以上 男性)
6	亀岡市がこのような活動に力を注いでいる事すら知らなかった。もっと活動していることを拡散して周囲に広めないといけないと思う。若い人が知らないという意味がないと思います。 (20 歳代 女性)

8 市政について

1	核家族が進み、便利さもあって個人個人が見えにくくなっています。取り残されない地域づくりで協力したいものです。 (60 歳代 女性)
2	2020 年亀岡市は色々な部分で注目される年だと思います。様々なインフラ設備も増え、益々男女共同参画社会としての取り組みや働き方、人口も増えるでしょう。そのためにも男性・女性がどちらも過ごしやすい町「亀岡」を作ってください。 (40 歳代 男性)
3	子育て中の女性の家事・育児の軽減のために、中学校完全給食を早く実現してください。むずかしい条例などよりも、市民生活に、直結した市政をしていただきたいです。幅広い女性の声を聞いて下さい。議会で有意義な議論をされることを期待します。 (30 歳代 女性)
4	大事な決め事を自身の立場を守るためだけで決定され、とても腹立たしく思っている。転校したくないのに無理矢理、次の 4 月から子供は校区変更せざるを得なくなり、どれだけ反対しても話を聞いてくれなかった。だから、男性の考えが便利に通るのだと、この先もこうなるのだと思い、期待していません。 (40 歳代 女性)
5	災害の時の避難場所の確立と、安全の対策が行われていない。自然災害への対策費用を増やし、人命を守ることを第一として政策を遂行して下さい。 (60 歳代 女性)

6	<p>亀岡市周辺の雇用の需要が少ない為、京都市等へ就労せざるを得ない状況の中、JR等のアクセスがあまりに悪い。バスも使用不可能（道が混む）。学生（中高生）は、大人と違ってもっと交通手段が限られる。男女共同参画を取り進む前に、雇用改革（働き方改革）をより具体的に推進し、運営して欲しい。雇止め（国の）、非常勤・雇用期間限定を撤廃して欲しい。子育てする女性にとって社会へ復帰する社会となっていない。それを横目に、男女平等・共同などは語れないのではないか。</p> <p style="text-align: right;">(40 歳代 女性)</p>
7	<p>働く企業誘致推進。</p> <p style="text-align: right;">(70 歳以上 女性)</p>
8	<p>シングルマザー・ファザーの子供のいる世帯が貧困世帯であるなら、その支援（食料・日用品など）が出来る様なシステムを考えてほしい。</p> <p style="text-align: right;">(60 歳代 男性)</p>
9	<p>母子家庭の支援を推進する。</p> <p style="text-align: right;">(60 歳代 男性)</p>

9 アンケートについて

1	<p>このアンケートをとおして私自身の勉強不足を感じた。</p> <p style="text-align: right;">(60 歳代 女性)</p>
2	<p>このアンケートを拝見し、答えましたが、どちらかと言えば女性の事を重視した項目ばかりで女性目線ですよね。男女共同なら男性の方も困られてる方がいると思う。また、ジェンダーの方も。かたよりすぎなアンケート目線、来年はもう少し共同とするなら改善したアンケートを望みます。</p> <p style="text-align: right;">(40 歳代 男性)</p>
3	<p>① アンケート集計結果の公表 ② アンケート者に対して集計結果の通知とそれぞれの間に対しての亀岡市としての取り組み方針</p> <p style="text-align: right;">(70 歳以上 男性)</p>
4	<p>アンケートの項目が多すぎます。</p> <p style="text-align: right;">(30 歳代 女性)</p>
5	<p>① まず幹部職員（亀岡市）のセクハラを無くす事。 ② 問 8 のように、yes、noを意図的に引き出すような問いかけではなく「どのように思いますか」でないと、答えに困りました。（他の問も含めて）アンケートは誘導的になりがちなので、十分な議論検討をする必要があると感じました。</p> <p style="text-align: right;">(60 歳代 男性)</p>
6	<p>質問項目が女性が下に見たようなものが多くておかしいと思いました。</p> <p style="text-align: right;">(30 歳代 男性)</p>

10 その他

1	特になし。 (60 歳代 男性)
2	家長の主人に守られて生活してきた私には今の女性進出の話には、わからないことばかり。あまりよき回答にならなくてすみません。 (70 歳以上 女性)
3	ここで聞かれていることとは無関係な事ですが、子供の居ない世帯は不利な事が多いと思います。子供の居る家庭ばかり、色々な面で優遇されていますね。男女平等のように、これらの事も平等にしてほしいです。 (40 歳代 男性)
4	保育士、介護士の待遇を改善して、人材をしっかりと確保してください。 (30 歳代 男性)
5	よりよい社会となりますように♡ (30 歳代 女性)

IV 調査結果のまとめと課題

○男女平等に関する意識について

各分野における男女の地位の平等感については、2014（平成 26）年度調査に引き続き、他の分野に比べて「学校教育の場」において「平等」と感じる人の割合が高くなっています。一方、「政治の場」「社会通念・慣習・しきたりなど」においては、男性優遇の割合が高くなっています。2014（平成 26）年度調査からは、「職場」「社会通念・慣習・しきたりなど」「社会全体のなか（市民活動を含む）」で「平等」の割合が高くなっており、身近なところで男女共同参画が徐々に進んできていることがうかがえます。

一方で、多くの分野において、女性は男性に比べて“男性が優遇されている”と感じ、男性は女性に比べて「平等」と感じていることから、まだまだ男女間で意識の差があることがわかります。特に、「家庭生活」「政治の場」「社会通念・慣習・しきたりなど」「社会全体のなか」では、女性が“男性が優遇されている”と感じている傾向がみられます。今後も、引き続き身近な場面からの男女平等意識の啓発がより一層必要になると考えられます。

○家庭生活・子育てについて

「家事（炊事・洗濯・掃除など）」では「主に女性」が行っていると答えた割合が 7 割以上と高くなっており、また、「子育て（子どもの世話、しつけ、教育など）」では「主に女性」の割合が約 5 割と高く、「主に男性」の割合は 0 となっています。家事や育児・介護等のいわゆる「ケア労働」は主に女性が担っていることがうかがえます。

2014（平成 26）年度調査からは、「家事（炊事・洗濯・掃除など）」と「介護（介護が必要な親の世話、病人の介護など）」が「共同して分担」する割合が高くなっており、家庭内での家事や介護を女性の仕事であるという意識が少しずつ低くなってきていると考えられます。

今後、男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動などに積極的に参加していくために必要なこととして、男性に比べ、女性で「男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」の割合が高くなっています。このことから、職場での上司や周囲の理解を深める仕掛けも必要であると考えられます。

○男女共同参画の推進について

亀岡市の男女共同参画推進のために取り組みが不十分だということについて、「男女が子育てや介護を共に担える環境づくり」の割合が最も高くなっています。

2014（平成 26）年度調査と比べると、男女ともに「男女が子育てや介護を共に担える環境づくり」の割合が増加していますが、特に男性の割合が増加しており、子育てや介護に関する意識の高まりがうかがえます。また、「男女共同参画に向けた生涯学習の推進」や「学校等での男女共同参画の推進」の割合も男女ともに増加しており、全ての世代での教育が必要と考えられます。

今後、男女共同参画を推進していくには、「男女共同参画の取り組み」を周知できていない市民に対して取り組みを広げ、男女共同参画に関する啓発、情報提供などを行っていくことが必要です。

IV アンケート調査票

調査票

「男女共同参画に係る市民の意識と実態調査」

市民の皆様には、日頃から市政の推進について、ご理解とご協力をいただき厚くお礼申し上げます。亀岡市では、男女共同参画社会の実現をめざして、様々な事業に取り組んでいるところです。

この調査は、市民の皆様にも男女共同参画に関する意識や実態についてお伺いし、今後の取り組みの資料として、活用させていただくことを目的に実施するものです。

この調査の実施にあたり、市内にお住まいの20歳以上の方の中から、1,000人を無作為に選ばせていただき、あなた様のご意見をお伺いすることになりました。

つきましては、お忙しいところ大変恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願いいたします。

- この調査では、あなたのお名前やご住所をお答えいただく必要はございません。
- ご回答いただいた内容は、秘密を厳守し、すべて統計的に処理し、行政上の基礎資料として活用させていただきます。

2019年（令和元年）10月

亀岡市

ご記入にあたってのお願い

- ご記入は、あて名のご本人にお願いいたします。
- 1つだけ回答していただくものと、複数（あてはまるものすべて）を回答していただくものがあります。また、「その他」にあてはまる場合は、（ ）内にその内容を具体的にご記入ください。
- 設問によっては、回答していただく方が限られる場合がありますので、注意書きをよくお読みください。
- スマートフォンでも回答いただくことができます。下記のQRコードを読み込んでいただき、ご回答をお願いします。
- 調査票をご記入いただいた方は、同封の返信用封筒（切手不要）に入れ、投函してください。（お名前やご住所の記入は不要です。）



回答期限：10月24日（木）

〈問い合わせ先〉

亀岡市 生涯学習部 人権啓発課 男女共同参画推進係

TEL 25-5075（直通） FAX 22-6372

E-mail: jinken-keihatsu@city.kameoka.lg.jp

あなたご自身のことについて、おたずねします

問1 あなたの性別をお書きください。(ご自身が認識する性別についてお書きください。)

性別 ()

※この調査では、男女の意識や行動の違いを把握する必要があるために伺っています。

問2 あなたの年齢をお書きください。

年齢 () 歳

問3 あなたは結婚されていますか。(1つだけに○印)

- | | |
|------------------------|-----------|
| 1 結婚している (再婚も含む) | 4 死別した |
| 2 結婚していないがパートナーと暮らしている | 5 結婚していない |
| 3 離別した | |

問4 あなたの現在の世帯構成は次のどれにあてはまりますか。(1つだけに○印)

- 1 単身世帯 (一人住まい)
- 2 1世代世帯 (夫婦のみ) (事実婚などを含む)
- 3 2世代世帯 (親と子ども)
- 4 3世代世帯 (親と子どもと孫)
- 5 その他 (具体的に)

問5 あなたの職業をお答えください。(1つだけに○印)

※2つ以上あてはまる場合は、そのうち主なもの1つに○印をつけてください。

- 1 正社員・正職員
- 2 非正規社員・非正規職員 (パート・アルバイト・契約社員、派遣社員など)
- 3 役員 (法人・団体役員など)
- 4 自営業、自由業
- 5 学生
- 6 家事専業 (主婦、主夫)、家族従業者
- 7 無職 (上記を除く)
- 8 その他 ()

だんじょびょうどう かん いしき
男女平等に関する意識について、おたずねします

問6 あなたは、現在、次の分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。(1)～(8)のそれぞれについて、あなたの考えに近いものを選んでください。(それぞれ1つずつに○印)

項目	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	優遇されている女性の方が非常に	わからない
(1) 家庭生活で	1	2	3	4	5	6
(2) 職場で	1	2	3	4	5	6
(3) 学校教育の場で	1	2	3	4	5	6
(4) 自治会など地域活動の場で	1	2	3	4	5	6
(5) 政治の場で	1	2	3	4	5	6
(6) 法律や制度のうえで	1	2	3	4	5	6
(7) 社会通念・慣習・しきたりなどで	1	2	3	4	5	6
(8) 社会全体のなかで (市民活動を含む)	1	2	3	4	5	6

問7 あなたは、男女共同参画社会を目指すためには、どのようなことが重要だと思いますか。あてはまる番号に○印をつけてください。(○印は3つ以内)

1	法律や制度のうえでの見直しを行い、女性差別につながるものを改める
2	女性に対する偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改める
3	女性を政策決定の場に積極的に登用する
4	各諸団体の女性のリーダーを養成する
5	職場における男女の均等な取扱いについて周知徹底する
6	女性の社会進出を促進するための職業教育や職業訓練を充実する
7	仕事と家庭生活などの両立支援制度を充実する
8	女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図る
9	学校教育や社会教育・生涯学習の場で、男女の平等と相互の理解や協力について学習を充実する
10	女性の健康増進と母性保護の充実を一層進める
11	男女共同参画についての相談窓口を充実する
12	男女の平等と相互の理解や協力についての広報・啓発を進める
13	男性の家事、子育て、介護、地域活動への参加を促す
14	わからない
15	その他(具体的に)

問8 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方がありますが、あなたはこの考えに同感しますか。(1つだけに○印)

- 1 同感する (賛成)
- 2 どちらかといえば賛成
- 3 どちらかといえば反対
- 4 同感しない (反対)
- 5 わからない

家庭生活・子育てについて、おたずねします

問9 あなたの家庭では、(1)～(8)のそれぞれについて、主に男性、女性のどちらが行っていますか。あてはまる番号に○印をつけてください。(それぞれ1つずつに○印)

項目	主に女性	共同して分担	主に男性	その他	該当しない
(1) 家事 (炊事・洗濯・掃除など)	1	2	3	4	5
(2) 子育て (子どもの世話、しつけ、教育など)	1	2	3	4	5
(3) 介護 (介護が必要な親の世話、病人の介護など)	1	2	3	4	5
(4) 地域の行事への参加、自治会活動	1	2	3	4	5
(5) PTA活動	1	2	3	4	5
(6) 生活費 (年金を含む) の確保	1	2	3	4	5
(7) 会計の管理	1	2	3	4	5
(8) 高価な商品や土地、家屋の購入決定	1	2	3	4	5

問10 あなたは、今後、男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動などに積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。
 あてはまる番号に○印をつけてください。(○印は3つ以内)

- 1 男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと
- 2 男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと
- 3 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること
- 4 年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること
- 5 社会のなかで、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高めること
- 6 労働時間の短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間を多く持てるようにすること
- 7 男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行うこと
- 8 国や地方自治体などの研修等により、男性の家事や子育て、介護等の技能を高めること
- 9 男性が子育てや介護、地域活動を行うための、仲間(ネットワーク)作りをすすめること
- 10 家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること
- 11 男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること
- 12 その他(具体的に)
- 13 特に対策の必要はない

しごと 仕事について、おたずねします

問11-1 勤めている人(パート・アルバイトなどを含む)におたずねします。
 あなたの職場の男女構成について、あてはまる番号に○印をつけてください。
 (1つだけに○印)

- 1 女性だけの職場
- 2 男性だけの職場
- 3 女性と男性が同じくらいの職場
- 4 女性が多い職場
- 5 男性が多い職場

問11-2 問11-1で「女性と男性が同じくらいの職場」、「女性が多い職場」、「男性が多い職場」のいずれかに○印をつけた人におたずねします。（「女性のための職場」、「男性のための職場」のどちらかに○印をつけた人は、問12に進んでください。）
あなたの職場では、次のようなことがありますか。（1）～（11）の項目について、あてはまる番号に○印をつけてください。（○印は1つずつ）

項目	そう思う	そう思う どちらかといえば	そう思わない どちらかといえば	そう思わない
(1) 採用条件が女性に不利	1	2	3	4
(2) 女性は男性より賃金が低い、昇進が遅い	1	2	3	4
(3) 能力評価が男女平等ではない	1	2	3	4
(4) 女性は管理職に登用されにくい	1	2	3	4
(5) 配置転換に性別による差がある	1	2	3	4
(6) 能力のある女性でも、男性より就きにくい職種がある	1	2	3	4
(7) 補助的な仕事や雑用が女性に偏っている	1	2	3	4
(8) 結婚や出産に際して、女性が働き続けることが難しい	1	2	3	4
(9) 男性の方が育児休暇や介護休暇がとりにくい	1	2	3	4
(10) 男性の方が残業が多い	1	2	3	4
(11) 人員削減する場合は、男性より女性の方が解雇されやすい	1	2	3	4

問12 あなたは、男女がともに働きやすい環境をつくるためには、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまる番号に○印をつけてください。（○印は3つ以内）

1 育児・介護休業などの休業中に所得保障があること	
2 保育サービスなどの子育て支援策を充実すること	
3 地域で自主的な子育てや介護支援ができるようなネットワークをつくること	
4 在宅勤務やフレックスタイム制など柔軟な働き方ができること	
5 長時間労働を容認する職場の雰囲気は是正すること	
6 介護負担を軽減するための介護サービスを充実すること	
7 一度、職を離れても、子育て後には職場復帰しやすくすること	
8 再就職、再チャレンジに関する施策が充実すること	
9 セクシュアル・ハラスメントなど職場の中の性的な嫌がらせをなくすこと	
10 家族の積極的な支援や協力があること	
11 男女の待遇を均等にすること	
12 パート・アルバイトなどの待遇を改善すること	
13 その他（具体的に)
14 わからない	

はいぐうしゃ こいびととう ぼうりよく
配偶者・恋人等からの暴力について、おたずねします

問13 あなたはこれまでに、あなたの配偶者（事実婚や別居中を含む）や恋人から、次のようなことをされたことがありますか。

(1)～(12)の項目について、あてはまる番号に○印をつけてください。(○印は1つずつ)

項 目	何 度 も あ っ た	一 、 二 度 あ っ た	ま っ た く な い	も し か し た ら そ う か も し れ な い
(1) 命の危険を感じるくらい の 暴行を受けた	1	2	3	4
(2) 医師の 治療が必要となるような 暴行を受けた	1	2	3	4
(3) 医師の 治療が必要ではない程度 の暴行を受けた	1	2	3	4
(4) いやがっているのに、 性的な行為を強要 された	1	2	3	4
(5) 目の前で家具や物を壊したり、 投げつけたりして威嚇 された	1	2	3	4
(6) 避妊に 協力 しなかった	1	2	3	4
(7) 何を言っても、 無視 され続けた	1	2	3	4
(8) 交友関係や電話、郵便物を細かく 監視 された	1	2	3	4
(9) 「誰のおかげで生活できるのか」や「 役立たず 」など、 人格を否定 することを言われた	1	2	3	4
(10) 大声 でどなられた	1	2	3	4
(11) 生活費を渡さないなど、 経済的に押さえつけ られた	1	2	3	4
(12) 子どもの前で 暴力を振るう 、子どもに 自分の悪口 を言うなどされた	1	2	3	4

問14 問13で「何度もあった」、「一、二度あった」、「もしかしたらそうかもしれない」に○をつけた人におたずねします。（「まったくない」に○をつけた人は、問15に進んでください。）
あなたは、その行為について、誰かにうちあけたり相談したりしましたか。
あてはまる番号に○印をつけてください。

- 1 警察に連絡・相談した
- 2 人権擁護委員・法務局などに相談した
- 3 女性相談所、女性相談員に相談した
- 4 市役所の相談窓口相談した
- 5 その他の公共機関に相談した
- 6 民間の相談機関やカウンセラーに相談した
- 7 医師・カウンセラーに相談した
- 8 弁護士に相談した
- 9 学校の先生、スクールカウンセラーに相談した
- 10 家族や親族に相談した
- 11 友人や知人に相談した
- 12 その他（具体的に
- 13 どこにも相談しなかった

問15 あなたは、配偶者や恋人等からの暴力をなくすためには、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまる番号に○印をつけてください。（○印は3つ以内）

- 1 学校での人権教育に基づいた男女平等や性に関する学習を充実する
- 2 大学、企業、地域等での暴力防止のための人権研修を充実する
- 3 被害者に対する情報提供や相談窓口体制を充実する
- 4 被害者が避難できる場所の整備など保護体制を充実する
- 5 被害者の自立を支援する体制を充実する
- 6 警察がもっと積極的に対応する
- 7 加害者に対するカウンセリングや教育などを進める
- 8 暴力の早期発見・対応のため、関係機関の連携を充実する
- 9 被害者自身が配偶者や恋人等からの行為を暴力として認識し、行動する
- 10 被害者が早期に相談できるよう身近な相談窓口を増やす
- 11 加害者への罰則を強化する
- 12 地域で暴力防止のための研修会、イベントを行う
- 13 その他（具体的に
- 14 特に対策の必要はない

しゃかいかつどう さんか
社会活動への参加について、おたずねします

問16 あなたは、次のような活動に参加していますか。

(1)～(9)の項目について、あてはまる番号に○印をつけてください。

(○印は1つずつ)

項 目	参加する よく	参加する 時々	参加しない まったく
(1) 趣味・学習・スポーツ活動	1	2	3
(2) 自治会などの役員活動	1	2	3
(3) PTA、子ども会などの地域活動	1	2	3
(4) 消費生活活動や住民運動(共同購入やリサイクルなど)	1	2	3
(5) 福祉・ボランティア活動	1	2	3
(6) 政治活動や労働組合活動	1	2	3
(7) 宗教活動	1	2	3
(8) 審議会委員などの公的な委員活動	1	2	3
(9) NPOの活動	1	2	3

問17 あなたが、社会的な活動に参加しようと思うとき、支障となることはどのようなことですか。

あてはまる番号に○印をつけてください。(○印は3つ以内)

1	仕事や家事が忙しい	
2	病気などで体調が悪い	
3	小さな子どもや介護が必要な人がいる	
4	家族の理解が得られない	
5	参加したいが活動の情報が少ない	
6	参加したい活動がない	
7	一緒に参加する仲間がいない	
8	活動する場所や施設が少ない	
9	時間帯が合わない	
10	経済的な余裕がない	
11	その他(具体的に)
12	特にない	

さいがい
災害について、おたずねします

問18 大災害が発生し避難が必要になった時、あなたはどのようなことが心配ですか。
あてはまる番号に○印をつけてください。(○印は2つまで)

- 1 災害についての的確な情報が得られるか
- 2 家族との連絡がとれなくなるのではないか
- 3 病人・高齢者・障がい者を連れて安全に避難できるか
- 4 子どもや乳幼児を連れて安全に避難できるか
- 5 近所の人たちと助け合って避難できるか
- 6 避難場所が安全か
- 7 ペットと一緒に避難できるか
- 8 自分自身が病気などで体調が悪いので、避難できるか
- 9 その他 ()

問19 防災・災害復興対策で男女の性別に配慮して取り組む必要があると思うことは何ですか。
あてはまる番号に○印をつけてください。(○印は3つまで)

- 1 避難所の設備 (男女別トイレ・更衣室、防犯対策)
- 2 避難所運営の責任者に女性が配置され、被災者対応に女性の視点が入ること
- 3 乳幼児、高齢者、障がい者、病人、女性 (女性用品) に対する備えやニーズの把握、支給する際の配慮
- 4 災害時の救急医療体制 (診察・治療体制、妊産婦)
- 5 被災者に対する相談体制
- 6 対策本部に女性が配置され、対策に女性の視点が入ること
- 7 防災計画・復興計画策定過程、防災会議に女性が参画すること
- 8 その他 ()

だんじょきょうどうさんかく かん しさく
男女共同参画に関する施策について、おたずねします

問20 あなたは、男女共同参画に関する事項について、どの程度ご存じですか。

(1)～(10)それぞれについて、あてはまる番号に1つつつ〇印をつけてください。

こ う 項 目	内 容 ま で 知 っ て い る	見 聞 き し た こ と は あ る	知 ら な い
(1) 男女共同参画社会	1	2	3
(2) 男女雇用機会均等法	1	2	3
(3) 女子差別撤廃条約	1	2	3
(4) ワーク・ライフ・バランス (仕事と生活の調和)	1	2	3
(5) ストーカー規制法	1	2	3
(6) 配偶者暴力防止法(DV防止法)	1	2	3
(7) ポジティブ・アクション (積極的改善)	1	2	3
(8) ジェンダー (社会的・文化的につくられた性別)	1	2	3
(9) 亀岡市男女共同参画条例	1	2	3
(10) 亀岡市男女共同参画計画ゆう・あいステッププラン	1	2	3
(11) ジェンダーギャップ指数 (多様な視点から男女間格差を測った指数)	1	2	3
(12) 女性活躍推進法	1	2	3
(13) LGBTQなど性的少数者	1	2	3

だんじょきょうどうさんかく すいしん
男女共同参画の推進について、おたずねします

問21 亀岡市は男女共同参画推進のためにこれまで様々な取組をしてきましたが、あなたは、取組が
不十分な分野は何だと思えますか。

あてはまる番号に○印をつけてください。(○印は3つ以内)

- 1 制度や慣行の見直し、実態調査、啓発、情報提供の実施
- 2 政策決定の場への女性参画の促進
- 3 男女共同参画に向けた生涯学習の推進
- 4 学校等での男女共同参画の推進
- 5 就労の場での男女共同参画の促進
- 6 女性の職業能力の開発に向けた支援
- 7 男女が子育てや介護を共に担える環境づくり
- 8 地域活動等での男女共同参画の促進
- 9 家庭における男女共同参画の推進
- 10 男女共同参画の視点からの国際交流への貢献
- 11 女性自らの意識と能力を高めるための支援
- 12 女性に対する暴力の根絶のための支援
- 13 市民のメディア・リテラシー（情報を読み解く力）の育成
- 14 生涯にわたる女性の健康保持と促進
- 15 男女共同参画推進のための条例や計画、推進体制の確立
- 16 その他（具体的
- 17 特にな

問22 亀岡市の男女共同参画社会づくりのために、ご意見やご要望がありましたら、自由にご記入
ください。

ご協力ありがとうございました。

ご多用のところ恐縮ですが、ご記入いただきました調査票は、
同封の返信用封筒（切手不要）に入れ、

10月24日（木）までに投函してください。

（お名前やご住所の記入は不要です。スマートフォンで回答いただいた方は投函不要です。）